

種子植物

C 要保護生物



ナツエビネ 2002.8.28 君津市 木村陽子

D 一般保護生物



エビネ 2004.5.2 君津市 木村陽子



C ハママツナ 1998年9月 袖ヶ浦市 大場達之 266ページ



C ヌカボタデ 2008年10月19日 多古光湿原 谷城勝弘 264ページ



C ホソバノウナギツカミ 1978年 9月 愛知県 大場達之 264ページ



C アオヒメタデ 2003年9月6日 成田市 谷城勝弘 274ページ



C ホソバイヌタデ 1993年9月 旧関宿町 大場達之 265ページ



C スハマスウ 1999年3月 本埜村 大場達之 267ページ



C イチリンソウ 2007年4月22日 佐倉市 谷城勝弘 267ページ



C ハタザオ 1998年5月13日
九十九里町 大場達之 269ページ



C フモトスミレ 1998年4月30日 清澄山
大場達之 276ページ



C コモウセンゴケ
市原市 平田和弘 269ページ



C コダイコンソウ 2003年5月11日 大多喜町 堀内洋
271ページ



C モウセンゴケ 1999年7月22日 茂原市
大場達之 269ページ



D ヒロハノカワラサイコ 2006年7月
30日 印西市 大場達之 317ページ



C カワラサイコ 茨城県 2002年7月 大場達之 271ページ



D シャクジョウソウ 2004年6月12日 市川市 福田洋 321ページ



D マルミギンリョウソウ 2008年5月5日 千葉市 (左), 2001年6月 君津市 大場達之 (右) 322ページ



C マルバチシャノキ 2005年6月12日 鴨川市 福田洋 283ページ



C サツマイナモリ 2004年12月 鴨川市四方木 谷城勝弘 283ページ



C スナビキソウ 2001年5月 館山市 大場達之 283ページ



D タニギキョウ 2005年5月1日 多古町間倉 谷城勝弘 327ページ



D ミゾコウジュ 1995年6月8日 佐原市 腰野文男 325ページ



C アマナ 佐倉市 1996年5月3日 大場達之
293ページ



C ウキシバ 1989年8月26日 千葉市 大場達之 298ページ



C ミクリ 成田市大袋 2005年
6月26日 谷城勝弘 298ページ



C クロヒロハイヌノヒゲ 2008 年10月13日
横芝光町 谷城勝弘 296ページ



C イトイヌノヒゲ 2003年10月5日
長生村藪塚 谷城勝弘 295ページ



C ホシクサ 2003年10月5日 長生村藪塚 谷城勝弘 295ページ



C ニッポンイヌノヒゲ 2006年9月30日 成田市江弁須
谷城勝弘 296ページ



D オオアオスゲ 2005年5月3日 佐倉市竊木
谷城勝弘 335ページ



D ヒゲスゲ 2006年6月4日 銚子市犬若 谷城勝弘 336ページ



D オニスゲ 2006年6月17日 成田市不動ヶ丘 谷城勝弘 334ページ



C タチスゲ 2006年5月14日 横芝光町宮川乾草沼 谷城勝弘
300ページ



D ジョウロウスゲ 2006年5月30日 我孫子市 谷城勝弘
334ページ



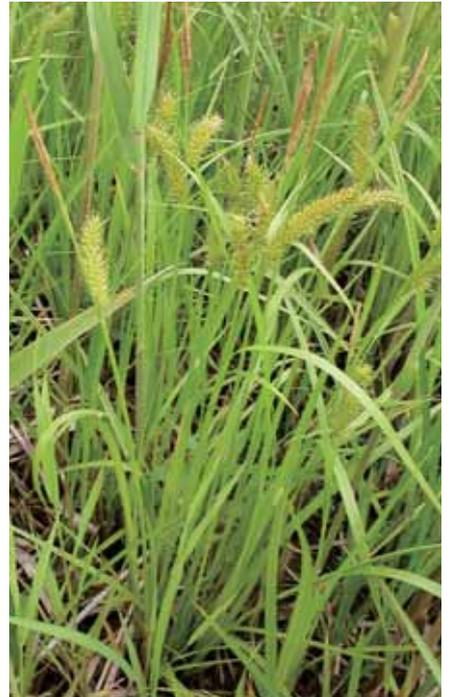
C ミヤマシラスゲ 2005年5月29日 東金市滝沢 谷城勝弘 301ページ



D シオクゲ 2006年5月14日 旧光町 谷城勝弘 337ページ



C オオクゲ 2004年5月8日 東庄町新宿 谷城勝弘 302ページ



D オニナルコスゲ 2004年5月4日 多古光 湿原 谷城勝弘 338ページ



C オオアゼテンツキ 2005年7月17日 成田市 谷城勝弘 303ページ



C ナガボテンツキ 2008年9月15日 東庄町 谷城勝弘 304ページ



C ピロードテンツキ 2004年9月4日 旭市東足洗浜 谷城勝弘 304ページ



C コアゼテンツキ 2007年10月21日 我孫子市 谷城勝弘 303ページ



D アオテンツキ 2004年10月2日 睦沢町妙楽寺 谷城勝弘 340ページ



D ヒトモトススキ 2007年9月9日 旧海上町蛇園
谷城勝弘 338ページ



C クロヤツシロラン 1998年10月 印旛村松虫 大場達之 308ページ



C ヒゲアブラガヤ 2006年7月2日 横芝光町 谷城勝弘
305ページ



C ツチアケビ (左:果実) 1998年 市原市 平田和弘、
(右:花) 1996年6月30日 長柄町 福田洋 308ページ



C ヒメアオガヤツリ 2004年10月2日 睦沢町 妙楽寺
谷城勝弘 303ページ



C ササバギンラン 1998年4月 佐倉市 大場達之 307ページ



C ギンラン 2008年5月5日 千葉市 大場達之 306ページ



C サガミラン 1990年6月 千葉市 大場達之 307ページ



C サイハイラン 流山市 2008年5月 木村陽子 307ページ



C オニノヤガラ 2008年6月19日 千葉市 成田篤 308ページ

C イブキ ヒノキ科

要保護

Juniperus chinensis L.

【種の特性】常緑高木。海岸の崖、時に礫浜、稀に内陸の岩場に生育する。葉は鱗片状で対生。風媒で鳥散布。[N~M] ツルオオバマサキ - トベラ群集またはウバメガシ群集。

【分布】本州（北部以南）・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】鋸南町、館山市、鴨川市の海岸に見られる。館山市崖観音（大福寺）、鋸南町勝山の岩井袋及び大黒山にあることは地元では古くから知られてきたが、植物研究者には認識されていなかった。



鴨川の仁右衛門島に分布することは糟谷由助が報告している。

【保護対策】崖に生えるので人為の影響は比較的少ないが、古くから盆栽用として小形の株が採取されており、このような行為を行わないことが望ましい。庭園・街路などにしばしば植栽される（特に品種のカイズカイブキ）ので、それとの遺伝的交雑を防ぎ、千葉県の子体群の遺伝的特性を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 67, 83.

(齊木健一)

C カシワ ブナ科

要保護

Quercus dentata Thunb. ex. Murray

【種の特性】夏緑高木。北海道では砂丘や火山灰地などに見られるが、千葉県ではシイ・カシ帯の海岸の崖などにも生える。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。[N~M] ブナ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】海岸近くの崖、稜線などに点々と見られる。県北部では植栽されたものと自生との見分けが難しい。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 :

111, 108.

(大場達之)



C ネズ ヒノキ科

要保護

Juniperus rigida Siebold et Zucc.

【種の特性】常緑中高木。乾いた明るい尾根筋の林に生えアカマツ二次林などにも見られる。葉は針葉で互生。風媒で鳥散布。[N~M] ツガ群団。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】主に高宕山周辺および千倉に分布。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 67, 83.

(齊木健一)



C ツクバネガシ ブナ科

要保護

Quercus sessilifolia Blume

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で互生。葉は広披針形で、葉柄は短く、全縁または先端部に少数の鋸歯がある。風媒で重力散布。[MM] シラカシ - ウラジロガシ群目。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵南部に分布するが、鴨川低地以南には記録がない。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 112, 117.

(大場達之)



C キミズ イラクサ科

要保護

Pellionia scabra Benth.

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。千葉県のはキミズではなく、茎が木化しないのでキミズモドキ *Pellionia japonica* Hatus. であるとする見解がある。[Ch ?]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】房総丘陵と安房丘陵の川沿いの暗い湿ったところに群れて生える。

【保護対策】自生環境を保全する（周辺で何らかの自然変行為があっても、キミズの存続に支障のない範囲にとどめる）

【文献】千植誌 2003 : 126, 123.

(大場達之)



C ツクバネ バクダン科

要保護

Buckleya lanceolata (Siebold. et Zucc.) Miq.

【種の特性】夏緑低木。半寄生。葉は単葉で対生し卵形で先端は長く尖る。花は6月。雌雄異株で花は淡緑色で花被裂片は4個で淡緑色。果実は先端に長さ2.5~3cmの苞4枚がつき、つく羽根状。虫媒で重力散布。半寄生。低地遺存ブナ帯要素。[N] ブナ群綱。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の乾いた尾根筋などの林に生える。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 131, 135.

(大場達之)



C ヤマミズ イラクサ科

要保護

Pilea japonica (Maxim.) Hand.-Mazz.

【種の特性】小形の1年草。高さ10~15cmで黄緑色で軟弱。群れて生える。花は雌雄異花で9~10月に咲き淡緑色で雌雄が混じって柄のある花序、または無柄の集散花序に密につく。ほかのミズの仲間とは異なって柄のある花序が茎の頂に立つところが異なる。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国、プリモリア。

【県内の状況】房総丘陵の記録が多いが、佐原市などの記録もある。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 125, 123, 129.

(大場達之)



C オオバヤドリギ ヤドリギ科

要保護

Taxillus yadoriki (Siebold) Danser

【種の特性】常緑小低木。常緑樹の枝に寄生する。葉は単葉で対生。花は9~11月に咲き筒状で外面は赤褐色で細かい毛が覆う、内面は光沢があって黒紫色、花被の裂片は4個で上方に反曲する。鳥媒で鳥散布。[N]

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】房総丘陵以南に分布。

【保護対策】寄主木を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 132, 135.

(大場達之)



C ヒメタデ タデ科

要保護

Persicaria erecto-minor (Makino) Nakai 絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎の下部は曲がり、上部は疎らに分岐する。葉は披針形で先は鋭尖形、上面は無毛で下面脈上に疎らに短毛がある。花穂は直立し短円柱状、長さ1.5～2cm。密に多数の淡紅色の花をつける。花が白～緑白色のものをアオヒメタデ(form. *viridiflora* I. Ito) という。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】利根川流域に記録がある。本県にはアオヒメタデが生える。

【保護対策】生育適地となる湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 146, 158.

(谷城勝弘)



C ナガバノウナギツカミ タデ科

要保護

Persicaria hasato-sagittata (Makino) Nakai 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎の下部は地をはい、上部に逆刺がある。葉は両面無毛。花穂は球形または広卵形で、密に多花。花柄に腺毛がある。

【分布】本州・四国・九州。中国南部、台湾。

【県内の状況】県北部の平野部に複数の記録があるが、その多くは土地の改変によって消滅した。多古光湿原には多数現生する。

【保護対策】保護上の重要種が複数生育する多古光湿原を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 144, 139.

(谷城勝弘)



C ホソバノウナギツカミ タデ科

要保護

Persicaria hasato-auriculata (Makino) Nakai

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎の下部は地をはい、上部に逆刺がある。葉は両面無毛。花穂は疎らな穂状花序。花柄は無毛。虫媒で水分布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。中国南部、台湾。

【県内の状況】県全域に少数の記録があるが、県内には極めて稀である。

【保護対策】自然的な湿地をを保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 145, 140.

(谷城勝弘)



C ヌカボタデ タデ科

要保護

Persicaria taquetii (H.Lév.) Koidz. 絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎は細く、下部は地をはう。葉は薄く疎らに毛がある。托葉鞘は筒状で等長の縁毛がある。花序は疎ら。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】県北部の低地に複数の記録があるが少ない。栗山川流域の周辺湿地に多産地がある。

【保護対策】本種の生育適地となる湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 146, 158.

(谷城勝弘)



C ホソバイヌタデ タデ科 要保護

Persicaria trigonocarpa (Makino) Nakai 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】一年生草本。湿地性。茎は疎らに分岐し赤褐色を帯びる。葉は両面の縁に近い脈上に短毛があり、下面に盤状の腺点がある。

【分布】北海道・本州（関東地方）、中国、ウスリー、朝鮮。

【県内の状況】利根川、江戸川、栗山川流域にあるが、少ない。

【保護対策】生育適地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 146,158.

(谷城勝弘)



C フシグロセンノウ ナデシコ科 要保護

Lychnis miqueliana Rohrb.

【種の特性】高さ 50 ~ 80 cm の夏緑の多年生草本。適湿の林縁の草地斜面に生育する。1 ~ 数本の茎を立てる。茎は円筒形で十字対生、節の所は紫色を帯びる。葉は楕円形で、鋭頭、基部は楔形で、ほぼ無柄。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。花は頂生および上部の葉腋につく。花は5数性で、萼片は癒着して円筒形になる。花弁は、広倒卵形で先端はわずかに凹凸があり、鮮やかな赤橙色で、長さ 20 ~ 30mm、長い爪がある。果実は蒴果で、円筒形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】主として北総台地の谷津に分布する。

【保護対策】園芸目的の採取をおこなわない。

【文献】千植誌 2003 : 153, 163.

(大場達之 / 天野 誠 追補)



C ナンバンハコベ ナデシコ科 要保護

Cucubalus baccifer L. var. *japonicus* Miq.

【種の特性】長さ 150 cm にもなる夏緑の多年生つる性草本。適湿の林縁に生育する。茎には伏毛があり、他の植物によりかかって斜上する。葉は対生し、卵形から楕円形で、鋭頭、基部は楔形で、短い柄がある。葉は全縁で、両面にわずかに伏毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は5数性で、萼片は癒着して皿形になる。花弁は、倒披針形で、深く切れ込み、白色で、長さ約 10 mm、長い爪がある。果実は液果で、球形、黒熟する。虫媒で重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、千島、サハリン、ウスリー。

【県内の状況】主として南総台地に分布する。

【文献】千植誌 2003 : 154,164.

(大場達之 / 天野 誠 追補)



C フシグロ ナデシコ科 要保護

Silene firma Siebold et Zucc.

【種の特性】高さ 25 ~ 90 cm の二年生草本。乾いた斜面や草地に生える。茎を単生し、上部で枝分かれする。茎は四稜形で十字対生、毛がある場合もある(ケフシグロ form. pubescens (Makino) Ohwi)。その名の通り、節は紫色に着色する。葉は長楕円形で、鋭頭、基部は楔形で、明瞭な柄はなく、長さ 3 ~ 6 cm。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。二出集散花序を頂部と上部の葉腋につける。花は5数性で、萼片は癒合し、卵形となる。長さ 7 ~ 9 mm。花弁は、狭倒卵形で深く二裂し、白色で、長さ 5 ~ 6 mm、爪が長い。果実は蒴果で、卵形、

上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。サハリン、朝鮮、中国、ウスリー、アムール。

【県内の状況】北総と南総の丘陵地に点在する。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 154. (大場達之 / 天野 誠 追補)



C ハマツナ アカザ科

要保護

Suaeda maritima (L.) Dumort.

【種の特性】小型の一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で海流散布。[Th] ハマツナ群団。

【分布】本州・四国・九州。世界に広く分布。

【県内の状況】かつては東京湾沿岸の河口などに多かったが、埋め立てにより激減している。

【保護対策】塩湿地を計画的の保全する。また埋め立て地内に塩湿地を汐入公園のような形で造成する。

【文献】小松崎一雄 1971 千葉県小櫃川河口のハマツナ群落。植物採集ニュース 54 : 62 / 千植誌 2003 : 168, 177.

(大場達之)



C アブラチャン クスノキ科

要保護

Lindera praecox (Siebold et Zucc.) Blume

【種の特性】夏緑中高木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[N ~ M]

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】本来ブナ帯に分布の中心のある種類で千葉県では点々と分布が知られる。寒冷期からの依存と考えられる。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 184, 192 / 福田洋 2006 守ろう千葉の植物・扉。(大場達之)



C マツブサ マツブサ科

要保護

Schisandra repanda (Siebold et Zucc.) Radlk.

【種の特性】夏緑藤本。雌雄異株。葉は単葉で互生し枝先に集まってつく。花は5 ~ 6月に咲き黄白色。果実は藍黒色に熟す。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[M]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】市原市以南の房総丘陵に分布。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 182, 190.

(大場達之)



C バリバリノキ クスノキ科

要保護

Litsea acuminata (Blume) Sa.Kurata

【種の特性】常緑中~高木。葉は単葉で互生し狭披針形で長さ15 ~ 25cmで縁は波打つ。花は8月に咲き、花被片は脱落する。虫媒で鳥散布。[MM] カクレミノ - スダジイ群目。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵に見られるが、開花するような株は少ない。

【保護対策】自生する照葉樹林を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 184, 192.

(大場達之)



C イチリンソウ キンボウゲ科 要保護

Anemone nikoensis Maxim.

【種の特性】小型の常緑多年生草本。全体淡緑色。苞葉は柄がある。花は花序に通常1個つける。虫媒で重力散布。シキミ - モミ群集など。[H]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県内の中～北部に複数の産地が知られる。谷津の湿った斜面下などを生育の適地とするが、近年はそのような場所が放置されてアズマネザサや高茎草本からなる藪となったところが増え、本種のような小型草本の生育維持が困難となっている。

【保護対策】谷津斜面での定期的な刈り取りを行うことが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 197, 205.

【写真】2007.4.22 佐倉市宮内 谷城勝弘。
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



C セリバオウレン キンボウゲ科 要保護

Coptis japonica (Thunb.) Makino var. *major* (Miq.) Satake

【種の特性】林の湿った所に生える多年生草本。葉は2回3出複葉。【分布】本州(太平洋側)・四国。

【県内の状況】県北部に少数の産地が知られている。標本は佐倉市飯重(坂上・山岡 1997.3.8, CBM-BS-118206)がある。佐倉市の生育地は人家に近い神社林の北向きの斜面であるが、これらが古い栽培品に由来する逸出の可能性もある。

【保護対策】林での過度の刈り取りに注意し、適正な環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 186, 194.
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



C コセリバオウレン キンボウゲ科 要保護

Coptis japonica (Thunb.) Makino var. *japonica*

【種の特性】小型の常緑多年生草本。葉は3出複葉で互生。虫媒で重力散布。これまでセリバオウレンとされてきたものであるが、葉の切れこみ方からするとコセリバオウレンにあたる。千葉県にはオウレンも見られるが古い時代における薬用栽培の名残と考えられる。最近になって、県南部のものはコセリバオウレン、県北部のものはセリバオウレンであることが判明した。[H]シキミ - モミ群集など。

【分布】本州(太平洋側)

【県内の状況】清澄山系を中心とする比較的高い標高の丘陵地に生育する。

【保護対策】生育地の森林環境を良好に維持すると同時に、シカの食害を回避する方策を検討することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 186, 194.

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



C スハマソウ キンボウゲ科 要保護

Hepatica nobilis Schreb. var. *japonica* Nakai form. *variegata* Nakai

【種の特性】小型の多年生草本。葉は3裂し根生。虫媒で重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】本州。

【県内の状況】県内では房総丘陵と下総台地に隔離遺存する。房総丘陵では乾いた尾根沿いのコナラ林などに生え、萼片が白色または淡紅色であるが、下総台地では谷津のやや湿った北斜面に生え、白色花のみである。

【保護対策】生育地を保全し、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1977 千葉県産はミスミソウかスハマソウか. 植物採集ニュース 94 : 121 / 千植誌 2003 : 188, 196.
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



C マツモ マツモ科

要保護

Ceratophyllum demersum L.

【種の特性】沈水性の多年生草本。茎の先端は冬に切れ落ちて沈み冬芽として越冬する。茎はもろく折れやすい。葉は羽状複葉で一節に5～12葉を輪生。葉は長さ1.5～2.5cmで、裂片は2又状に分岐し先端は針状に尖る。花は雌雄異花で葉腋に1個ずつつく。水媒で水散布。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。世界に広く分布。

【県内の状況】利根川水系と九十九里低地の池・沼に知られていたが印旛沼などでは水質悪化で絶滅している。市原市、君津市などの報告もある。

【保護対策】自然的な池・沼の水質を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 203,209.

(大場達之)



C トモエソウ オトギリソウ科

要保護

Hypericum ascyron L.

【種の特性】多年生草本。林縁の草地に生える。

茎は高さ50～100cm。葉の基部は茎を抱き、多くの明点がある。花は明らかな巴形になる。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、シベリア。

【県内の状況】全域に散在するが、少ない。県内ではやや冷涼な半日陰に生育する傾向がある。

【保護対策】各地で1～数個体が確認されるのみであり、大変少ない。生育箇所を明示して保護することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 217,221.

(谷城勝弘)



C センリョウ センリョウ科

要保護

Sarcandra glabra (Thunb.) Nakai

【種の特性】夏緑小低木。葉は単葉で対生。虫媒で鳥散布。[H] カクレミノ - スダジイ群目。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】県北部のものは栽培品からの逸出と考えられる。千葉県では正月の切花用に大量に栽培されている。

【保護対策】真の自生がどうか調査が必要。

【文献】千植誌 2003 : 204, 210.

(大場達之)



C ミズオトギリ オトギリソウ科

要保護

Triadenum japonicum Makino

【種の特性】多年生草本。湿地性(池沼や湿原)。地下茎は匍匐する。茎は円柱形。葉は全面に明点がある。花序は短く、葉腋や柄の先につく。花弁は紫紅色を帯びる。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール。

【県内の状況】県内複数箇所に分布するが、少ない。多古光湿原に多産する。

【保護対策】本種の他に複数の希少種を多産する多古光湿原を保護指定地とし、刈り取り管理を継続して小型草本の生育を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 217,221.

(谷城勝弘)



C モウセンゴケ モウセンゴケ科 要保護

Drosera rotundifolia L.

【種の特性】食虫性の小型の多年生草本。湿地性。葉は根生し、単葉で互生。花序は直立し、先端の若い部分は螺旋状に巻き、花は白色5弁。虫媒で風散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球北部。

【県内の状況】茂原、成東・東金のような湿地のほか、谷津田側壁の湿った崖などにも見られる。

【保護対策】観賞用などでの採集をしない。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1978 Distribution of the Droseraceae in Japan. Bull. Nippon Dental Univ. Gen. Edc. 7 : 180-188 / 千植誌 2003 : 220, 223.

(大場達之)



C ハマハタザオ アブラナ科 要保護

Arabis stelleri DC. var. *japonica* (A.Gray) Fr.Schm.

【種の特性】小型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。ハマハコベ - ハマニンニク群目。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、アムール。

【県内の状況】砂浜に生える植物で九十九里には多かったが海岸の改変で少なくなっている。館山市にもある。

【保護対策】自然な砂浜を汀線からクロマツ林まで植生の配置を残して保全する。

【文献】千植誌 2003 : 236, 239.

(大場達之)



C コモウセンゴケ モウセンゴケ科 要保護

Drosera spatulata Labill.

【種の特性】食虫性の小型の多年生草本。日当たりのよい崖などに生えたものは葉が濃い赤に染まる。葉は単葉で互生。花茎は直立し上部は螺旋状、花は紅紫色で5弁。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州(東北南部以南)・四国・九州・琉球。台湾、熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】かつては道ばたの崖などに一面に生えていたが、現在はそのような生育地はほとんど見られなくなった。

【保護対策】観賞用などの採集をしない。

【文献】Komiya, S. & C. Shibata 1978 Distribution of the Droseraceae in Japan. Bull. Nippon Dental Univ. Gen. Edc. 7 : 188-193 / 千植誌 2003 : 220, 223.

(大場達之)



C ハタザオ アブラナ科 要保護

Turritis glabra L.

【種の特性】中型の二年生草本。全体が白緑色を帯びる、茎は直立し高さ50 ~ 100 cm、枝は茎に沿って直立。葉は単葉で互生。花は4 ~ 6月に咲き黄白色。虫媒で重力散布。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球温帯。

【県内の状況】河原、砂地などの痩せた草地に生える。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 236, 239.

(大場達之)



C キリンソウ ベンケイソウ科 要保護

Phedimus aizoon (L.) t Hart var. *floribundus* (Nakai) H. Ohba I

【種の特性】高さ20～30cmの夏緑の多年生草本。海岸および山地の岩場に生える。茎は斜上し、多肉で、無毛。葉は互生、長楕円形で、多肉、長さ3～5cm、片側に5～7の鋸歯がある。花は集散花序に10～20個つく。花は5数性、萼は披針形、花弁は狭楕円形で、黄色、長さ約5mm。雄しべは10本で、葯は黄色。離生心皮は5つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で重力散布。エゾオオバコ-ウシノケグサ群網。[H]



【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部。

【県内の状況】富津市および白子町以南の海岸の崖と三石山の山頂に生育している。千葉県は太平洋岸の海岸分布の南限である

【保護対策】観賞用などでの採集をしない。

【文献】千植誌 2003 : 253, 262. (天野誠)

C ノリウツギ アジサイ科 要保護

Hydrangea paniculata Siebold

【種の特性】高さ約5mに達する夏緑の低木。山地の明るい林縁や草地に生える。数本の有髓の幹を叢生する。樹皮は細かく縦に裂ける。茎は円筒形で十字対生。葉は楕円形で、鋭頭、鋭鋸歯がある。基部は楔形で、有柄、長さ5～11cm。枝先に密な円錐花序を付ける。装飾花は白色、4弁の楕円形の萼片が目立つ。有性花は5数性で、萼片は三角形で、鋭頭、長さ約1mm。花弁は、長楕円形で全縁、白色で、長さ2.5～3mm、反り返る。雄しべは長さ約3mmで、よく目立つ。雌しべは3心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[N]



【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、中国。

【県内の状況】北総と南総の丘陵地に点在する。

【文献】千植誌 2003 : 258, 265. (大場達之/天野誠 追補)

C ムカゴネコノメ ユキノシタ科 要保護

Chrysosplenium maximowiczii Franch. et Sav. 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】高さ3～7cmの夏緑の小型多年生草本。湿った谷の日陰の腐植質の多いところに生える。地上をほう長い走出枝には、花茎とほぼ同じ葉を付ける。地下の走出枝の先には長さ3～10mmの紡錘形の繁殖体をつける。茎は四稜形で十字対生。葉は扇形で、円鋸歯が2対あり、基部は楔形で、長い柄がある。長さ8～18mm。花序は頂生し、二出集散、苞は大きく目立つ。花は4数性で、萼片は広楕円形、円頭、長さ1.5～2mm、緑色。花弁はない。雄しべは8本。雌しべは2心皮で離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。[H]



【分布】本州(関東地方南部および東海地方の低地に特産する)。

【県内の状況】南総の主に川沿いに分布する。

【保護対策】生育地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 255, 263. (大場達之/天野誠 追補)

C イワガラミ アジサイ科 要保護

Schizophragma hydrangeoides Siebold et Zucc.

【種の特性】高さ約10mに達する夏緑の藤本。山地の明るい林縁に生える。つるは巻き付きながら、這い登る。樹皮は細かく縦に裂ける。葉は対生し、心形で、鋭頭、荒い鋭鋸歯がある。葉は有柄、葉身の長さは6～10cm。枝先に密な複散房花序を付ける。装飾花は白色、1弁の卵状三角形の萼片が目立つ。有性花は5数性で、萼片は低三角形で、鋭頭、長さ約1mm。花弁は、開花とともに落下する。雄しべは不等長で、長さ3～4.5mm。雌しべの花柱は太くて短く、花頭は4～5個、心皮の基部は癒合する。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で風散布。主としてブナ帯の夏緑林に生える。低地遺存ブナ帯要素。[MM]



【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】北総の丘陵地に主として分布し、北総にも点在する。

【保護対策】生育地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 257, 264. (大場達之/天野誠 追補)

要保護

C コダイコンソウ バラ科 要保護

Geum japonicum Thunb. ex Murray var. *iyonanum* (Koidz.) Murata

【種の特性】中型の多年生草本。茎葉は2～3裂、根生葉は羽状複葉。虫媒で付着散布。花は7～9月。[H] ヨモギ群綱。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県内では稀で、勝浦市鶴原（1983）と鴨川市元清澄山下（1984）標本がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 275, 279.



(御巫由紀)

C オオバライチゴ バラ科 要保護

Rubus croceacanthus H.Lév.

【種の特性】夏緑性の低木。葉は3～5(～7)小葉からなる羽状複葉。虫媒で食散布。花は白色、3～4月。果実は球形ないし卵円形で紅熟する。全体に短い腺毛があるが、軟毛は少ない。[N]

【分布】本州(房総、伊豆、紀伊半島および山陽)・四国・九州・琉球。朝鮮(南部)。

【県内の状況】県内では市原市、鴨川市、清澄山等での標本がある。

【文献】千植誌 2003 : 271, 267.



(御巫由紀)

C カワラサイコ バラ科 要保護

Potentilla chinensis Ser.

【種の特性】小型の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で重力散布。カワラハハコ - ヨモギ群綱。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】採集された標本は、古いものでは山武郡豊成村（1929）鴨川市（1932）安房郡東条村（1937）館山市北条、北条海岸（1950）などがあるが、現状は不明である。近年では富津市大堀（1983）印旛村（1986）八千代市（1995）習志野市（1995）安房郡千倉町（1996）の標本がある。

【文献】千植誌 2003 : 274, 278

(御巫由紀)



C タヌキマメ マメ科 要保護

Crotalaria sessiliflora L.

【種の特性】中型の一年生草本。茎は直立し高さ20～70cm。葉は単葉で互生。花は7～9月に咲き、腋生の総状の花序に密につき花弁は萼片より短く青紫色。虫媒で重力散布。果実は長毛が密布した萼におおわれているのが特徴である。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】県内ほぼ全域に点々と分布する。日当たりの良い草地の中の小裸地や道ばたに生え、湿原の周辺にも見られる。

【保護対策】自然的な草地を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 299, 304.

(遠藤泰彦 / 大場達之 追補)



C オオバナスビトハギ マメ科 要保護

Hylodesmum laxum (DC.) H. Ohashi et R. R. Mill

【種の特性】常緑多年生草本で茎の基部は木質。湿ったスタジイなどの林下あるいは林縁に生育する。

葉は3出複葉で茎下部に集まってつく。花は8～10月に咲き、花序は総状で長さ10～30cmで軸は細い。花は淡紅紫色。果実にかぎ毛がある。虫媒で付着散布。[H] 別名サイコトキワバハギ。

【分布】本州(関東南部以西)・四国・九州。台湾、インド、マレーシア。

【県内の状況】県中央部から南部に点々と分布する。

【文献】千植誌 2003 : 297, 306.

(遠藤泰彦/大場達之 追補)



C ミソナオシ マメ科 要保護

Ohwia caudata (Thunb.) H. Ohashi

【種の特性】夏緑小低木。日陰の林縁や林床に生える。

茎は分岐して、葉は3出複葉で互生、葉柄の上面が平坦になる、小葉は披針形で下面はやや白くなる。花は8～9月に咲き、総状花序は茎の頂あるいは上部の葉腋から出る。花は白色。果実は長さ8～13cmで4～6個の節があり、短い堅い鉤毛があって衣類などに付着する。

虫媒で付着散布。[N]

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】館山市には複数の場所で確認され、南房総市の松林内にわずかに見られるほか、山武町のスギ植林地でも発見され、一宮町でも採集されている。

【文献】千植誌 2003 : 297, 306.

(遠藤泰彦/大場達之 追補)



C レンリソウ マメ科 要保護

Lathyrus quinquenervius (Miq.) Litv.

【種の特性】多年生つるの草本全体が白っぽい緑色。草原性。茎は翼があって扁平、近くの草にからみ、あるいはよりかかって立ち上がり、高さ40～60cmになる。葉は羽状複葉で互生、小葉は線形で長さ6～10cm。花は5～6月に咲き、紫色の花を5～8個つける。虫媒で重力散布。[G]

【分布】本州・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】県北部の草原に生えるが、自然的な草地の衰退とともに少なくなっている。

【保護対策】観賞用などの採集を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 309, 318.

(遠藤泰彦/大場達之 追補)



C ノハラクサフジ マメ科 要保護

Vicia amurensis Oetting.

【種の特性】多年生のつる性草本。茎は横に枝分かれして広がり高さ80～150cm。葉は羽状複葉で互生し小葉は10～16個でやや無毛で黄緑色。托葉は歯牙があるか2裂する。花は7～9月に咲き淡青紫色。虫媒で重力散布。植物体はヒロハクサフジに似るが毛が少ない。県内では海岸に面した崖地に生育する。[H]

【分布】本州(秋田県、千葉県、神奈川県、中部地方)・九州(薩摩半島)、朝鮮、中国東北部、アムール、ウスリー。

【県内の状況】天津小湊町及び勝浦市串浜に分布が限定される。天津小湊町では海岸の崖地に生育し、串浜では海岸沿いの道路によって一部削られた崖上に生育している。

【文献】遠藤泰彦・大橋広好 1994 植物研究雑誌 69 : 379-382 / 千植誌 2003 : 300, 317.

(遠藤泰彦/大場達之 追補)



C ノウルシ トウダイグサ科 要保護

Euphorbia adenochlora C. Morren et Decne. 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】中型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。[G] オギ・ヨシ群団。

【分布】北海道・本州・九州。

【県内の状況】利根川、江戸川水系に自生が認められる。

【保護対策】河川氾濫原の保全を図る必要がある。

【文献】千植誌 2003 : 328, 333.

(大場達之)



C フユザンショウ ミカン科 要保護

Zanthoxylum armatum DC. var. *subtrifoliatum* (Franch.) Kitam.

【種の特性】夏緑低木。葉は羽状複葉で互生。虫媒で重力散布。[N]

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】房総丘陵に自生するが、開花結実するような株は少ない。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 341, 336.

(大場達之)



C キハダ ミカン科 要保護

Phellodendron amurense Rupr.

【種の特性】夏緑高木。葉は羽状複葉で互生。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[MM][H]ブナ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】房総丘陵の数地点と船橋市から報告がある。

【保護対策】真の自生か否か調査が必要。

【文献】千植誌 2003 : 332, 335.

(大場達之)



C チドリノキ カエデ科 要保護

Acer carpinifolium Siebold et Zucc.

【種の特性】夏緑中高木。葉は3出複葉で対生。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[M]サワグルミ群団。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】清澄山・高宕山・梅ヶ瀬渓谷などの報告がある。公園・街路などに植えられることもあるが、指定は自生個体のみである。

【保護対策】自生地の環境保全。

【文献】千植誌 2003 : 347, 339.

(大場達之)



C キツリフネ ツリフネソウ科 要保護

Impatiens noli-tangere L.

【種の特性】中型の一年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で自散布。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球温帯。

【県内の状況】房総丘陵を中心に分布の記録があるが、最近北アメリカ原産の近似種オオツリフネ (*I. pallida* Nutt.) と考えられるものが県の北部に帰化しており、詳細な情報を確認する必要がある。

【保護対策】自生地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 348, 340.

(大場達之)



C オニツルウメモドキ ニシキギ科 要保護

Celastrus orbiculatus Thunb. var. *strigillosus* (Nakai) Makino

【種の特性】夏緑藤本。ツルウメモドキに似ているが、葉の下面の脈上にうね状の突起がある。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】清澄山と野田市から記録されている。近似した種類があるので詳細な再調査が必要である。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 353, 359.

(大場達之)



C ウメモドキモチノキ科 要保護

Ilex serrata Thunb.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。[N] ハンノキ群網。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県北部の湿地に分布するが、庭木としても植えられているので、真の自生か否かは調査が必要。

【保護対策】自然湿地の保全。

【文献】千植誌 2003 : 350, 357.

(大場達之)



C オオツルウメモドキ ニシキギ科 要保護

Celastrus stephanotifolius (Makino) Makino

【種の特性】夏緑藤本。ツルウメモドキに似ているが、葉の下面の脈上に柔毛がある。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の渓谷に見られるが稀である。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 353, 359.

(大場達之)



C サワダツ ニシキギ科 要保護

Euonymus melanantus Franch. et Sav.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で対生。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[N] ブナ群網。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の湿った谷から記録されている。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 353, 359.

(大場達之)



C モクレイシ ニシキギ科 要保護

Microtropis japonica (Franch. et Sav.) H.Hallier

【種の特性】常緑低木。葉は単葉で対生。虫媒で鳥散布。[N] カクレミノ - スダジイ群目

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】照葉樹林に生え、安房丘陵に多く分布する。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 353, 358.

(大場達之)



C シナノキ シナノキ科 要保護

Tilia japonica (Miq.) Simonkai

【種の特性】夏緑高木。ブナ帯の夏緑林を構成する高木で岩場などにも見られるが千葉県ではシイ・カシ帯に生える。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。[MM] ブナ群網。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の急斜面または尾根筋などの夏緑林に見られるほか、県北部低地の林にも生える。県北の一部産地のものは逸出の可能性が。南部では清澄山系、高岩山系、鋸山系及び大多喜町で

採集されているほか、県北では旧沼南町、成田市、富里市などから記録がある。

【保護対策】生育地である森林の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 398./ 千植誌 2003 : 368,361

(大場達之)



C コショウノキ ジンチョウゲ科 要保護

Daphne kiusiana Miq.

【種の特性】常緑小低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。カクレミノ - スダジイ群目。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】房総丘陵の照葉樹林に見られるが、産地は少ない。

【保護対策】自生地の環境を保全する

【文献】千植誌 2003 : 373, 364.

(大場達之)



C フモトスミレ スミレ科

要保護

Viola pumilio W.Becker

【種の特性】小型の多年生草本。葉は暗緑色～濃緑色で裏面は紫色を帯びる。葉の表面基部に疎らに開出毛がある。唇弁は上弁や側弁より小さめで紫色のすじがある。虫媒で虫散布。[H] ケヤキ群団。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】全域に点在するが、特に清澄山周辺に多い。林内や林縁、ときに草地に生える。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 379, 385.

(谷城勝弘)



C フサモ アリノトウグサ科

要保護

Myriophyllum verticillatum L.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は羽状複葉で輪生。水上葉は水中葉より小さいが、多少とも羽裂する。風媒で水散布。[HH] ヒルムシロ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球。

【県内の状況】県北部に記録が点在するが、ホザキノフサモの誤認の可能性もある。ホザキノフサモに比べて生育量はごく少ない。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 405,400.

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



C ヒカゲスミレ スミレ科

要保護

Viola yezoensis Maxim.

【種の特性】小型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で虫散布。[H] ケヤキ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】八千代市と佐倉市から報告されている。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 379, 385.

(谷城勝弘)



C ウリノキ ウリノキ科

要保護

Alangium platanifolium Harms var *trilobum* (Miq.) Ohwi

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。[N] サワグルミ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】房総丘陵の湿った谷間の林に生える。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 406, 401.

(大場達之)



C ミシマサイコ セリ科 要保護

Bupleurum scorzonerifolium Willd. 絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】中形の多年生草本。乾いたススキ草原に生え、時に海崖の草原にも見られる。茎は高さ40～70cm。葉は単葉で互生。花は8～10月に咲き黄色。虫媒で重力散布。[H] ススキ群網。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】千葉県南部を中心に記録されているが個体数は少ない。かつては薬用植物としての選択的採取があったものと思われる。

【保護対策】

【文献】千植誌 2003 : 424, 414.

(大場達之)



C イブキボウフウ セリ科 要保護

Libanotis coreana (H.Wol.) Kitag.

【種の特性】夏緑の中から大形多年草。乾いたススキ草原などに生える。太い根茎がある。茎は高さ40～80cm。葉は複羽状に細かく分裂し毛がある。花は8～9月に咲き白色。散形花序には総苞片がなく小総苞片がある。果実は卵形で毛がある。[H] ススキ群網。海岸の崖などに生えるハマノイブキボウフウは丈が低く葉に毛が少なく光沢がある。変種相当のものであろう。

【分布】北海道・本州(近畿以東)

【県内の状況】ほぼ千葉県全域から記録があるが、最近は少なくなっている。

【保護対策】自然的な草刈り草地进行を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 426, 416.

(大場達之)



C ハマボウフウ セリ科 要保護

Glehnia littoralis F.Schmidt ex Miq.

【種の特性】小形の多年生草本。砂浜でコウボウムギとよく共存する。葉は羽状複葉で互生。葉は地表に広がり、その中央から花茎を出す。葉柄は赤褐色。花は6～7月に咲き白色。花序には毛が多い。虫媒で重力散布。[G] ハマボウフウ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。台湾、サハリン、朝鮮、中国、プリーモリア。

【県内の状況】海岸の砂浜に普通であったが、場所によっては護岸などで、自然植生が失われ減少している。また食用としての採取も見られる。

【保護対策】砂浜を維持する。食用に採集しない。

【文献】千植誌 2003 : 428, 417.

(大場達之)



C ヤマゼリ セリ科 要保護

Ostericum sieboldii (Miq.) Nakai

【種の特性】夏緑多年草。茎は高さ50～80cm。葉は2～3回3出複葉。花は8～10月に咲き、大形の散形を花序に白い花を密につける。果実は楕円形。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】2007年に土屋守により発見された。それまで千葉県からヤマゼリの報告はあったが、確認できた限りではそれらはカノツメソウなどの誤認であった。神奈川県などでは丹沢などの山麓の湿った林縁などに普通に見られる。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 428, 417 / 土屋守 2008. 野田市にヤマゼリが産する. 千資料 24 : 224-225.

(大場達之)



C ムカゴニンジン セリ科

要保護

Sium sisarum L.

【種の特性】大型の多年生草本。茎は高さ 30 ~ 100 cm。葉は羽状複葉で互生。葉腋にムカゴができる。花は 8 ~ 9 月に咲き白色で細かい。果実は卵球形。虫媒で、重力散布。[H] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】県中北部の丈の高いヨシなどの湿原に生える。

【保護対策】自然的な湿地を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 427, 416.

(大場達之)



C ウメガサソウ イチャクソウ科

要保護

Chimaphila japonica Miq.

【種の特性】常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。[Ch]

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国、千島。

【県内の状況】照葉樹林、とくにモミの混じった林に生える。

【保護対策】生育環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 430, 418.

(大場達之)



C サワゼリ セリ科

要保護

Sium suave Walter var. *nipponicum* (Maxim.) H.Hara

【種の特性】夏緑の大型多年草。常に水のあるような湿地に生える。茎は高さ 60 ~ 100 cm。根生葉と茎下部の葉は単状複葉で小葉は 7 ~ 9 個。花は 7 ~ 9 月に咲き白色。果実は倒卵形。[HH] ヨシ群綱。別名ヌマゼリ。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】主に県の北半部の湿原に見られるが普通ではない。

【保護対策】自然的な湿原を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 426, 416.

(大場達之)



C ヒロハドウドンツツジ ツツジ科

要保護

Enkianthus perulatus Schneider f. *japonicus* (Hook.f.) Kitam.

【種の特性】夏緑低木。虫媒で風散布。[N]

【分布】本州(関東以西)・四国。

【県内の状況】安房丘陵の北部にのみ知られる。最も近い他の自生地は伊豆半島である。普通に植えられているドウダンツツジは四国の蛇紋岩地に生える葉の細い品種である。

【保護対策】自生地を保護する。

【文献】千植誌 2003 : 430, 418.

(大場達之)



C ミツバツジ ツツジ科 要保護

Rhododendron dilatatum Miq.

- 【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で3輪生。虫媒で、風散布。
- 【分布】本州（関東、中部、近畿）。
- 【県内の状況】房総丘陵に生育する。
- 【保護対策】園芸品のミツバツジが容易に入手できるにもかかわらずいまだに山採りをする人がいる。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。
- 【文献】浅野貞夫 1976 ヒロハドウダンツツジの自生地、房総に見つかる。植物採集ニュース 88：45-46 / 木村陽子ほか 1997 白浜自然環境保全地域、白浜町・平成8年度千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書：1-36 / 千植誌 2003：433, 437.



（大場達之）

C キヨスミミツバツジ ツツジ科 要保護

Rhododendron kiyosmense Makino

- 【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で3輪生。虫媒で、風散布。[N]
- 【分布】本州（関東、中部、近畿）。
- 【県内の状況】尾根筋の乾いた林や岩場には得る。
- 【保護対策】自然の林内に移植している例もあるが、本来の生育地を超える範囲への移植は慎重に行う必要がある。
- 【文献】千植誌 2003：432, 420.



（大場達之）

C レンゲツツジ ツツジ科 要保護

Rhododendron japonicum (A.Gray) Swinger

- 【種の特性】夏緑低木。ススキ草原、シラカバ林などに生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。[N]
- 【分布】北海道・本州・四国・九州。
- 【県内の状況】県北部の雑木林などに稀に生える。本来はブナ帯を本拠とする種類で、種子の飛来によって散発的に生えているものと推定される。
- 【保護対策】自生環境の保全。
- 【文献】千植誌 2003：432, 420.



（大場達之）

C オオツルコウジ ヤブコウジ科 要保護

Ardisia montana (Miq.) Siebold ex Miq. 絶滅危惧IB類 (EN)

- 【種の特性】常緑小低木。ヤブコウジに似て大形。地下に長い根茎がある。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。ヤブコウジとツルコウジの雑種という説もある。[Ch] カクレミノ - スダジイ群団。
- 【分布】本州（千葉県以西）・伊豆諸島・琉球（奄美諸島）。
- 【県内の状況】房総丘陵の南部の照葉樹林に見られる。
- 【保護対策】自然的な照葉樹林の保全。
- 【文献】千植誌 2003：435, 438.



（大場達之）

要保護

C ノジトラノオ サクラソウ科 要保護

Lysimachia barystachys Bunge 絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。乾いた半自然のススキ草原に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。ススキ群目。[G]ススキ群目。
 【分布】本州(関東以西)・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。
 【県内の状況】かつての牧の草地に多かったと推定される。
 【保護対策】半自然のススキ草原の保全。かつて草地であったところの雑木林を掘起こしたところ、埋土種子から復活した例がある。
 【文献】千植誌 2003 : 436, 439.

(大場達之)



C クサレダマ サクラソウ科 要保護

Lysimachia vulgaris L. var. *davurica* (Ledeb.) R.Kunth

【種の特性】多年生草本。自然度の高い湿地に生える。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。ホソバノヨツバムグラ - 大形スゲ群団。[HH]
 【分布】北海道・本州・四国・九州。アジア北部。
 【県内の状況】下総台地の湿地と、房総丘陵北部の谷津などに分布する。
 【保護対策】自然的な湿地の保全。
 【文献】千植誌 2003 : 436, 439.

(大場達之)



C モロコシソウ サクラソウ科 要保護

Lysimachia sikokiana Miq.

【種の特性】常緑多年生草本。湿った照葉樹林あるいはその縁に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、重力散布。カクレミノ - スダジイ群目。[H]
 【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。台湾。
 【県内の状況】降水量の多い房総丘陵南東部に限って見られる。
 【保護対策】自生環境を保全する。
 【文献】千植誌 2003 : 436, 439.

(大場達之)



C ハイハマボッサ サクラソウ科 要保護

Samolus parviflorus Rafin. 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。河岸の大水のときに冠水するナルコスゲ群集のなかや、ヨシ湿原の周囲、湿った寺院のコケの多い庭などに見られる。葉は単葉で互生しやや淡い緑色で光沢がある。虫媒で、水散布。[H]
 【分布】北海道・本州。北米。
 【県内の状況】養老側川と夷隅川の川岸、ため池の岸、陰湿な庭などにみられる。
 【保護対策】自生環境の保全。
 【文献】大場達之・平田和弘 1998 千葉県ハイハマボッサ. 千植誌

資料 11 : 75-76 / 千植誌 2003 : 436, 440.

(大場達之)



要保護

C ツルリンドウ リンドウ科 要保護

Tripterospermum japonicum (Siebold et Zucc.) Maxim.

【種の特性】多年生つる草本。シイ・カシ帯からハイマツ帯にまで分布する。葉は単葉で対生。虫媒で、虫散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、千島、サハリン。

【県内の状況】湿った照葉樹林、スギ林などの下に生える。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 451, 443.

(大場達之)



C サカキカズラ キョウチクトウ科 要保護

Anodendron ane (Hook. et Arn.) Druce

【種の特性】夏緑藤本。照葉樹林の林床、林縁に生えるが開花結実する株は少ない。

葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。カクレミノ - スダジイ群目。[M]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド。

【県内の状況】房総丘陵のスダジイ林の周辺に見られる。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 462, 454.

(大場達之)



C ガガブタ ミツガシワ科 要保護

Nymphoides indica (L.) O.Kuntze 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、水散布。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、東南アジア。

【県内の状況】下総台地の池、沼に見られる。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 461, 453.

(林浩二)



C コイケマ ガガイモ科 要保護

Cynanchum wilfordii Hemsley

【種の特性】多年生つる草本。葉は単葉で対生。花は7～8月に咲き淡黄緑色。虫媒で、風散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部。

【県内の状況】本埜村から館山市にかけて全県的に分布するが、山地には少ない。

【保護対策】自生地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 464, 455.

(大場達之)



C シタキソウ ガガイモ科

要保護

Stephanotis lutchuensis Koidz. var. *japonica* (Makino)Hatus.

【種の特性】常緑藤本。モミ林・照葉樹林などの林縁に生える。葉は単葉で対生。花は6月に咲き、花序は枝の上部の葉腋から出て花茎の先に2~3個の白い香りのある花をつける。虫媒で、風散布。[M]カクレミノ・スダジイ群目。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の南部に生え、北限は大多喜町。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 464, 456.

(大場達之)



C スズサイコ ガガイモ科

要保護

Vincetoxicum pycnostelma Kitag. 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。草刈りを定期的に行っている斜面草地に見られる。茎は直立し高さ40~80cm。葉は単葉で対生。花は7~8月に咲き黄褐色。虫媒で、風散布。[G]ススキ群目。

【分布】北海道・本州・四国・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】ほぼ全域に見られるが半自然草地の衰退で少なくなっている。

【保護対策】半自然草地を維持・管理する。

【文献】千植誌 2003 : 464, 455.

(大場達之)



C クサナギオゴケ ガガイモ科

要保護

Vincetoxicum katoi (Ohwi) Kitag. 絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】中型の多年生草本。茎は直立し高さ40~100cmで、上部は蔓状。花は5~7月に咲き紫色。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。花の緑白色のものをシロバナクサナギオゴケ (form. *albescens* Ohwi) という。[G]ツガ群目。

【分布】本州(千葉県・静岡県・愛知県など)。箱根などの新しい火山地帯には分布しない。千葉県は分布の東限。

【県内の状況】佐倉市から市原市にいたる千葉県中部に分布するほか富津市から1地点分布が知られている。

【保護対策】自生地の林床の遷移を抑える

【文献】千植誌 2003 : 464, 455.

(大場達之)



C ハナムグラ アカネ科

要保護

Galium tokyoense Makino 絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で6枚輪生。多花で花冠は4裂し、白色。虫媒で、水散布。[H]オギ・ヨシ群団。

【分布】本州。朝鮮、中国。

【県内の状況】利根川水系の湿地、河川敷及び栗山川中流部の河川敷とその周辺湿地に群生地が確認されている。

【保護対策】大型草本の刈り取りを行い、小型草本の生育可能な環境を維持することが望ましい。

【文献】岩瀬・谷城・市原・野口・久保田(2007): 栗山川中流部河川敷の植物と植物群落。千生誌 57(1,2): 39-45 / 千植誌 2003 : 477,460.

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



C カワラマツバ アカネ科 要保護

Galium verum L. var. *asiaticum* Nakai form. *nikkoense* (Nakai) Ohwi

【種の特性】多年生草本。日当たりの良い乾いた土手や草地に生える。葉は単葉で輪生。茎は刺がなく細毛を密生する。虫媒で、風散布。[H] ススキ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】茂原市、柏市、市原市に記録がある。近年は報告がない。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城 (2003) : アカネ科 千葉県植物誌 477.

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



C スナビキソウ ムラサキ科 要保護

Argusia sibirica (L.) Boehmer

【種の特性】高さ 15 ~ 30cm の夏緑の多年生草本。海岸の砂浜に生える。茎は斜上し、円筒形で、剛毛が生える。葉は互生、長楕円形で、長さ 3 ~ 5cm、両面に荒い毛が生える。葉柄は短い。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花冠は白色、5 裂し、花筒は短い、径 7 ~ 12mm で、喉部に鱗片はない。果実はほぼ楕円形球、径約 8mm。虫媒で、重力・海流散布。[G] スナビキソウ - ハマニンニク群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー、シベリア。

【県内の状況】主として安房地方に分布し、外房、九十九里、銚子の海岸にも点在する。

【保護対策】自然な砂浜を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 482, 472.

(大場達之 / 天野 誠 追補)



C サツマイナモリ アカネ科 要保護

Ophiorrhiza japonica Blume

【種の特性】暖地の山の木陰に生える常緑多年生草本。葉は単葉で対生。花冠は筒型で先は 5 裂し、内側に白い毛が生え、乾くと赤褐色になる。花期は 1 ~ 4 月。虫媒で風散布。[H] カクレミノ - スダジイ群目。

【分布】本州 (関東以西)・本州・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】県南部の丘陵地の谷間の湿潤な所に生育する。清澄、三石山系に多い。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 :

466,457. / 谷城・森 2007 : 内浦山自然環境保全地域の植物相. 千葉県自然環境調査報告書. 千葉県環境部自然保護課 23-40.

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



C マルバチシャノキ ムラサキ科 要保護

Ehretia dicksonii Hance

【種の特性】高さ約 3 ~ 4m 程度の夏緑の高木。海岸部の林縁や急な崖に生える。枝は灰褐色で、樹皮は荒く割れる。葉は互生、広卵形で、鈍頭、基部は円形で、有柄、長さ約 14cm、鋸歯縁で、硬い毛がある。枝先に散房花序を付ける。花は 5 数性。萼片は広披針形で、長さ約 3mm で、短い萼筒がある。花冠は、星形で、白色で、径約 10mm。雄しべは萼筒の先に癒合し、花糸は約 5mm、柱頭は 2 裂し、心皮は合生。果実は球形の核果で、径 6 ~ 8mm、黄熟する。萼と花柱は宿存する。虫媒で、鳥散布。[MM]

【分布】本州 (関東以西)・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】天津小湊町周辺に知られ、付近では植えられたものもある。

【保護対策】生育地の保全。種子からはよく芽生えるので、生育環境を保全すれば存続は容易である。

【文献】浅野貞夫 1950 マルバチシャノキ房総南部に自生す。採集と飼育 12(9) : 286-287. / 千植誌 2003 : 482,472.

(大場達之 / 天野 誠 追補)



C カリガネソウ クマツヅラ科 要保護

Caryopteris divaricata (Siebold et Zucc.) Maxim.

【種の特性】夏緑小低木。やや湿った肥沃な林の林縁に生える。葉は単葉で対生。虫媒で、鳥散布。ヨモギ群綱。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県南部に多く記録されているが、我孫子市などの報告もある。シカが食べないので今後増殖する可能性もある。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 486, 475.

(大場達之)



C キセワタ シソ科 要保護

Leonurus macranthus Maxim. 絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。路傍・林縁などに偶発的に生える。虫媒で、重力散布。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】県北部に報告が多いが鴨川市からも記録がある。

【保護対策】偶発的に発生する種類なので安定的な保護は難しい。

【文献】千植誌 2003 : 507, 511.

(大場達之)



C ジャコウソウ シソ科 要保護

Chelonopsis moschata Miq.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国。

【県内の状況】房総丘陵の谷間の湿った林やその林縁に生える。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 506, 510.

(大場達之)



C テンニンソウ シソ科 要保護

Leucosceptrum japonicum (Miq.) Kitamura et G. Murata

【種の特性】多年生草本。花茎は直立し高さ40~70cm。茎の基部は木化する。葉は単葉で対生鋸歯がある。花は9月に咲く虫媒で、重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H] オニシモツケ - オオヨモギ群目。

【分布】北海道・本州・四国。

【県内の状況】千葉県最高峰である愛宕山などに知られている。

【保護対策】自生地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 504, 500.

(大場達之)



C ラショウモンカズラ シソ科 要保護

Meehania urticifolia (Miq.) Makino

【種の特性】多年生草本。地表に匍匐枝を長く伸ばす。葉は単葉で対生鋸歯がある。花茎は直立し高さ 10 ~ 20 cm。花は 5 ~ 6 月に咲く虫媒で、重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H] オニシモツケ - オオヨモギ群目。

【分布】北海道・本州・四国。

【県内の状況】野田市の山林で 1995 年に発見され、2008 年には鎌ヶ谷市でも記録された。



【保護対策】自生地の環境を保全する。

【文献】岩槻秀明 2006 千葉県
のラショウモンカズラ。
千植誌資料 21 : 180.

(大場達之)

C ヒキオコシ シソ科 要保護

Rabdosia japonica (Burm.) H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。ブナ帯要素。[H] ススキ群目。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】関東地方では山麓などに普通であるが、千葉県では少ない。かつての牧に多く見られた可能性がある。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 492, 495.

(大場達之)



C ヤマジソ シソ科 要保護

Mosla japonica (Benth.) Maxim. 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】一年生草本。痩せた土地の芝生、あるいはススキ草原のなかの小裸地などに群れて生える葉は単葉で対生。[Th] 葉は単葉で対生。[H] 虫媒で重力散布。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】かつての牧には多かったと推定される。下総台地で記録されているが、稀である。

【保護対策】半自然のススキ草地进行維持管理することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 501, 497.

(大場達之)



C ヤマトツナミソウ シソ科 要保護

Scutellaria pekinensis Maxim. var. *transitra* (Makino) H.Hara

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。花は青紫色で花筒が花茎に沿って立たず開出することが、ほかのツナミソウ類と異なっている。虫媒で、風散布。低地遺存 [H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】下総台地で記録されている。湿った肥沃な林に生える。

【保護対策】鑑賞目的などでの採取を防ぐ。自生環境を保つ。

【文献】千植誌 2003 : 491, 494.

(大場達之)



C ヤマホロシ ナス科

要保護

Solanum japonense Nakai

- 【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[G]
- 【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。
- 【県内の状況】社寺などの林に生えるが、個体数は少ない。
- 【保護対策】自生環境の保全。
- 【文献】千植誌 2003 : 518, 512.

(大場達之)



C フジウツギ フジウツギ科

要保護

Buddleja japonica Hemsley

- 【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。やせた河原、切り通しなどに先駆的に現れる。[N]ニシキウツギ - ヤシャブシ群群網。
- 【分布】本州・四国。
- 【県内の状況】ブナ帯に分布の中心のある種類で丹沢山地などでは普通であるが、房総半島では希である。
- 【保護対策】生育地の保全。林道法面などの過剰なコンクリート吹きつけをやめる。

【文献】千植誌 2003 : 524, 516.

(大場達之)



C オオマルバノホロシ ナス科

要保護

Solanum megacarpum Koidz.

- 【種の特性】多年生草本。湿地に生える植物。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[G]
- 【分布】北海道、本州（関東、中部以北）、千島、サハリン。
- 【県内の状況】利根川水系からの報告が多い。
- 【保護対策】自生環境を保全する。
- 【文献】千植誌 2003 : 518, 512.

(大場達之)



C アブノメ ゴマノハグサ科

要保護

Dopatrium junceum (Roxb.) Buch.-Ham. ex Benth.

- 【種の特性】一年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、水散布。水田に生えるが少ない。[Th]アゼナ群団。
- 【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。
- 【県内の状況】県北部の水田に普通であったが、農薬の使用や水田耕作の方法の転換で著しく減少している。
- 【保護対策】農薬の過度の使用をやめる。
- 【文献】千植誌 2003 : 538, 528.

(大場達之)



C ミゾホオズキ ゴマノハグサ科 要保護

Mimulus nepalensis Benth.

【種の特性】多年生草本。湧水の周辺などにまとまって生える。花は6～7月に咲き黄色。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[H] オオバセンキュウ - タネツケバナ属群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾。

【県内の状況】おもに下総台地で記録されているが、清澄山などの記録もある。

【保護対策】湧水池を自然な状態に保全する。

【文献】千植誌 2003 : 538, 528.

(大場達之)



18メッシュ
最新記録 2006年

C ケイワタバコ イワタバコ科 要保護

Conandron ramondioides Siebold et Zucc. var. *pilosus* Makino

【種の特性】多年生草本。渓谷などの湿った岩場に群れて生える。葉は単葉で対生。花は7～8月に咲き、花冠は5裂し紫色で、直径約15mm。虫媒で、風散布。[E] チャセンシダ群綱。

【分布】本州（関東～近畿）、花茎、花序などに毛のないものが母種のイワタバコで、本州・四国・九州・琉球に分布する。関東南部ではシイ・カシ帯にケイワタバコ、ブナ帯にイワタバコが分布する。

【県内の状況】房総丘陵の渓谷の岩場に見られる。

【保護対策】観賞用目的の採取を防ぐ。

【文献】千植誌 2003 : 543, 532.

(大場達之)



75メッシュ
最新記録 2008年

C ゴマノハグサ ゴマノハグサ科 要保護

Scrophularia buergeriana Miq. 絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】大形の多年生草本。大きな個体は2mを超える。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[H] ススキ群目。

【分布】本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】河川氾濫原や半自然草地に生え、下総台地のかつての牧には多かったものと推定される。房総丘陵からの報告はない。

【保護対策】半自然草原の保全。かつての牧の跡地の開発予定地などでは、適当な草刈り管理によって、かつての牧と同じような組成の草地が復活しているところがある。そのような草地の一部を計画的に自然公園として保全することが望まれる。

【文献】千植誌 2003 : 536, 526.

(大場達之)



35メッシュ
最新記録 2006年

C オオナンバンギセル ハマウツボ科 要保護

Aeginetia sinensis G.Beck

【種の特性】寄生性の一年生草本。葉は無葉緑。虫媒で、風散布。[Th] トダシバ - ススキ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。中国。

【県内の状況】県内では8ヶ所で記録されている（内1ヶ所はメッシュ不明）。ナンバンギセルとの混同があると考えられる。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 543.

(大場達之)



7メッシュ
最新記録 1996年

C ヒナギキョウ キキョウ科 要保護

Wahlenbergia marginata (Thunb. ex Murray) A. DC.

【種の特性】多年生草本。乾いた芝草地、路傍、砂浜の後背地などに見られるが少ない。

葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。シバスゲ群目。[H]

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】海岸付近の砂地などに点在する。

【保護対策】適切な人為管理を行って草地環境を維持することが望ましい。



【文献】千植誌 2003 : 561, 555.
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)

C ゴマナ キク科 要保護

Aster glehni Fr.Schm.

【種の特性】夏緑の大形多年生草本。県内では湧水地周辺に生え、シラネセンキュウと共存することが多い。地下茎があり、茎は直立し高さ50~100cmで上部で分枝する。花は8~10月に咲き、散房状に密に頭花をつける。舌状花は白色。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】本州。

【県内の状況】主として県北に多いが木更津市に離れた産地がある。

【保護対策】

【文献】伊藤至 1960 千葉県でゴマナ採集。植物採集ニュース 60 : 13-14 / 千植誌 2003 : 598, 586.
(大場達之)



C ヤマハハコ キク科 要保護

Anaphalis margaritacea Benth. et Hook.f. var. *angustior* (Miq.) Nakai

【種の特性】多年生草本。乾いて裸出した路傍などに見られる。茎は高さ30~50cm。葉は単葉で互生し線状披針形、密に白い蜘蛛毛をかぶり、全体が白く見える。花は9~10月に咲き、花序は散房状で多数の頭花が密に集まる。総苞は乾膜質で白色。虫媒で、風散布。オニシモツケ - オオイタドリ群団。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、サハリン、千島、カムチャッカ。

【県内の状況】主として県北部に点々と記録があるが、造成地などの攪乱された裸地に生えることが多い。関東山地から風で飛来した種子

にもとづく偶生である可能性がある。ブナ帯からの飛来要素か、

【保護対策】自生地の環境を維持する。

【文献】千植誌 2003 : 603, 606.

(大場達之)



C ウラギク キク科 要保護

Aster tripolium L. 絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】夏緑の中形からやや大形の1年草~多年草。潮の入る湿地に群れて生え、茎は太く直立し高さ30~60cm。上部は分枝して頭花を散房状にやや密につける。舌状花は紫色。冠毛は赤紫色を帯びる。虫媒で、風および水流散布。ウラギク群綱 (= マリティマイ群綱)。

【分布】北海道・本州・四国・九州。ユーラシア中~北部に広く分布。

【県内の状況】東京湾岸および九十九里浜の河口などに分布するが、東京湾岸の埋め立てで自然的な群落は激減し、埋め立て地の間の水路などにわずかに生き延びている。

【保護対策】自生植物が生える塩湿地を確保する必要がある。

【文献】千植誌 2003 : 598, 586.

(大場達之)



C キクタニギク キク科

要保護

Chrysanthemum seticuspe Hand.-Mazz. f. *boreale* H. Ohashi et Yonek.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】夏緑多年生草本。葉は単葉で互生。茎は斜面などに倒れて垂れ下がるが多い。虫媒で、重力散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】かつての自生地では、ほとんど失われているが、最近道路法面などの緑化のための混合種子に混じって、中国あるいは韓国産の系統が入り込んでいる。これは種としては同一であるが、遺伝的には別系統のものであり、排除すべきものと考えられる。RDに指定するものは日本に土着の系統である。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持する。

【文献】千植誌 2003 : 617, 611.

(大場達之)



C オグルマ キク科

要保護

Inula japonica Thunb.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。オグルマに近縁のホソバオグルマおよびオグルマとホソバオグルマの雑種であるサクラオグルマが県内に分布する。ホソバオグルマに似ているが、葉は緑色が濃く幅広く、ロゼットをつくらず、花が大きい。[H]ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国。

【県内の状況】水田周辺の草地など、人為的な攪乱のある場所に見られ、かつて切り花用(ミソハギのように)あるいは薬用などの目的で、人家周辺に保護されていた可能性がある。現在の産地は限られている。

【保護対策】観賞目的などでの採集を控える。

【文献】千植誌 2003 : 613, 608.

(大場達之)



C シロバナタカアザミ キク科

要保護

Cirsium pendulum Fisch. ex DC. var. *albiflorum* Makino

【種の特性】タカアザミに似るが筒状花は白色で6月頃に咲き、河川により浸水頻度の高いところに生える。生態的特質から単なる白色花の品種ではなく変種相当の分類群と考えられる。

【分布】タカアザミと同じ範囲に分布すると考えられるが、明らかでない。

【県内の状況】千葉市から野田市にかけて点々と産地が知られている。

【保護対策】自生地の河川敷の改変を避ける。

【文献】千植誌 2003 : 579, 570.

(大場達之)



C ホソバオグルマ キク科

要保護

Inula linearifolia Turcz.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】中形の多年生夏緑草本。自然的な湿地に生える。茎は高さ40~70cm。葉は線状披針形で明るい緑色、縁が下側に巻き込み、下面に白く光る腺点が多い。株の周囲にロゼットを出す。花は8~9月。[H]

【分布】本州・九州。朝鮮半島、中国、シベリア。

【県内の状況】産地は県の北部に集中している。

【保護対策】低地の自然的な湿地を保存する。

【文献】千植誌 2003 : 613, 608.

(大場達之)



要保護

C カセンソウ キク科

要保護

Inula salicina L. var. *asiatica* Kitamura

【種の特性】多年生草本。半自然の管理の行き届いた草地、明るい雑木林などに生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。ススキ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。[H]

【県内の状況】ほぼ全域で記録されているが、房総丘陵では少ない。

【保護対策】観賞用などでの採取を防ぐ、自生環境を保持する。

【文献】千植誌 2003 : 613, 608.

(大場達之)



C キクアザミ キク科

要保護

Saussurea ussuriensis Maxim.

【種の特性】多年生草本。茎は高さ 50 ~ 150cm。葉は単葉で互生し、茎下部の葉は長楕円形で長い柄があり、羽状に深く分裂し側裂片は 4 ~ 6 対。花は 9 ~ 10 月に咲き、花序は散房状。頭花は多数、総苞は細い筒形で長さ 10 ~ 14mm で蜘蛛毛があり、裂片は 8 列につく。筒状花は紅紫色。虫媒で、風散布。[H] ススキ群綱。

【分布】本州・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】ミヤコアザミと同様な、よく管理されたススキ草地に生える。遺存牧野要素。八街市から鴨川市にかけて分布し、県北部には記録がない。

【保護対策】自然的な種組成を残した草原の保全を図る。多様性保全草地のような指定をして、草刈り管理などに補助金を出すなどの工夫が求められる。

【文献】千植誌 2003 : 575, 567.

(大場達之)



C オオニガナ キク科

要保護

Prenanthes tanakae (Koidz.) Koidz. 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。湧水地周辺のハンノキ林、湿原などに生える。根茎は横走し、茎は高さ 80 ~ 150cm で直立し普通は枝分かれしない。葉は単葉で互生。茎の葉は卵状 3 角形で葉柄に翼がある。花は円錐花序につき、頭花は径 3.5 ~ 4cm で黄色。虫媒で、風散布。[HH] ヨシ群綱。ブナ帯植物の低地遺存要素であろう。

【分布】本州 (近畿以東)。

【県内の状況】千葉県内の広い地域から記録があり、自生地では群生することが多い。現在は湿地の開発により極めて少なくなっている。

【保護対策】自然的な湿地を計画的の保護する。

【文献】浅野貞夫 (1966) 習志野から消えたオオニガナ。植物採集ニュース 24 : 7 / 千植誌 2003 : 646, 637.

(大場達之)



C オカオグルマ キク科

要保護

Senecio integrifolius (L.) Clairv. var. *spathulatus* (Miq.) H.Hara

【種の特性】多年生草本、乾いた土手などに生える。全体にクモ毛がある。葉は単葉で互生し、茎基部の葉はロゼット状で長楕円形。茎は高さ 20 ~ 60cm で直立し、上部は散房状の花序となり頭花を 3 ~ 7 個つける。花は 5 ~ 6 月、舌状花は黄色。虫媒で、風散布。ススキ群綱。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】千葉市から館山市にかけて分布し、県北部には記録がない。

【保護対策】水田などの土手の刈り取り管理を正しく行い、耕地整理などの時に外来牧草などで置き換えない。

【文献】千植誌 2003 : 602, 605.

(大場達之)



C トウゴクヘラオモダカ オモダカ科 要保護

Alisma rariflorum Sam. 絶滅危惧 IB 類 (EN)

【種の特異】ため池、水路に生える抽水性または湿地性の多年草。ヘラオモダカに似るが、葉身は小型楕円形で花弁は6～7mmで、大形である。花序の最下の柄は普通2本。花は午後1～2時頃から咲き始める（ヘラオモダカは午前中から咲く）。

【分布】本州・九州。

【県内の状況】県中～北部に点在する。清涼な絞り水で潤った台地斜面下の湿所で見出されることが多い。従来の記録が少ないのは、ヘラオモダカやサジオモダカと混同されてきたためと思われる。

【保護対策】生育適地となる湿地や水辺の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】薄葉満 1986 水草研究会会報 (25):16-19 / 千植誌 2003 : 652,643.

(谷城勝弘)



C ヤナギスプタ トチカガミ科 要保護

Blyxa japonica (Miq.) Maxim. ex Asch. et Grke.

【種の特異】沈水性の一年生草本。茎は5～20cm伸長して枝を分かち、葉は単葉で互生。花は8～10月に咲き柄が無く苞鞘につつまれて1個着き両性。水媒で水散布。[Th] ヒツジグサ群団。

【分布】本州～琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】各地の水田および周辺の水路に見られるが、除草剤の使用などで、谷津の奥の水田などに生育が限られている。

【保護対策】除草剤などを使用しない生物多様性保存水田の実現を望みたい。

【文献】千植誌 2003 : 655,644.

(大場達之)



C アギナシ オモダカ科 要保護

Sagittaria aginashi (Makino) Makino 準絶滅危惧 (NT)

【種の特異】湖沼、ため池、湿地などに生育する抽水性～湿性の多年草。オモダカに似るがやや高標高の池沼の水辺など攪乱の少ない安定した環境に生えることが多い。葉の側裂片先端はやや丸みを帯びる。夏の終わり頃から葉柄基部に多数の小球茎（むかご）を形成する。

【分布】北海道、本州、四国、九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内全域に記録が点在する。記録中には本種によく似たソノバオモダカ form. *longiloba* Makino を誤同定したものが含まれる可能性がある。

【保護対策】自然的な湿地を保存する。

【文献】千植誌 (2003) : 653.

【写真】群馬県月夜野町大峰 05.7.30 / 谷城勝弘

(谷城勝弘)



C クロモ トチカガミ科 要保護

Hydrilla verticillata (L.f.) Royle

【種の特異】沈水性の多年生草本。葉は単葉で4から8葉を輪生。葉は披針形で鋸歯があり、長さ1～2cm。花は8～10月に咲き、雌花は葉腋に着き、雄花は熟すると苞鞘から離れて水面に浮かぶ。水媒で水散布。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】印旛沼など既存の産地は水質悪化で絶滅したところが多く、山間地の湧水で涵養される池などに産地が限られている。水質の汚濁と共にオオカナダモに置き換わっているところが多い。

【保護対策】池・沼の水質を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 654,661.

(大場達之)



C トチカガミ トチカガミ科 要保護

Hydrocharis dubia (Blume) Backer 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】浮葉性の多年生草本。葉は単葉で互生し円形で光沢があり径4~8cm、下面に浮き袋がある。花は8~10月に水面に浮かんで咲き、果皮は3枚で白色。水媒あるいは虫媒で、水散布。[HH] ヒルムシロ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】主に九十九里低地や利根川水系の池・沼に見られたが著しく少なくなっている。

【保護対策】水田周辺の水質保全。

【文献】千植誌 2003 : 656,661.

(大場達之)



C セキショウモ トチカガミ科 要保護

Vallisneria asiatica Miki

【種の特性】沈水性の多年生草本。地中に平滑で白色の地下茎がある。葉は線形で螺旋状によじれることが多い。葉の縁の鋸歯は低い。花は8~10月に咲き、雌花の花茎は長く、花の後に螺旋状に巻いて果実を水中に引き込む。雄花の花茎は長さ2~3cmで熟すると離脱して水面に浮かぶ。水媒で、水散布。ヒツグサ群団。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。東アジア。

【県内の状況】かつては水田周辺の用水路に普通であったが、現在ではほとんど見られなくなっている。

【保護対策】水田周辺の水質および水路の構造の改善。

【文献】千植誌 2003 : 655,661.

(大場達之)



C ミズオオバコ トチカガミ科 要保護

Ottelia alismoides (L.) Pers. 絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】沈水性の一年生草本。かつては水田に普通な雑草であったが、除草剤などによって極端に個体数が減少し、谷津奥の湧水の多い水田などに限られている。葉は単葉で根生しロゼット状になる。葉身は薄くしわがあり、倒披針形から卵心形で長さ10~25cm、幅2~15cm。葉の大形のものをおオミズオオバコとして区別することがある。花は両性、花茎は根生し花は水面で咲く。花弁は白から淡紅色。虫媒で、水散布。ヒツグサ群団。[Th]

【分布】本州~琉球。朝鮮、中国、ウズリー、インド、オーストラリア。

【県内の状況】県内全域に見られる。

【保護対策】水田周辺の水質を改善する。

【文献】伊藤至(1969)手賀沼のおオミズオオバコ。植物採集ニュース45:66。/千植誌2003:655,661.

(大場達之)



C エビアマモ アマモ科 要保護

Phyllospadix japonica Makino 準絶滅危惧

【種の特性】岩礁海岸潮下帯上部に生える多年草。茎は太く枯れた葉の基部の黒褐色の繊維で被われる。葉は長さ30~100cmで幅1.5~2.5mmで3脈があり、葉の縁には透明で鋭い鋸歯が並ぶ。花は4~5月に咲く。

【分布】本州(茨城県以西)・四国・九州、サハリン、朝鮮、ブリーモリア。

【県内の状況】犬吠埼から白浜にかけての太平洋岸に見られる。牧野富太郎が1896年に安房天津で採集した標本によって記載した。

【保護対策】岩礁海岸を自然に保つ。

【文献】Makino, T. 1897 Bot. Mag. Tokyo 13:269/千植誌2003:658,663/大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 9、40-41.

(宮田昌彦)



C トリゲモ イバラモ科 要保護
Najas minor All. 絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】池沼、ため池などの生える一年生の沈水植物。植物体は硬く、葉は1～2cmで外側に反り返る。雄ずいの葯は1室。通常は水深が10～20cmの場所に生育する。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。世界の温帯～熱帯。

【県内の状況】近年は手賀沼畔、印旛沼畔の実験池などに少数個体の生育が確認されている。オオトリゲモと同所的に混生して生えることが多い。かつての湿田状態の稲作水田で比較的良好にみられた水田雑草であるが、農業の近代化に伴い水田地帯では急減した。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 671.

(谷城勝弘)



C アマナ ユリ科 要保護
Amana edulis (Miq.) Honda

【種の特性】小型の多年生草本。地下に球茎があり、春二枚の白っぽい葉を二枚地表に広げ、その中央から花茎を出す。花茎の上部に対生する苞葉をつけ、1個の白い花を開く。陽光を受けて開き、日がかけると閉じる。やや湿った林の下、林縁などに群れて生える。虫媒で、虫散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】県の北部に多く分布し、君津市が南限と考えられる。

【保護対策】鑑賞目的での採集をしない。

【文献】千植誌 2003 : 688, 682.

(大場達之)



C ソクシンラン ユリ科 要保護
Aletris spicata (Thunb.) Franch.

【種の特性】小型の多年生草本。葉は単葉で根元に多数が互生して広がる。花茎は直立して枝分かれせず、淡紅色を帯びた花を多数つける。虫媒で、風散布。[H] ススキ群団。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。台湾、中国、フィリピン。

【県内の状況】湿った崖の斜面に見られることが多い。銚子丘陵・長南町・長柄町・館山市などに多く見られ、よく草刈りの行われている谷津田の側壁にノグサ、コケリンドウなどと共に生えることが多い。

【保護対策】斜面草地の保存をはかる。

【文献】千植誌 2003 : 676, 677.

(大場達之)



C ヒロハノアマナ ユリ科 要保護
Amana latifolia (Makino) Honda 絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】小形の夏緑多年草。肥沃な雑木林の下に生える。地下の球茎から2枚の根出葉をだす。葉の中脈ぞいは白色。花は3～4月。花茎には3枚の苞葉があり、1個の白色の花を上向きに咲かせる。花は陽光を受けて開く。虫媒で、虫散布。[G] ブナ群団。

【分布】本州(関東～近畿)・四国。

【県内の状況】柏市からの報告があるのみである。絶滅した可能性が高い。

【保護対策】県北部の雑木林を精査し、残存個体群を発見することが望まれる。

【文献】千植誌 2003 : 688, 682.

(大場達之)



要保護

C クサスギカズラ ユリ科 要保護

Asparagus cochinchinensis (Lour.) Merr. var. *lucidus* Hatusima

【種の特性】中型の常緑多年生草本。海岸の崖地に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[G] ボタンボウフウ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】一般に海崖のしづきの当たるような草地にはえるが、千葉県では砂浜海岸のクロマツ林の周辺で採集されている。

【保護対策】自生環境を保つ。

【文献】千植誌 2003 : 674, 666.

(大場達之)



C ツクシショウジョウバカマ ユリ科 要保護

Helonias breviscapa (Maxim.) N.Tanaka

【種の特性】小型の多年生草本。湿った川岸の崖に生える。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。ショウジョウバカマに似ているが、葉は薄く縁は波曲し、細鋸歯状の突起が並ぶ。花はわずかに紅色を帯びた白色。これまで千葉県でシロバナショウジョウバカマと呼ばれてきた。[G]

【分布】本州(関東以西)・四国。

【県内の状況】市原市から鴨川市までの房総丘陵に分布する。

【保護対策】鑑賞目的での採集を禁止すべきである。

【文献】N.Tanaka 1998

Journ. Jap. Bot. 73:111 / 千植誌 2003 : 676, 678.

(大場達之)



C キジカクシ ユリ科 要保護

Asparagus schoberioides Kunth

【種の特性】中型の多年生草本。コナラなどのやや乾いた林の林床に見られる。葉は針状の単葉で互生。虫媒で果実は赤く熟し鳥散布。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、サハリン、ウスリー。

【県内の状況】房総半島南部に点々と自生が見られるが少ない。

【保護対策】生息地の下草刈りを定期的に行う。

【文献】大野正男(1972)千葉県下に於けるキジカクシの自生地。植物採集ニュース 63 : 42 / 浅野貞夫(1973)千葉県の高塚山と嶺岡山にもキジカクシが自生する。植物採集ニュース 66 : 68 / 千植誌 2003 : 674, 666.

(大場達之)



C コオニユリ ユリ科 要保護

Lilium leichtliiuii Hook.f. var. *tigrinum* (Regel) Nichols

【種の特性】中型の多年生草本。湿地、水田の土手に見られることが多いが、ススキ草原にも見られ。海岸の崖にも生える。平坦地では直立するが、斜面では垂れて生える。葉は単葉で互生。花は夏に咲き橙赤色で紫黒色の斑点がある。花被片は強く反曲する。虫媒で風散布。オニユリに似ているが葉腋にムカゴはできない。ススキ群網。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内各地に点在する。花が著しいので採集されることが多く、どこでも個体数が少ない。

【保護対策】鑑賞目的での採集を禁止するべきである。

【文献】千植誌 2003 : 687, 681.

(大場達之)



C スカシユリ ユリ科 要保護

Lilium maculatum Thunb.

【種の特性】中型の多年生草本。海崖の前線にイソギク、ハチジョウウススキなどと共に生える。葉は単葉で互生。斜面に下垂して、6-7月ころに橙赤色の花を上向きに咲かせる。花被片の基部に隙間がある。虫媒で、風散布。[G]ワダン-イソギク群網。

【分布】本州。

【県内の状況】海岸の崖にイソギクなどと共に生えるが、砂浜の後背地に生えることもある。外洋に面したところに多いが、東京湾奥の千葉市で記録されたこともある。かつては現在よりも広い範囲に分布していた者と考えられる。

【保護対策】園芸目的での採集をやめる。

【文献】千植誌 2003 : 687,681.

(大場達之)



C ホシクサ ホシクサ科 要保護

Eriocaulon cinereum R.Br. var. *sieboldianum* Murata

【種の特性】一年生草本。湿地性(水田、休耕田を含む)葉は単葉で束生。葯は白色。総苞片及び花苞は鈍頭またはや鋭頭。種子は楕円形で黄褐色。虫媒で、水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、アフリカ。

【県内の状況】水田や休耕田での生育が多く、稲刈り後の田面に一斉に発芽することがある。長生・茂原地域には複数の群生地がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 407 / 新千植誌 1975 : 453 / 折目 1993 富里の植物 : 110 / 千植誌 2003 : 711,700.

(谷城勝弘)



C ミズアオイ ミズアオイ科 要保護

Monochoria korsakowii Regel et Maack 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】小~中形の一年生草本。植物体は軟弱で高さ 20 ~ 40cm。葉は単葉で互生し、長い葉柄があり、心形~卵心形。花は 9 ~ 10月に咲き、花序は頂生し総状。花は青紫色で直径 2.5 ~ 3cm。虫媒で水散布。[Th] タウコギ群網。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ブリモリア。

【県内の状況】県北部の各地で記録されているが、どこでも個体数が少なく安定的な産地は少ない。水田周辺の溝、池などに生える。水田中にも見られるが、除草剤の使用で消滅する。

【保護対策】農薬で汚染された排水の影響を受けない平地の水域を計画的に保全する。

【文献】千植誌 2003 : 702,694.

(大場達之)



C イトイヌノヒゲ ホシクサ科 要保護

Eriocaulon decemflorum Maxim.

【種の特性】湿地に生える一年生草本。葉は長さ 5 ~ 10cm、先は尖る。花茎は 30cm の長さになる。頭花は白色。総苞片は頭花より長く緑白色。種子は表面にかぎ毛がある。高さ 10cm 以下で頭花の小型のものをイトイヌノヒゲ var. *decemflorum*、高さ 20 ~ 30cm で頭花の大型のものをイトイヌノヒゲ var. *nipponicum* とされたこともあるが、変異は連続していて区別できない。

【分布】北海道、本州、四国、九州。朝鮮。

【県内の状況】多くの県内記録があるが、近年は消滅する産地が後を絶たない。湿地の改変、放置による植生の遷移が主原因である。

【保護対策】近年における湿地の著しい減少で絶滅の危惧される湿性植物が急増している。湿地を良好な環境で維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 711 (谷城勝弘)



C ニッポンイヌノヒゲ ホシクサ科 要保護

Eriocaulon hondoense Satake

【種の特性】一年生草本。湿地性(水田、休耕田を含む)。葉は単葉で束生。イヌノヒゲに似るが花苞、花弁は無毛。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。済州島

【県内の状況】清涼な水湿地や湿田を中心に生育するが、そのような環境の急減によって激減している。ヒロハイヌノヒゲと混生していることが多い。谷津奥などの湿田での調査密度が不足しており、分布状況の詳細は明らかでない。

【保護対策】生育可能な湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:407 / 新千植誌 1975:453 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原・千葉県自然環境保全学術調査報告書:7-56 / 折目 1993 富里の植物:110 / 千植誌 2003:711,700。

(谷城勝弘)



C ヒメコヌカグサ イネ科 要保護

Agrostis valvata Steud.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】根茎の発達しない多年草で谷津田の水湿地にみられる。花序は半輪生でまばらにみえる。小穂は淡緑色で、赤紫色に染まることがある。小花が苞穎より突き出しているのが特徴。花期は5~6月。日本特産。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州。

【県内の状況】全国的にみて少ないが、千葉県では北西部の湿地またはコナラの二次林に点々とみられる。

【保護対策】生育環境である湿地の保全。

【文献】千植誌 2003:732, 733。

(木村陽子)



C クロヒロハイヌノヒゲ ホシクサ科 要保護

Eriocaulon robustius (Maxim.) Makino var. *nigrum* Satake

【種の特性】一年生草本。湿地性(水田、休耕田を含む)。葉は単葉で束生。虫媒で水散布。ヒロハイヌノヒゲに似るが花苞や萼の上部が黒色を帯びる。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】ヒロハイヌノヒゲと同所的に生育し、少数個体が混生して確認されることが多い。本種の生育可能な湿地環境は激減している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】折目 1993 調査会目録:152 / 折目 1993 富里の植物:112 / 千植誌 2003:711,700。

(谷城勝弘)



C ノゲヒメコヌカグサ イネ科 要保護

Agrostis valvata Steud. var. *aristata* Yoko Kimura var. nov.

【種の特性】ヒメコヌカグサは芒がないとされているが、1991年富里市で、折目庸雄氏が芒のある型を採集された(折目庸雄,1991.5.14, CBM-BS-60486)。その後も、酒々井町など数カ所でのこの型の生育が確認されている。花期は5~6月。

【分布】本州(今のところ千葉県のみ)。

【県内の状況】富里市、酒々井町の湿地。

【保護対策】生育環境である湿地の保全。

【文献】千植誌 2003:732,733。

(木村陽子)



C アズマガヤ イネ科 要保護

Hystrix longearistata (Hack.) Honda

【種の特性】太い根茎のある多年草。花序の中軸に斜上する軟毛が密。稈の節部にも下向きの軟毛がある。葉身は基部近くでよじれ、上面は下を向き白緑色。下面は上を向き緑色で光沢がある。苞穎は針状で宿存性で残る。護穎は長さ9～13mmでやや革質、先端に10～22mmの芒がつく。花期は5～7月。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮北部。

【県内の状況】鋸南町鋸山、神崎町、香取市、富津市、旧富山町など、産地の数は少ないが、群生するところもある。

【保護対策】日当たりの良い林縁などでは繁殖が盛んであり、結実も良好なので、産地の保護を図れば、絶滅は免れる。

【文献】伊藤至 1964 鋸山のアズマガヤ。千葉県生物誌 14(2) : 49 / 千植誌 2003 : 757, 749.

(木村陽子)



C ミノボロ イネ科 要保護

Koeleria pyramidata (Lam.) P.Beauv.

【種の特性】多年草。草原に生える。花軸と稈の上部に軟毛が密。円錐花序は枝が短く扁平な穂状花序にみえ、長さ5～15cm。淡緑色。千葉県産の小穂は長さ4mm、3小花からなり、強く扁平で、第1苞穎は3mm、第2苞穎は4mm、護穎は2.5～4mm。ミノボロは変異の大きい種で、基本種は小穂が7～10mmと大きく、日本在来品(サトミノボロ)は4mm程度であるので、学名の再検討が必要かもしれない。千葉県産は、今のところ帰化系統はみられない。

【分布】北海道・本州・四国・九州。ヨーロッパ、アジア、北米、アフリカ。

【県内の状況】県北部。古い記録はあるが、近年では1995年6月12日に習志野市で行われた調査での標本と1996年君津市、2002年の記録があるのみである。

【保護対策】かつてのカヤ刈場、ススキ草地の復活、保全。

【文献】千植誌 2003 : 729, 723.

(木村陽子)



C ハイチゴザサ イネ科 要保護

Isachne nipponensis Ohwi

【種の特性】多年草。這った稈の節部から発根し、チゴザサに比べて稈高5～10cmと低く、小穂も小さく、小穂の柄に腺が無い。苞穎の背の上半部には長毛がまばらにある。花期は9～10月。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。朝鮮南部、台湾、中国。

【県内の状況】清澄、上総丘陵など暖地の湿った林中や路傍。あるところには群生するので、個体数は多い。

【保護対策】山中の湿地の保全。

【文献】千植誌 2003 : 762, 752.

(木村陽子)



C ササクサ イネ科 要保護

Lophatherum gracile Brongn.

【種の特性】小型の多年生草本。風媒で付着散布。ササの葉を思わせる葉には平行脈のほか、横脈が顕著。熟すと逆刺のある芒が衣服などに引っかかり運ばれる。

【分布】本州(茨城県以西)・四国・九州・琉球。朝鮮南部、台湾、東南アジア。

【県内の状況】主として北部のアカマツ林や疎林の林床に生える。

【保護対策】下刈りの行なわれる明るい林を良好に維持・管理することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 715, 717.

(木村陽子)



C セイタカヨシ イネ科

要保護

Phragmites karka (Retz.) Trin. ex Steud.

【種の特性】大型の多年生草本。稈は高さ2～4mにもなり、太さも2cmほどになり木化して硬くなる。葉先が垂れないで上を向く。稈の途中の節から枝を出す。花序も30～70cmと大形。小穂の長さは5～8mmで、ヨシより小さい。花期はヨシより遅く9～12月。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】北部には多いが、南部からの記録は少ない。川岸、河川敷に生育。近年、産地の確認が増えている。

【保護対策】河原・川岸を自然状態に保つなど生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 743, 736.

(木村陽子)



C ナガミノオニシバ イネ科

要保護

Zoysia sinica Hance var. *nipponica* Ohwi

【種の特性】多年生草本。海岸の風当たりの強い砂浜に生育する。風媒で水散布。葉先が硬化する。オニシバより全体細く、花序は葉鞘より抜け出る。花期は6～8月だが、千葉県南端部では、12月にも咲くことがある。海辺の塩湿地に生育する。

【分布】北海道(西南部)・本州・四国・九州・琉球。

【県内の状況】九十九里から東京湾までの海岸に生育する。

【保護対策】開発により残り少なくなった自然海岸を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 761, 752.

(木村陽子)



C ウキシバ イネ科

要保護

Pseudoraphis ukishiba Ohwi

【種の特性】多年生草本。水湿地や池に生育。風媒で水散布。稈は水中に伸びるが、花序は空気中に出し成熟すると下に曲がり水没するイネ科では珍しい水草。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮南部、中国。

【県内の状況】県内に散在する。市川市・柏市から北総を経て長生郡、大多喜町に至る。1996年には印旛村、大多喜町、袖ヶ浦市で記録されている。千葉県立中央博物館の舟田池改修(1989年)の際に埋土種子から発芽したと思われるものが数10㎡四方に広がり開花結実したことがある。

【保護対策】池や沼などの生育環境を良好に維持。

【文献】千植誌 2003 : 770, 776.

(木村陽子)



C ミクリ ミクリ科

要保護

Sparganium erectum L.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。湿地性または浅い水中。葉は単葉で互生。高さ1m以上になり、ミクリ属の中では最も大型の種。果実はほぼ等大のものからなる。風媒で水散布。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、インドなど。

【県内の状況】河川や池沼の岸辺に普通に見られたが、現在は谷津奥のため池や水路、斜面下の湿所などに点在する程度に減少した。湿地環境の改変で消滅する場所が後を絶たない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 433 / 新千植誌 1975 : 479 / 岩瀬徹 1989 県のミクリ属について. 千生誌 39(1) : 30-31 / 谷城・小野沢 1994 坂田城跡の自然. 千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 9-87 / 千植誌 2003 : 814.

(谷城勝弘)



C イセウキヤガラ カヤツリグサ科 要保護

Bolboschoenus planiculmis (F. Schmidt) T.V.Egorova

【種の特性】多年生草本。河口など汽水性の河畔、湿地に生える。葉は単葉で互生。コウキヤガラに似るが、葉は鋭三稜で小穂は1~2個。風媒で水散布。[HH]

【分布】本州（関東以西）

【県内の状況】古くは長生村一松村鷲海岸（浅野貞夫 1934.7, CBM-BS-165675）、夷隅郡大原町日在海岸（若名東一 1956.7.26, CBM-BS-10082）などの標本があるが、現在はこれらの既知産地での確認はない。河川改修、湿地の造成で消滅したものと思われる。近年、木更津

市、船橋市、銚子市、御宿町の海岸や河口部で確認されているが、生育地の環境改変で消滅するものが多い。

【文献】Koyama, T. 1958 T.J. Fac. Sci. Univ. Tokyo III 7(6) : 271-366 / 清水建美 1967 イセウキヤガラとその生態。植物研究雑誌 42(6) : 175-181 / 小山鉄夫 1980 日本のウキヤガラ属。Acta Phytotax Geobot. 31 : 139-148 / 伊藤至 1981 千生誌 30(2) : 49-50 / 木村陽子 1992 千生誌 42(1) : 1-8 / 千植誌 2003 : 883.

(谷城勝弘)



C ハリガネスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex capillacea Boott

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。マツバスゲ *C. biwensis* Franch. に似るが、果胞は2.5~3.0mmで大きく、熟して開出する。根は乾燥してやや白色を帯びる。[H]

【分布】北海道、本州、九州。朝鮮、中国、インド、オーストラリア。

【県内の状況】県中北部の谷津や湧水源付近、九十九里平野南部で確認されている。多古町次浦の湿地では、1990年代までマツバスゲ、エゾツリスゲ *C. papulosa* Boott などと混生して多数個体が生育したが、過度の刈り取りにより消滅した。

【保護対策】湧水源付近の環境を維持、保全する。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録 : 169 / 谷城勝弘 1992 調査会目録 : 165 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 粟山川中流部の湿原・千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 7-56 / 調査会目録 : 250 / 折目 1994 調査会目録 : 110-111 / 調査会目録 : 116 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物 : 37-50 / 千植誌 2003 : 819.

(谷城勝弘)



C イトハナビテンツキ カヤツリグサ科 要保護

Bulbostylis densa (Wall.) Hand. -Mazz.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で風散布。全草繊細。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、インド。

【県内の状況】九十九里浜平野中南部、特に茂原市と長生村には生育量が多い。造成地や表土の攪乱箇所にはしばしば出現するが、放置された所では数年で消滅してしまう。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。表土の攪乱や刈り取りによって遷移の進行を阻止するなどの管理を施すことも考えられる。

【文献】千植誌 1958 : 409 / 新千植誌 1975 : 455 / 折目 1993 富里の植物 : 128 / 千植誌 2003 : 866.

(谷城勝弘)



C ナルコスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex curvicollis Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。溪流のほとりに生える。葉は単葉で互生。風媒で水散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】県南部の丘陵地の川沿いに生育する。小櫃川上流、養老川上流域の溪流沿いには広範囲に群落が形成されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 409 / 大場ほか 1994 市原市の維管束植物・市原市自然環境実態調査報告書 : 322 / 谷城勝弘 1996 調査会目録 : 118 / 千植誌 2003 : 832.

(谷城勝弘)



C アサマスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex lithophila Turcz. 準絶滅危惧 (NT)

【種の特異】多年生草本。湿地性または草性。葉は単葉で互生。高さ30～40cm、地下に長い根茎をもつ。果胞の表面は無毛、茎は花後著しく伸長する。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州。朝鮮、中国北部。

【県内の状況】県内では初め印旛沼の低湿地で発見された(1988.4.30, 谷城勝弘, CBM-BS-030272)。その後、東庄町、香取市の利根川河川敷に複数の群生箇所が確認された。日本での既知記録は利根川上流の浅間山麓であり、本種は利根川上流部起源型(谷城 1995)に属す。満潮

時には感潮域となる利根川河口堰の下流側には生育しない。

【保護対策】群生地での刈り取りを継続することによって、ヨシ群落の遷移の進行を抑えとともに、生育地周辺の河川敷を保全することが望ましい。

【文献】谷城 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物 37-50 / 谷城勝弘 1999 千生誌 (49)1: 12-17 / 千植誌 2003: 829 / 谷城勝弘 2005 千生誌 55(1): 9-16。

(谷城勝弘)



C ヌカスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex mitrata Franch.

【種の特異】多年生草本。林縁または草性。葉は単葉で互生。基部は光沢のある褐色で繊維に分解しない。雌鱗片に芒がない。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州(関東以西)・四国。朝鮮、台湾。

【県内の状況】地域のフロラ調査における多数の記録があるが、ノゲヌカスゲ(var. *aristata* Ohwi)や他のアオスゲ類の誤同定が多い。酒々井町七曲(1990.4.7, 谷城勝弘, CBM)および市川市(木村陽子 2007)の確認標本がある。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 411 / 新千植誌 1975: 457 / 千植誌 2003: 838,826。

(谷城勝弘)



C ヤガミスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex maackii Maxim.

【種の特異】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉幅2～3mm、小穂は接近し、雌雄性。果胞は、卵形、扁平で広い翼があり、3.5mm。柱頭2。[H]

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国、アムール。

【県内の状況】利根川河畔、河川敷に点在するほか、同水系周辺の湿地にもまれに生育する。

【保護対策】定期的な刈り取りなどによる管理を行い、群落の遷移を抑えることが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 411 / 新千植誌 1975: 457 / 千植誌 2003: 829,822。

(谷城勝弘)



C タチスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex maculata Boott

【種の特異】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。全草粉緑色で柔らかい。小穂はほぼ直立する。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮南部、中国、インド。

【県内の状況】九十九里平野中～南部の湿地に点在する。横芝光町乾草沼、茂原市～長生村の湿地帯には複数の群生地があったが、湿地の放置によるヨシ優占群落への遷移の進行や土地の改変によって適性な環境が急減した。

【保護対策】生育地を良好に維持・保全していくことが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 411 / 新千植誌 1975: 457 / 谷城・細川・伊藤・小野沢・山田・野口・久保田 1996 乾草沼・千葉県自然環境保全学術調査報告書 / 千植誌 2003: 843,846 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物。千葉県自然環境保全学術調査報告書。千葉県環境生活部自然保護課 7-29。

(谷城勝弘)



C ミヤマシラスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex olivacea Boott var. *angustior* Kük.

【種の特性】多年生草本。森林性(湿所)または湿地性。葉は単葉で互生。シラスゲに似るが、葉は幅広く8~15mm。小穂は直立し、ほとんど下垂しない。果胞は著しく密接してつき、短い嘴がある。果胞は乾くと黒変する。風媒で、重力散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県南部の丘陵地の谷川沿いの湿地や県北部の台地斜面下の湧水源に点在する。古くは鴨川市嶺岡山で採集された標本がある(浅野貞夫 1956.5.27, CBM-BS-166192)。かつての記録にはシラスゲ *C.*

doniana を誤同定したものが多く含まれる。

【保護対策】生育環境を良好に維持する。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録: 165 / 谷城 1994 調査会目録: 121 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県生物: 37-50 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物. 袖ヶ浦の植物: 22-44 / 谷城勝弘 1997 大栄町のカヤツリグサ科植物. 大栄町史自然編: 80-97 / 千植誌 2003: 833,823

(谷城勝弘)



C オタルスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex otaruensis Franch.

【種の特性】多年生草本。森林の陰湿地または斜面湿地性。葉は単葉で互生。テキリスゲに似るが、基部は赤色を帯びることもある。果胞は長さ2.5~3mm、葉幅は3~5mm。風媒で、水散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】県内では初め成田市(旧大栄町)四軒新田で確認された(1990.5.3, 谷城勝弘, CBM-BS-135131)。本県北東部の谷津奥の湧水源付近や中南部の丘陵地の谷間にも点在する。山地性要素の種であり、県内では冷涼な環境を反映した分布特性がある。個体数は少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録: 166 / 谷城勝弘 1992 調査会目録: 164 / 谷城勝弘 1994 調査会目録: 121 / 谷城勝弘 1995 調査会目録: 114 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県生物: 37-50 / 谷城勝弘 1997 大栄町のカヤツリグサ科植物. 大栄町史自然編: 80-97 / 千植誌 2003: 830.

(谷城勝弘)



C マメスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex pudica Honda

【種の特性】多年生草本。森林性または湿地性。葉は単葉で互生。花序は葉よりはるかに低く、小穂はすべて根生状。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州にやや稀。

【県内の状況】県内では初め横芝光町宮川の乾草沼の湿地林で確認された(1989.4.23, 谷城勝弘, CBM-BS-91732)。九十九里浜平野南部一帯の長生村、茂原市、大網白里町の湿地にも点在する。柏市十余二のこんぶくろ池周辺の湿地林に数個体が生育する。

【保護対策】生育地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録: 112 / 谷城勝弘 1991 調査会目録: 163 / 谷城勝弘 1993 調査会目録: 248 / 谷城勝弘 1995 調査会目録: 117 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県生物: 37-50 / 谷城・細川・伊藤・小野沢・山田・野口・久保田 1996 乾草沼. 千葉県自然環境保全学術調査報告書: 11-101 / 千植誌 2003: 838,826.

(谷城勝弘)



C コカンスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex reinii Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。単葉。小穂は雄雌性。果胞は熟しても花軸に対して開出ししない。風媒で、重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】古くは清澄山で採集された標本がある(浅野貞夫, 1956.4.15, CBM-BS-152460)が、現在は清澄山系で確認されない。富津市高溝付近の丘陵地の尾根沿いにまとまった群落がある。

【保護対策】現生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003: 841,845.

(谷城勝弘)



要保護

C シラコスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex rhizopoda Maxim.

【種の特性】多年生草本。山間の水湿地に生える。葉は単葉で互生。風媒で水散布。小穂は1個で頂生する。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】丘陵地の谷間や谷津奥の水湿地、湧水源付近に生育する。個体数は少なく、広範囲に及ぶ群生地はない。県北部では特に生育地の荒廃によって減少傾向が著しい。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 458 / 谷城勝弘 1997 大栄町のカヤツリグサ科植物。大栄町史自然編 : 80-97 / 千植誌 2003 : 818,803.

(谷城勝弘)



24メッシュ
最新記録 2005年

C マツカゼスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex sachalinensis Fr.Schm. var. *pineticola* (Ohwi) Ohwi

【種の特性】多年生草本。海岸性。葉は単葉で互生。果胞に少毛が散生する。苞葉は小穂より低い。小穂は密花。基部と鱗片は褐色。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州(千葉県)

【県内の状況】奥山春季、植松春雄が犬吠崎の松林で採集し(1948年6月13日)、大井次郎が1949年に命名した。マツカゼスゲに該当するものは九十九里平野にも見出される。県北の台地にはコイトスゲが広く分布し、マツカゼスゲへの移行型も認められ、変異は連続している。

なお、犬吠崎で檜山庫三が1954年に記載した果胞が無毛のメマツカゼスゲはコイトスゲの海岸型の一型と判断する。

【保護対策】海岸線の環境を良好に維持する。

【文献】大井次郎 1949 東亜植物への寄与。国立科学博物館研究報告 26 : 1-12 / 千植誌 1958 : 412 / 新千植誌 1975 : 458 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物 : 37-50 / 千植誌 2003 : 840,828.

(谷城勝弘)



7メッシュ
最新記録 1999年

C オオクグ カヤツリグサ科 要保護

Carex rugulosa Kük. 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。湿地に生育する。葉は単葉で互生。根茎あり。果胞は大きく、コルク質。シオクグに似るが、葉幅は4~10mmで幅広く裏面は粉緑色。海水の出入りする河畔、風媒で、水散布。[HH]

【分布】北海道・本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内では初め伊藤至により一宮川河口で発見された。現在、同地では確認できない。利根川下流部の小見川町から東庄町にかけての河畔に広範な群落がある。本来は汽水域を生育の中心地とするが、多古光湿原や袖ヶ浦市陳場台など海岸から離れて生育することがある。このような特異な分布は海進期の遺存と判断され、本種のもの

つ広範囲の塩分適応性を示唆する。

【保護対策】湿地環境を良好に維持する。

【文献】千植誌 1958 : 412 / 浅野貞夫 1963 採集ニュース 6 : 21 / 新千植誌 1975 : 458 / 谷城勝弘 1987 千葉県自然環境保全地域等適地調報 : 265-291 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 千葉県自然環境保全学術調報 : 7-56 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦の植物 : 22-44 / 千植誌 2003 : 854,847 / 谷城勝弘 2005 千生誌 55(1) : 9-16.

(谷城勝弘)



17メッシュ
最新記録 2008年

C シロジュズスゲ カヤツリグサ科 要保護

Carex subdita Ohwi var. *kiyozumiensis* (Akiyama) Akiyama

【種の特性】多年生草本。森林性。葉は単葉で互生。アオヒエスゲ(*var. subdita*)に似るが瘦果は楕円形で先端は短柱状、途中に小盤体があるか、または柱状の先端がやや杯状に広がる。瘦果の中部にくぼみはない。風媒で、重力散布。[H] カクレミノ - スダジイ群目。

【分布】本州(千葉、静岡、愛知)

【県内の状況】秋山茂雄が清澄山麓の演習林事務所の近くで採集した標本を基に1931年10月に発表した種類である。分布は清澄山系、高宕山系付近に限られ、やや乾いた尾根を中心に生育する。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 413 / 大場達之・谷城勝弘・木村陽子 1995 シロジュズスゲの周辺。千植誌資料 4 : 11-16 / 千植誌 2003 : 841,826.

(谷城勝弘)



16メッシュ
最新記録 2003年

C ヒメアオガヤツリ カヤツリグサ科 要保護

Cyperus extremiorientalis Ohwi

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂の鱗片は2列につき、果実の縁は鋭形で翼状にならないのでシロガヤツリと区別される。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】利根川や九十九里平野の低湿地に点在する。県中南部の干上がったため池には大群生する所もある。生育地ではシロガヤツリ *C. pacificus*、アオガヤツリ *C. nipponicus* などの他のアオガヤツリ類としばしば混生する。

九十九里平野南部の大網白里町、茂原市、長生村を中心とする地域では稲刈り後の水田や休耕地に多産する。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 413 / 新千植誌 1975 : 459 / 千植誌 2003 : 896。

(谷城勝弘)



C コアゼテンツキ カヤツリグサ科 要保護

Fimbristylis aestivalis Vahl

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。メアゼテンツキに似るが、小穂は小型で卵形、花柱脚は無毛。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州に稀。台湾、中国、インド、マレシア、オーストラリア。

【県内の状況】我孫子市、印西市、本埜村、東金市、長生村、千葉市などに生育するが、個体数は少ない。従来の記録は他のアゼテンツキ類を誤同定したものが多く含まれる。既知の生育地のほとんどは現在消滅している。我孫子市岡発戸の谷津、東金市谷のため池には比較的多い。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 415 / 新千植誌 1975 : 461 / 谷城勝弘 1995 印旛沼を中心とする地域のテンツキ属植物。印旛沼 - 自然と文化 - : 19-24 / 千植誌 2003 : 865,869。

(谷城勝弘)



C セイタカハリイ カヤツリグサ科 要保護

Eleocharis attenuata Pallas

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。刺針状花被片は下向きに粗造。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、ニューギニア。

【県内の状況】台地の斜面下や丘陵地の山間の湿地に生育する。刺針状花被片が平滑なチョウセンハリイ form. *leviseta* H.Hara は、県内では初め多古町船越で確認され(1989.7.16, 谷城勝弘, CBM-BS-134109)、後に横芝光町、成東町などにも分布が判明した。チョウセンハリイは低平地の湿地に分布し、セイタカハリイとは分布域が重複しない。

【保護対策】生育地とその周辺を含む湿地を保全することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992 千葉県のチョウセンハリイ・スゲの会会報 3 : 4-7 / 谷城勝弘 1993 調査会目録 : 252 / 谷城勝弘 1995 調査会目録 : 118 / 千植誌 2003 : 877,888 / 谷城・森 2007 内浦山自然環境保全地域の植物相・千葉県自然環境調査報告書・千葉県環境部自然保護課 23-40。

(谷城勝弘)



C オオアゼテンツキ カヤツリグサ科 要保護

Fimbristylis bisumbellata (Forsk.) Bubani

【種の特性】多年生草本。湿地性葉は単葉で互生。メアゼテンツキ *F. velata* Franch. に似るが、鱗片は光沢のある褐色で、背側には緑色の竜骨がある。果実は 0.5 ~ 0.7 mm で白黄色、表面に格子状の紋がある。風媒で、重力散布。[Th]

【分布】本州(千葉県)・琉球。地中海沿岸、熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】市原市、印旛沼周辺、利根川河川敷、袖ヶ浦市、市川市、船橋市で確認されている。造成後間もない湿地に発生することから、帰化(移入)種と類似した性質を備えるが、すでに市原市五井では若名東一が 1954 年に採集しており、古くから土着していた。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 オオアゼテンツキ。植物研究雑誌 65(12) : 6-7 / 谷城勝弘 1991 千葉県のオオアゼテンツキ。スゲの会会報 2 : 9-12 / 谷城勝弘 1995 印旛沼を中心とする地域のテンツキ属植物。印旛沼 - 自然と文化 - : 19-24 / 岩瀬徹 1996 調査会目録 : 2 / 川名興 1996 調査会目録 : 36 / 千植誌 2003 : 865,869。

(谷城勝弘)



C クグテンツキ カヤツリグサ科 要保護

Fimbristylis dichotoma (L.) Vahl form. *floribunda* Ohwi

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。葉幅2～4mm。無毛。テンツキに似るが、より大型で質も厚い。小穂は数個が集まってつく。風媒で、風散布。[H]

【分布】本州(千葉県以西)・四国・九州。

【県内の状況】安房地域中心に低地や山間の湿地、水田の畦に生育する。館山市藤原一帯には個体数が多い。長南町の記録もある。県南部域の湿地の調査は不十分であり、精査すればさらに分布域が広がるものと思われる。

【保護対策】既知生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 416 / 新千植誌 1975 : 461 / 谷城勝弘 1995 調査会目録 : 117 / 千植誌 2003 : 865.

(谷城勝弘)



C ビロードテンツキ カヤツリグサ科 要保護

Fimbristylis sericea R. Br.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。茎と葉に細毛を密生。熟した果実は褐色～黒褐色で表面は平滑。海岸性(海辺の砂地)。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】銚子市君ヶ浜、九十九里平野沿岸、館山市平砂浦、富津市以南の内房沿岸に複数の記録があり、標本が得られている。九十九里平野沿岸では護岸工事に伴う砂浜の改変で本種の生育に適した環境が急減している。海岸域の環境変化が進行する中で減少傾向の顕著な種類である。

【保護対策】安定した砂丘群落を維持するよう配慮することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 416 / 新千植誌 1975 : 461 / 千植誌 2003 : 863,852.

(谷城勝弘)



C ナガボテンツキ カヤツリグサ科 要保護

Fimbristylis longispica Steud.

【種の特性】多年生草本。湿地性。(汽水域または海岸域)。葉は単葉で互生。70～80cm。花序は2～4回分岐し、小穂は熟して黄褐色。果実の表面は四角形の編み目模様。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】富津岬及び一宮川、栗山川、江戸川の河口などに記録があるが、近年は確認されていない。湿地の環境改変や遷移の進行によって消滅した可能性が高い。1990年に利根川河口堰直下の河畔でまとまった群落が発見された。小櫃川河口の湿地には少数個体が生育を維持している。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことも考えられる。現生育地は環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 416 / 新千植誌 1975 : 461 / 藤平・岩瀬ほか 1996 小櫃川河口域。千葉県自然環境保全学術調報 : 111-208 / 千植誌 2003 : 865,870 / 谷城勝弘 2005 千生誌 55(1) : 9-16.

(谷城勝弘)



C トネテンツキ カヤツリグサ科 要保護

Fimbristylis stauntonii Debeaux et Franch. var. *tonensis* Ohwi

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。鱗片は2.0～2.5mm。果実は狭長楕円形で0.8～1.0mm。花柱は宿存性。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】利根川水系と九十九里平野中南部を中心に分布する。生育適地は遷移の初期群落内で、遷移の進行に伴う大型草本の侵入とともに消滅する。千葉県のトネテンツキと称されるものには柱頭が3分岐のもの、3分岐と4分岐の混在するものがある。後者は、これま

で認識されていない新たな分類群である。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 417 / 新千植誌 1975 : 462 / 岩瀬・村田・谷城 1989 利根川沿いの造成湿地の植物。千生誌 38(2) : 61 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物。袖ヶ浦の植物 : 22-44 / 千植誌 2003 : 862,851.

(谷城勝弘)



C ヒメホタルイ カヤツリグサ科 要保護

Schoenoplectus lineolatus (Franch. et Sav.) T. Koyama

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。根茎は細長くは、小穂は細長く鋭頭で1個。風媒で、水散布。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】県内の多数地点に記録されるが、ホタルイ (*S. hotarui* Holub) やイヌホタルイ (*S. juncooides* Palla) の小型個体を誤同定したものが多。印旛沼周辺と九十九里平野南部の長生村周辺の休耕田で確認される。湿地の放置、水田地帯での農業の多用により激減したと考えられる。

【保護対策】生育可能な環境を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 418 / 新千植誌 1975 : 463 / 千植誌 2003 : 882,875.

(谷城勝弘)



C ヒゲアブラガヤ カヤツリグサ科 要保護

Scirpus asiaticus Beetle

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。花序は頂生。小穂は球状または広楕円形。風媒で、風散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】茂原市、長生村、大網白里町、横芝光町(乾草沼)などの九十九里浜平野域の他、成田市、柏市にも記録される。茂原市から長生村の湿地には複数の多産箇所があるが、近年の宅地造成に伴う土地の改変で失われる所が多い。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千葉植誌 1958 : 417 / T, Koyama 1958 Taxonomic Study of the Genus *Scirpus* Linne. J. of the Faculty of Science University of Tokyo XII (4-6) : 271-366 / 谷城・細川・伊藤・小野沢・山田・野口・久保田 (1996) 乾草沼。千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 11-101 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千生誌 48(1) : 6-22 / 千植誌 2003 : 884.

(谷城勝弘)



C タイワンヤママイ カヤツリグサ科 要保護

Schoenoplectus wallichii (Nees) T. Koyama

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂は狭い卵形、鱗片の中肋は緑色。柱頭2。果実の長さ2mm、刺針4本。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】県内では初め栄町請方で確認され(谷城 1988.9.25, CBM-BS-133803)、その後県北部の主に休耕田に点在することが知られた。確認地の多くは後の環境の変化や耕耘により消滅し、現存地は極めて少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1993 調査会目録 : 254 / 千植誌 2003 : 882,875.

(谷城勝弘)



C アイバソウ カヤツリグサ科 要保護

Scirpus wichurae Boeck. form. *wichurae*

【種の特性】多年生草本。葉は単葉。アブラガヤ form. *concolor* (Maxim.) T. Koyama に似るが、小穂は柄の先に単生する。風媒で、水散布。山地性要素。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県北の台地や丘陵地の斜面下の小湿地等に点在する。柄の先に小穂が2~3個集着するアブラガヤと混生することはない。

【保護対策】斜面下方の湿地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 884,885.

(谷城勝弘)



C マネキシングユガヤ カヤツリグサ科 要保護

Scleria rugosa R. Br. form. *glabrescens* T. Koyama

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。全体が小さく、無毛。風媒で、水散布。[H]

【分布】本州(千葉県以西)・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】茂原市と成東・東金湿原に記録がある。

【保護対策】近年は確認されないが、かつて記録された生育地とその周辺域には埋土種子が残っている可能性があるため、本種の生育可能な湿地環境を良好に維持し、復元を試みる事が望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 857.

(谷城勝弘)



C ナツエビネ ラン科 要保護

Calanthe reflexa Maxim.

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】中型の多年生草本。照葉樹林あるいは照葉樹の混交するモミ林などに生える。葉は単葉で互生。葉の基部は相互に重なりやや筒状になる。葉の色はエビネよりも濃い緑色。花は8月。花被片は細く尖り、紅紫色を帯びた白色で、唇弁は濃い紅紫色。虫媒で、風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮(済州島) 中国南部、台湾。

【県内の状況】分布は房総丘陵の南部に集中しているが、個体数は少ない。

【保護対策】観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 921,

909.

(大場達之)



C シラン ラン科 要保護

Bletilla striata (Thumb.) Reichb. f.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】中型の多年生草本。湿った日当たりのよい崖に生えるほか、チガヤ草原、土手などにも生える。葉は単葉で互生し並行した縦脈が隆起して目立つ。花は紅紫色で大きく目立つ。虫媒で、風散布。[G] シラン - ススキ群集。(シロバナシランを含む)

【分布】本州・四国・九州・琉球。中国。

【県内の状況】ほぼ全県に見られるが、長く放置された造成地などに生えるものは栽培品からの逸出と考えられる。本来の自生環境は湿った渓谷の崖である。

【保護対策】自生環境からの採取・販売は規制されるべきである。

【文献】千植誌 2003 : 919, 908.

(大場達之)



C ギンラン ラン科 要保護

Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume

【種の特性】小型の多年生草本、高さ15~30cm。葉は単葉で互生し、最上部の葉は花序より短い。花は5月初めに咲き白色、唇弁の距は明らかで、斜め下方に突出。虫媒で、風散布。[G] プナ群集。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】かつてはクヌギ・コナラの二次林の林床に多かったが、薪炭林としての利用がなくなって林床にアズマネザサが密生して、著しく個体数が減少したが、近年、都市域のクロマツ、マテバシイ、スダジイなどの植栽された林にサガミランと共に多くの個体が見られるようになっている。

【保護対策】鑑賞目的などの採取をやめる。

【文献】千植誌 2003 : 914, 904.

(大場達之)



C ササバギンラン ラン科 要保護

Cephalanthera longibracteata Blume

【種の特性】中型の多年生草本。根茎はキンラン、ギンランよりも深いところに位置している。葉は単葉で互生し、最上部の葉は花序より長い。茎や葉の縁、脈上などに細突起状の毛が多い。花は5月中旬に咲き、白色で、わずかな期間のみ平開する。距はやや長い、個体により変異がある。虫媒で、風散布。[G] ブナ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、千島、朝鮮、中国。キンラン、ギンランよりも北方あるいは高標高のところに分布する傾向がある。

【県内の状況】クヌギーコナラの二次林、竹林などに生えキンラン、ギンランより少ない。

【保護対策】鑑賞目的などの採取をやめる。

【文献】千植誌 2003 : 914, 904.

(大場達之)



C マヤラン ラン科 要保護

Cymbidium macrorhizon Lindl. 絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。林の中に生えるが土手の草地に生えた例も知られる。葉は無葉緑。地下に太い菌根が発達する。6~7月に開花するが、花茎が損なわれると花茎基部から新茎を発生し、夏の終わりから秋に咲くこともある。虫媒で、風散布。[G~H?]

【分布】本州・四国・九州・琉球。中国、インド。

【県内の状況】ほぼ全域から、かなり多くの記録があり、出現地に持続せず、突然現れて数年後に消滅することが普通である。

【保護対策】種子は広域に散布され生育好適地に到達すると、数年の菌根茎発育後に開花して数年で消失する。開花株を保全し種子の散布が十分に行われるように配慮する。

【文献】斉藤吉永 1963 千生誌 13(1) : 16-17 / 浅野貞夫 1971 植物採集ニュース 64 : 51 / 斉藤吉永 1973 植物採集ニュース 66 : 67 / 若名東一 1973 植物採集ニュース 66 : 67 / 橋本保・神田淳 1981 原色野生ラン : 185 / 柳川定春・高橋秀男・大場達之 1981 神奈川県のマヤラン類。神奈川自然誌資料 2 : 47-54 / 千植誌 2003 : 922, 909.

(大場達之)



C サイハイラン ラン科 要保護

Cremastra appendiculata (D. Don) Makino

【種の特性】中型の常緑多年生草本。地表近くに球状の偽茎を連ね、群がって生える傾向がある。葉は単葉で互生。花は花序のひとつの側に集まって垂れて咲き、紅紫色を帯びた褐色。虫媒で、風散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。千島、サハリン、台湾、中国、ヒマラヤ。

【県内の状況】竹林、やや湿った夏緑林とくにケヤキ林などに生える。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 921, 909.

(大場達之)



C サガミラン ラン科 要保護

Cymbidium macrorhizon form. *aberrans* Hashimoto

【種の特性】多年生草本。葉は無葉緑。マヤランに似て花が白色で濃紅色の斑のないもの。別属あるいは別種とされたこともあるがマヤランと同一場所に生えることも多い。単なる白花品種にすぎないとする説と別種であるとする見解がある。虫媒で、風散布。[H]

【分布】マヤランの分布域の中に点々と知られる。

【県内の状況】牧野富太郎及び前川文夫が、中村守一により大東岬近くの松林で採集されたものにダイトウラン (*Cymbidium aphrodite* Makino et F. Maekawa) の名を与えたが正式に発表されなかった。

1990年6月に千葉県立中央博物館の構内のコナラ林の林床にマヤランと並んで生えているのが発見された。その後千葉市の他地点、市原市、佐倉市などでも発見されている。

【保護対策】1ヶ所に安定して生育するものではなく、保護は難しい。

【文献】牧野富太郎 1950 図説普通植物検索表 : 291 / 柳川定春・高橋秀男・大場達之 1981 神奈川県のマヤラン類。神奈川自然誌資料 2 : 47-54 / 千植誌 2003 : 922, 909. (大場達之)



C タシロラン ラン科

要保護

Epipogium roseum (D. Don) Lindl. 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。地下に根茎を延ばし群生する。葉は無葉緑で鱗片状。花は6～7月、茎は高さ20～50cmで、花柄は細く、10～30個の白い花を垂れてつける。果実が開裂する時期でも花被片が残る。虫媒で、風散布。菌根性。腐植質の多い暗い照葉樹林などに生える。カクレミノ・スダジイ群目。[G]

【分布】本州(関東以西)・九州・琉球。台湾、中国、熱帯アジア、オーストラリア。

【県内の状況】1995年に福田洋が千葉市の泉自然公園で発見し、その後、和田町、大網白里町、千葉市花見川区などで記録された。神奈川県でも1953年にはじめて発見され、気候の温暖化によって南方から分布が広がったと推定されている。

【保護対策】このような分布が急拡大している植物の保護は、拡散の状態を綿密に追跡して、適時に対策を講ずることが必要。

【文献】岩瀬徹・福田洋 1996 タシロラン (*Epipogium roseum*) が千葉市内に出現した。千生誌 45(2) : 28./ 千植誌 2003 : 907,917.

(大場達之)



C オニノヤガラ ラン科

要保護

Gastrodia elata Blume

【種の特性】大型の多年生草本。地下に楕円体状の大きな塊茎がある。茎は淡黄褐色で直立し枝分かれせず、大きなものは高さ1mになる。葉は無葉緑で鱗片状。花は6月に咲き黄褐色。虫媒で、風散布。菌根性。ナラタケと共生。ススキ草原あるいはナラ類の林などに生える。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】かつては普通にあったと考えられるが、標本あるいは観察記録は少なく、産地は市原市から八街市・八千代市・市川市にかけての県中部に集まっており、綿密な調査が行われている富里市、佐倉市などでも記録がないことを見ると、現在は稀な植物になっていると考えられる。

【保護対策】生育地を良好な状態に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 916, 906.

(大場達之)



C ツチアケビ ラン科

要保護

Galeola septentrionalis Reichb. f.

【種の特性】大型の多年生草本。湿った暗い腐植質の多い、竹林、スギ林、照葉樹林などに生える。菌根性。葉は無葉緑。茎は褐色で直立し、多くの枝を分かち、夏に多数の黄褐色の花をつける、果実は曲がったウリ状で赤色で目立つ。虫媒で、風散布。ナラタケと共生。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】千葉県では山武市以南に分布し、北総からの観察例はない。

【保護対策】生育地を良好な状態に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 916, 905.

(大場達之)



C クロヤツシロラン ラン科

要保護

Gastrodia pubilabiata Sawa

【種の特性】多年生草本。菌根性。竹林及びスギ植林の林床に群生することがある。葉は無葉緑で鱗片状。花は8～9月に落ち葉に半ば埋もれて咲き、黒褐色で平開し、花被片の外にはアキザキヤツシロランに見られるようなイボ状突起はない。花後、花柄が高さ30～50cmほどに急伸長するが、冬には崩れて残らない。果実・花柄は黒色を帯びる。果序の分岐点は地中にある。虫媒で、風散布。[G]

【分布】本州(関東以西)・四国。

【県内の状況】栄町から館山市まで広く分布する。果実期に竹林(特にモウソウチク林)を探すと比較的容易に発見できる。

【保護対策】生育地を良好な状態に保つ。

【文献】Sawa, Y. (1980) Spontaneous orchids in the intermediate zone of Kochi Prefecture. in Res. Rep. Kochi Univ. 29: 65 / 大野景徳・竹内美亀 (1997) クロヤツシロランが八千代市に産する。千植誌資料 10 : 72 / 千植誌 2003 : 917, 906.

(大場達之)



C シュスラン ラン科

要保護

Goodyera velutina Maxim.

【種の特性】小型の多年生草本。湿った照葉樹林の林床に生える。地下茎は地表を長く這って枝分かれして群生する。茎の先端は直立して先端に葉が集まり、その中央から花茎をだす。花は9月に咲き、わずかに紅色を帯びた白色。葉は単葉で互生し、黒みを帯びた濃緑色でピロード状で中肋は白色。虫媒で、風散布。[H] カクレミノ - スタジイ群目。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】房総丘陵に多くの産地が知られ、北総には極めて希である。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 918, 907.

(大場達之)



C クモキリソウ ラン科

要保護

Liparis kumokiri F.Maek.

【種の特性】小型の多年生草本。林縁、路傍、スギ林など様々なところに生え、林縁の攪乱されたところを好む。葉は単葉で互生。花は7月に咲き淡緑色。虫媒で、風散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。千島。

【県内の状況】県内各地に分布する。この仲間ではコ克蘭に次いで普通である。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。量的には多いが、地域の物産店などで山取品を売っていることが多く、衰退する可能性がある。

【文献】千植誌 2003 : 920, 908.

(大場達之)



D オオシマハイネズ ヒノキ科 一般保護

Juniperus taxifolia Hook. et Arn. var. *lutchuensis* (Koidz.) Satake

【種の特性】常緑小低木。葉は針葉で互生。ハイネズとは葉の先端が硬くないこと、気孔条が葉に沈み込まないこと等で区別される。風媒で、鳥散布。[N]

【分布】本州（房総半島、伊豆七島、東海道沿岸、志摩半島、紀伊半島）

【県内の状況】富津岬南側、洲崎周辺、犬吠埼周辺に分布。

【保護対策】分布地域、個体数とも減少傾向にあり、生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 79, 83.

(齋木健一)



D オニグルミ クルミ科 一般保護

Juglans ailanthifolia Carrlere

【種の特性】夏緑高木。葉は羽状複葉で互生。風媒で、重力散布。河川中流域の川岸に多く、下流域にも見られる。[MM] ケヤキ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】記録地点は多いが、大部分は植栽株などからの逸出と考えられる。保護対象は自生と認められるものに限る。

【保護対策】無用な伐採を防止する。

【文献】千植誌 2003 : 86, 101.

(大場達之)



D ツガ マツ科 一般保護

Tsuga sieboldii Carriere

【種の特性】常緑高木。風媒で、風散布。遺存ブナ帯要素。房総丘陵ではしばしばモミと混生する。[MM]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵に広く分布。これまで長柄町刑部（おさかべ）が県内における北限と考えられてきたが、八日市場市飯高でも確認された。似たような環境下に生育するゴヨウマツやモミと違い、集団枯死などの現象は報告されていない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 78, 82.

(齋木健一)



D バッコヤナギ ヤナギ科 一般保護

Salix bakko Kimura

【種の特性】夏緑小高木。葉は楕円形で大きく下面に柔らかい縮毛が密にある。花序は幅 2cm ほどある。崩壊地周辺など乾いた環境に先駆的に生える。[MM]

【分布】北海道・本州（近畿以北）、ユーラシアの中～北部に分布する *S. caprea* L. と同一種とする意見がある。

【県内の状況】本来はブナ帯に多い種類で千葉県では県内各地に散発的に見られる。

【保護対策】自生地の環境を保つ。

【文献】千植誌 2003 : 92, 104.

(大場達之)



D キツネヤナギ ヤナギ科 一般保護
Salix vulpina Andersson

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。タニウツギ群団。[N]

【分布】北海道・本州・四国・九州(北部)。東北地方、関西などでは道路法面などに普通に生える種類であるが、関東地方の南部では、それがシバヤナギに置き換わっており、キツネヤナギは稀である。

【県内の状況】主として北総台地に見られるが君津市にも少数の記録がある、

【保護対策】

【文献】千植誌 2003 : 92, 104.

(大場達之)



D ヤマハンノキ カバノキ科 一般保護
Alnus hirsuta Turcz. var. *sibirica* (Fischer) C.K.Schn

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。河原、崩壊地、伐採跡地などの二次的な裸地に先駆的に生える。県内のものは近隣の産地から風で飛来した種子に由来する偶生的なものであろう。虫媒で、風散布。[MM]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、サハリン、東シベリア。

【県内の状況】主として北総台地に分布。

【保護対策】生育地を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 100, 106.

(大場達之)



D オオキツネヤナギ ヤナギ科 一般保護
Salix vulpinoides Koidz.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。低地遺存ブナ帯要素。風媒で風散布。[N] タニウツギ群団。別名オオネコヤナギ。

【分布】本州(中部以東)

【県内の状況】崩壊地、道路などの法面などに生える。自生地は千葉市緑区平山町、袖ヶ浦市など極めて限られている。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 93, 104.

(大場達之)



D クマシデ カバノキ科 一般保護
Carpinus japonica Blume

【種の特性】夏緑高木。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。[MM]ツガ群目。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】下総台地の雑木林に見られるが、境界木として植えられたと推定される木も多く、真の自生株は少ないものと思われる。また最近では公園などに植えられることも多い。

【保護対策】自生地の保全。

【文献】千植誌 2003 : 109, 107.

(大場達之)



一般保護

D アカシデ カバノキ科

一般保護

Carpinus laxiflora (Siebold et Zucc.) Blume

【種の特性】夏緑高木。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。[MM] ヲガ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】ほぼ全域に見られ雑木林などに生えるが普通ではない。一般に関東地方の関東ローム層で被われた地域ではイヌシデが多く、基岩のあらわれた土壌の薄いところではアカシデが多い傾向がある。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 109, 107.

(大場達之)



D カテンソウ イラクサ科

一般保護

Nanocnide japonica Blume

【種の特性】小型の多年生草本。肥沃で湿った竹林などに生える。葉は単葉で対生。風媒で、葯は自力で開裂して花粉を飛ばす。重力散布。[H] ケヤキ群団。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】湿った林の林床に群れて生え、かつては竹林に多かったが、少なくなっている。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 126, 123, 129.

(大場達之)



D ハシバミ カバノキ科

一般保護

Corylus heterophylla Fischer ex Vessel var. *thunbergii* Blume

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。風媒で、重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】北海道、本州、九州。

【県内の状況】下総台地の谷沿いにみられ、谷津の水田の周辺などに見られ、刈られていることが多く、大きな個体は稀である。

【保護対策】自生地を保全する。谷津の側壁などを人工物に置き換えることをやめる。

【文献】千植誌 2003 : 109, 107.

(大場達之)



D ハマナデシコ ナデシコ科

一般保護

Dianthus japonicus Thunb.

【種の特性】別名フジナデシコ。高さ15cm ~ 35cmの夏緑の多年生草本。海岸の崖地に生育する。1本から数本の茎を立てる。未開花株は密な十字対生のロゼットを形成する。葉は長楕円形で、長さ3 ~ 7cm、鋭頭、基部は楔形で、ほぼ無柄。葉は全縁で、無毛、光沢があり、厚い。花は頂生および上部の葉腋に密集する。花は5数性で、萼片は癒着して円筒形になる。花弁は、倒卵形で先端は細かく切れ込み、鮮やかな赤紫色で、長さ約10mmで、長い爪がある。果実は蒴果で、円筒形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、重力散布。ワダン - イソギク群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。中国。南総、安房地域の海岸および銚子半島に分布する。

【保護対策】海崖植生の保全。

【文献】千植誌 2003 : 153, 163.

(大場達之 / 天野 誠 追補)



一般保護

D サワハコベ ナデシコ科 一般保護

Stellaria diversiflora Maxim.

【種の特性】高さ5～10cmの夏緑の多年生草本。スギ林等の湿った林に生育する。茎は無毛、基部は匍匐し、不定根を伸ばす。葉は三角形から菱形で、鋭尖頭、対生する。葉身とほぼ同長の柄がある。葉は全縁で、葉面にわずかな毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は5数性で、萼片は披針形で、鋭尖頭、白膜の縁取りはない。花弁は、倒披針形で深く2裂する。白色で、長さ約4mm。雄しべの数は2～10本。果実は蒴果で、楕円球。虫媒で、重力散布。[H] 低地遺存ブナ帯要素。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】主として南総台地に分布する。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 155, 173.

(大場達之 / 天野 誠 追補)



D ヒロハオガタマノキ モクレン科 一般保護

Michelia compressa (Maxim.) Sargent

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で倒卵形で互生。花は3月頃に咲き、クリーム白色。虫媒で、重力散布。神社に植えられているものは葉が長楕円形で細長い狭義のオガタマノキで、西南日本原産と考えられる。千葉県に自生と考えられるのは葉が短いヒロハオガタマノキである。

[MM] カクレミノ - スダジイ群目。

【分布】本州 (関東南部以西)・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】清澄山・高塚山などに知られる。

【保護対策】無用の伐採を避ける。

【文献】千植誌 2003 : 181, 189.

(大場達之)



D ヤナギイノコヅチ ヒユ科 一般保護

Achyranthes longifolia (Makino) Makino

【種の特性】中形の多年草。竹林、スギ林、ケヤキ林などに見られる。高さ50～80cm。葉は対生し披針形～広披針形で濃緑色でやや光沢がある。花は8～9月。虫媒で、付着分布。肥沃でやや湿った暗い林床に生える。[H]

【分布】本州 (関東以西)・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】ほぼ全域に分布するが個体数は少ない。

【県内の状況】房総丘陵、安房丘陵に多いが、千葉市などにも見られる。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 172, 180.

(大場達之)



D ニリンソウ キンボウゲ科 一般保護

Anemone flaccida Fr.Schm.

【種の特性】小型の多年生草本。湿った林や林縁に群生する。全体濃緑色。苞葉は柄がない。花は花序に2～3個つける。虫媒で、重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、中国、アムール。

【県内の状況】県内のほぼ全域に分布するが、産地は多くない。人為的な刈り取り管理の継続された場所に群生するが、放置されて数になると衰退して消滅する。

【保護対策】刈り取りなどの管理を継続することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 197, 205.

【写真】2005.4.16 成田市 (旧大栄町) 津富浦 谷城勝弘 (大場達之 / 谷城勝弘 追補)



一般保護

D クサボタン キンボウゲ科 一般保護

Clematis stans Siebold et Zucc.

【種の特性】中型の多年生草本。乾きやすい夏緑林や林縁に生える。茎は直立。葉は3出複葉で対生または互生。虫媒で、風散布。[N] オニシモツケ - オオヨモギ群目。

【分布】本州。

【県内の状況】主に房総丘陵の川沿いの岩場などに記録されるが少ない。佐倉市、野田市、船橋市の記録もある。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 188, 196.

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



D イカリソウ メギ科 一般保護

Epimedium grandiflorum Morr. var. *thunbergianum* (Miq.) Nakai

【種の特性】中型の多年生草本。葉は3出複葉で互生。虫媒で、自力散布。[G] ブナ群綱。

【分布】北海道・本州。

【県内の状況】下総台地の雑木林に多いが、下草刈りなどの手入れが行き届かず、アズマネザサなどの繁茂で著しく個体数が減っている。

【保護対策】鑑賞目的の採取をやめる。自生環境を保つ。

【文献】千植誌 2003 : 199, 207.

(大場達之)



D マタタビ マタタビ科 一般保護

Actinidia polygama (Siebold. et Zucc.) Planch.

【種の特性】夏緑藤本。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[M] トコロ - クズ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州。千島、朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】房総丘陵に見られるが、普通ではない。

【保護対策】生育環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 214, 212.

(大場達之)



D ミヤマキケマン ケシ科 一般保護

Corydalis pallida (Thunb.) Pers. var. *tenuis* Yatabe

【種の特性】小型の多年生草本。葉は3出複葉で互生。虫媒で、自力散布。低地遺存ブナ帯要素。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】房総丘陵に点在するが、下総台地南部の成東での記録もある。湿った川沿いのケヤキ林、竹藪などに見られる。

【保護対策】生育環境を保つ。

【文献】千植誌 2003 : 231, 225.

(大場達之)



D シコクハタザオ アブラナ科 一般保護

Arabis serrata Franch. et Sav. var. *sikokiana* (Nakai) Ohwi

【種の特性】多年生草本。やや湿った日陰の岩場。葉は単葉で互生、茎基部の葉は地表近くにロゼット状に集まってつく。千葉県のものは古い記録ではイワハタザオとされていた。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の湿った岩場にみられ、かつては林道沿いに多く見られたが、全体の乾燥化で減少している。

【文献】千植誌 2003 : 236, 239.

(大場達之)



D ネコノメソウ ユキノシタ科 一般保護

Chrysosplenium grayanum Maxim.

【種の特性】高さ7 ~ 15 cmの夏緑のほぼ無毛の小型多年生草本。湿った谷の日陰の腐植質の多いところに生える。地上をほう長い走出枝がある。茎は四稜形で十字対生。葉は広卵形から卵円形で、円鋸歯があり、基部は楔形で、長い柄がある。長さ5 ~ 12 mm。花序は頂生し、二出集散、苞は大きく目立つ。花は4数性で、萼片は倒卵形、円頭、長さ約1.5mm、緑色。花弁はない。雄しべは4本、葯は黄色い。雌しべは2心皮で離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、重力散布。[H] オオバセンキュウ・タネツケバナ属群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。千島、朝鮮、中国。

【県内の状況】南総から北総東部の丘陵に点在する。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 255, 263.

(大場達之 / 天野 誠 追補)



D コイヌガラシ アブラナ科 一般保護

Rorippa cantoniensis (Lour.) Ohwi 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】中形の1 ~ 2年草。池、川などの一時的に干上がる泥地に生える。茎は直立し上部で枝を分かち。葉は互生し羽状に全裂。花は4 ~ 6月。黄色。虫媒で、自力散布 + 水流・鳥への付着散布。[Th]

【分布】本州(関東以西)・四国・九州。朝鮮、中国、台湾、プリーモリア。

【県内の状況】利根川水系に見られ、鳥の付着散布と考えられるものが内陸に点在する。千葉県立中央博物館の生態園の湿地にもジョウウウスゲなどと共に一時的に生えたことがある。

【保護対策】河川の冠水湿地を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 235, 237.

(大場達之)



D ヨゴレネコノメ ユキノシタ科 一般保護

Chrysosplenium macrostemon Maxim. var. *atrandrums* H.Hara

【種の特性】高さ7 ~ 15cmの夏緑のほぼ無毛の小型多年生草本。湿った谷の日陰の腐植質の多いところや暗い林床に生える。地上をほう長い走出枝には、花茎とほぼ同じ葉を付ける。茎は四稜形で十字対生。葉はほぼ円形で、3から4対の円鋸歯があり、基部は楔形で、長い柄がある。長さ8 ~ 15mm。花序は頂生し、二出集散、苞は大きく目立つ。花は4数性で、萼片は卵形、鈍頭、長さ1.5 ~ 2mm、黄緑色。花弁はない。雄しべは8本、葯は赤い。雌しべは2心皮で離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[Ch]

【分布】本州・四国・九州。【県内の状況】南総の丘陵地に分布する。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 255, 263.

(大場達之 / 天野 誠 追補)



一般保護

D イズノシマダイモンジソウ ユキノシタ科 一般保護

Saxifraga fortunei Hook.f. var. *crassifolia* (Engl. et Irmsch.) Nakai

【種の特性】小型の夏緑の多年生草本。沢沿いの湿った崖に着生する。根茎が発達し、数本の花茎を立てる。葉はほぼ根出葉、長柄がある。偏円形で、荒く不規則に切れ込む。両面に剛毛が生える。花序は総状で、頂生する。花は5数性。萼片は卵形で、反り返る。花弁は線形で不等長、下につく1枚が長く、長さ7～13mm、白色。雄しべは花糸が短く、葯が黄色が目立つ。雌しべは2心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で、風散布。[E] ホウライシダ群網。

【分布】本州（関東南部）、

【県内の状況】南総の丘陵地の谷に分布する。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：255,263.

（大場達之 / 天野 誠 追補）



D エドヒガン バラ科 一般保護

Cerasus spachiana Lavalée ex E.Otto var. *spachiana* form. *ascendens* (Makino) H.Ohba

【種の特性】夏緑性の高木。樹皮は灰褐色で不規則に縦に裂ける。葉は狭倒卵形～楕円形で側脈が多い。花柱に開出毛が顕著。花は3月下旬。

[MM]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮

【県内の状況】県内では自生と思われる標本が数点、船橋市（2003）富里町（2000）市原市（1992）等で採集されている。

【保護対策】自生と考えられる個体を保存する。

【文献】千植誌 2003：288, 283.

（御巫由紀）



D バイカウツギ アジサイ科 一般保護

Philadelphus satsumi Siebold ex Lindl. et Paht.

【種の特性】夏緑低木。葉は対生し楕円形で先端はとがり、鋭い鋸歯があり、3行脈がある。長さ3～10cm。花は5～6月に咲き、今年枝の先に3から98個の花を総状につける。花弁は白色、4枚で楕円形。長さ10～15mm。果実は蒴果で4裂する。虫媒で、風散布。[N]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の谷沿いなどの林縁に生える。本来は夏緑林帯の種類で、寒冷期遺存要素と考えられ、千葉県では少ない。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：256, 264.

（大場達之 / 天野 誠 追補）



D バクチノキ バラ科 一般保護

Laurocerasus macrophylla C.K.Schneid.

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[MM] カクレミノ - スダジイ群目。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】県南部に自生するが数は多くない。標本は清澄山（1963）、鴨川市古畑（1983）、鴨川市吹原（1993）、鋸山（1995）及び鴨川市大山（1996）など（カッコ内は採集年）。鴨川市古畑では県の天然記念物に指定されている。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003：285, 281.

（御巫由紀）



一般保護

D リンボク バラ科 一般保護

Laurocerasus spinulosa (Siebold et Zucc.) C.K.Schneid.

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[M] カクレミノ - スダジイ群目。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】数は少ないが県南部に集中して自生し、標本は、古くは清澄山（1931～）、笠森観音（1938～）等のものがあり、最近では茂原市（2001）、市原市（1993）等で採集されている。

【保護対策】自生地を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 285, 281.

(御巫由紀)



D ヒロハノカワラサイコ バラ科 一般保護

Potentilla niponica Th.Wolf 絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で、重力散布。乾いた草原に生える。[H] ヨモギ群綱。

【分布】北海道・本州（北～中部）。

【県内の状況】古くは君津郡市宿村（1929）及び印旛郡八街町駒返（1935）館山市北条（1950）等の標本があるが、現状は不明。最近では柏市（1984）、八千代市（1992）、船橋市（1995）、印西市（2000）、銚子市（2001）等で標本が採集されているが、半自然草原の衰退で自生地は著しく減少している。

【保護対策】人為的な刈り取りにより管理された半自然の草地を保全することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 274, 278.

【写真】印西市 大場達之 (御巫由紀)



D タチゲヒメヘビイチゴ バラ科 一般保護

Potentilla centigrana Maxim. form. *patens* Hiyama

【種の特性】小型の多年生草本。葉は3出複葉で互生。虫媒で、重力散布。茎の毛が開出する。[H]

【分布】本州・四国・九州の太平洋側。日本海側には茎の毛が伏毛になるフシゲヒメヘビイチゴ (*P. centigrana* form. *centigrana*) が分布する。

【県内の状況】谷津田の畦に生える。成東町（1928）、山武町（1932、1951）近年では柏市、富里市、山武市、下総町、銚子市、佐倉市で標本が採集されている（カッコ内は採集年）。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 273, 277.

(御巫由紀)



D ハマナス バラ科 一般保護

Rosa rugosa Thunb.

【種の特性】夏緑低木。葉は羽状複葉で互生。虫媒で鳥散布。ハマナス群団。[N]

【分布】北海道・本州。東アジア北部。

【県内の状況】太平洋側のハマナスの分布域南限は茨城県といわれているが、県内でもこれまでに数ヶ所、自生していた記録がある。現在、確認されているのは九十九里町（藤の下納屋、1972年に発見（読売新聞）1983年に九十九里町天然記念物に指定され保護されている）のみであるが、そのほかにも以下の4ヶ所で報告されている。

銚子市君ヶ浜：（1929年標本）1935年千葉県植物（与世里盛春1935）現在はない。海上郡富浦村：（1932年標本）現状不明。富津市富津洲：1955年に記録あり（川名興1973）現在はない。九十九里町白幡納屋：1962年に発見、1973年（篠崎秀次、千植誌）。

【文献】与世里盛春 1935 千葉県博物研究 5 : 17 / 川名興 1973 千葉県生物誌 23 : 1 / 千植誌 2003 : 285, 280.

(御巫由紀)



一般保護

D ミヤマフユイチゴ バラ科

一般保護

Rubus hakonensis Franch. et Sav.

【種の特性】夏緑小低木。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[Ch] カクレミノ - スダジイ群目。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県内では房総丘陵を中心に自生し、君津市（1999）、富津市（1999）、市原市（1992）

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 270, 266.

(御巫由紀)



D エビガライチゴ バラ科

一般保護

Rubus phoenicolasius Maxim.

【種の特性】別名ウラジロイチゴ。夏緑性の低木。葉はふつう3小葉、徒長枝で5小葉になることもある。虫媒で、被食散布。花は淡紅紫色、6月。果実は球形で紅熟する。葉裏は綿毛に被われ雪白色。[N]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内では房総丘陵の君津市、大多喜町、鴨川市、三芳村等で標本が採集されている。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 271, 268.

(御巫由紀)



D ヒメバライチゴ バラ科

一般保護

Rubus minusculus H.Lév. et Vaniot

【種の特性】夏緑性の低木。葉は花枝で5~7小葉、徒長枝で7~11小葉からなる羽状複葉。虫媒で食散布。花は白色、4~5月。果実は球形で紅熟する。茎や葉裏の黄色い腺点が特徴。[Ch]

【分布】本州（房総、伊豆、紀伊半島および山陽）・四国・九州・琉球。朝鮮（南部）。

【県内の状況】県内では房総丘陵の君津市、大多喜町、富山町、天津小湊町等のほか、佐倉市でも標本が採集されている。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 271, 268.

(御巫由紀)



D ナガボノシロワレモコウ バラ科

一般保護

Sanguisorba tenuifolia Fisch.ex Link. var. *alba* Trautv. et C.A.Mey

【種の特性】大型の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で、重力散布。ヨシ群綱。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、極東ロシア。

【県内の状況】県北部に自生し、佐倉市（1997）、八千代市（1996）、柏市（1984）、我孫子市（1986）で標本が採集されている（カッコ内は採集年）。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 276, 279.

(御巫由紀)



一般保護

D アズキナシ バラ科

一般保護

Sorbus alnifolia (Siebold et Zucc.) C.Koch

【種の特性】夏緑高木。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。ブナ群綱。[M]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー。

【県内の状況】県南部に多く、清澄山(1929) 清和(1961) 三石山(1962) 君津市香木原(1985) 市原市各地(1984-1993) 及び鋸山(1995) で標本が採集されている(カッコ内は採集年)。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 290, 284.

(御巫由紀)



D サイカチ マメ科

一般保護

Gleditsia japonica Miq.

【種の特性】夏緑高木。河川敷などに生える樹幹に枝分かれした大きな棘が多い。葉は偶数羽状複葉で互生。花は5~6月に咲き緑色、総状花序に密につき、花弁は3~5個で小さく、雄蕊は長く超出。果実は平坦で湾曲し長さ20~25cmで垂れ下がる。虫媒で、水散布。[MM]

【分布】本州(関東以西)・四国・九州。

【県内の状況】江戸川流域に本来の自生と考えられるものがあるほか、社寺などに植えられ、またそれから逸出したと考えられるものもある。

【保護対策】野生株の伐採はやめる。

【文献】千植誌 2003 : 294, 302.

(遠藤泰彦/大場達之 追補)



D ジャケツイバラ マメ科

一般保護

Caesalpinia decapetala (Roth) Alst.

【種の特性】夏緑性の藤本。枝には著しい鉤状の棘があって、他の植物の上に広がる。葉は羽状複葉で互生し照葉は6~16個で下面は粉白色。花は4~6月に咲き黄色でおしべは赤色、果実は長楕円形で長さ10cm。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。ブナ群綱。[N] クサギ-アカメガシワ群団。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州。

【県内の状況】市原市・一宮町以南の県南部に広く分布する。

【保護対策】強い棘があるが、意識的に除去しない。

【文献】千植誌 2003 : 294, 302.

(遠藤泰彦/大場達之 追補)



D イヌエンジュ マメ科

一般保護

Maackia amurensis Rupr. et Maxim.

【種の特性】夏緑中高木。明るい乾いた林などに生える。高さ2~10m。葉は奇数羽状複葉で互生し、小葉は7~11個で卵形、下面に褐色の軟毛がある。花は7~8月に咲き、花序は総状花序の集まりで、白色の花を密につける。果実は扁平で広線形で3~6個の種子がある。虫媒で重力散布。[MM]

【分布】北海道、本州(中部以北)。

【県内の状況】ほぼ全域に見られるが花の咲くような個体は少ない。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 294, 302.

(遠藤泰彦/大場達之 追補)



一般保護

D タチフウロ フウロソウ科 一般保護

Geranium krameri Franch. et Sav.

【種の特性】中型の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で、自散布。低地遺存ブナ帯要素。[H] ススキ群目。

【分布】本州・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】乾いた半自然のススキ草地、明るい雑木林、林縁などに生え、かつての牧には多かったと推定される。現在は著しく衰退している。

【保護対策】半自然草地を計画的に管理する。

【文献】千植誌 2003 : 315, 321, 314.

(大場達之)



D ホルトノキ ホルトノキ科 一般保護

Elaeocarpus sylvestris Poir. var. *ellipticus* (Thunb.) Makino

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で互生し、長楕円状披針形で縁に低縁歯がある。ややヤマモモの葉に似ているが、葉の下面の側脈と主脈の間に膜状のダニ室がある。また常に一部に紅変した葉が混在している。虫媒で、鳥散布。花は6~7月。花は5弁で花弁は白色で細かく裂けている。果実は長楕円形でオリーブに似ているのでその名が付いた。

[MM] カクレミノ - スダジイ群目。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。台湾、中国。

【県内の状況】清澄、高宕山系以南の房総半島南部に多い。

【保護対策】自然的な照葉林の保全。

【文献】千植誌 2003 : 367, 361.

(大場達之)



D アオハダ モチノキ科 一般保護

Ilex macropoda Miq.

【種の特性】夏緑高木。乾き気味の雑木林に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[MM] ブナ群網。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内各地に点在するが、個体数は少ない。

【保護対策】管理された雑木林を維持する。

【文献】千植誌 2003 : 349, 357.

(大場達之)



D ウシタキシソウ アカバナ科 一般保護

Circaea cordata Royle

【種の特性】高さ30~70cmの夏緑の多年生草本。スギ林などの暗くて湿った林床に生育する。地下茎を長く伸ばす。茎は四稜形で十字対生。葉は広卵形で、下の葉の基部は心形、浅い鋸歯がある。葉の両面に絹毛がある。葉柄は長く、葉身の約半分からほぼ同長。総状花序を頂生および上部の葉腋につける。花弁は白色、2枚。長さ約2mmで、深く2裂する。果実は閉果で、ほぼ球形。一面に鉤状の剛毛が生える。虫媒で付着散布。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】北総台地の西端、南総の山地、清澄山山系などに点々と分布する。

【保護対策】生育地の環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 394, 398.

(大場達之 / 天野 誠 追補)



一般保護

D トチバニンジン ウコギ科 一般保護

Panax japonicus C.A.Mey.

【種の特性】中型の多年生草本。葉は掌状複葉で互生。虫媒で、鳥散布。
[G] ブナ群綱。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。低地遺存ブナ帯要素。

【県内の状況】県の南部では湿潤なケヤキ林などに見られるが、県北部では肥沃なスギの老齢林などに見られる。

【保護対策】肥沃な谷沿いの林には希少な植物が集中しているので、計画的に生物多様性保全林のような形で保護する。

【文献】千植誌 2003 : 409, 402.

(大場達之)



D リョウブ リョウブ科 一般保護

Clethra barbinervis Siebold et Zucc.

【種の特性】夏緑中高木。主に夏緑林の林縁に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。低地遺存ブナ帯要素。[M] ミヤママタタビ・ヤマブドウ群団。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】公園などに植えられることがあり、真の自生と確認できるものは少ない。

【保護対策】低木の集まる林縁環境を良好に保つ。かつての牧の点在する藪には多く見られた可能性がある。牧場、農地などの境界としての自然の生け垣を積極的に保護すべきである。

【文献】千植誌 2003 : 430, 418.

(大場達之)



D セリモドキ セリ科 一般保護

Dystaenia ibukiensis (Y.Yabe) Kitag.

【種の特性】中形の夏緑多年草。湿った林床に生える。茎は高さ 30 ~ 70cm で上部で分枝。葉は 2 回 3 出複葉。花は 7 ~ 8 月に咲き白色。虫媒で風分布。[H] 別名タニセリモドキ。

【分布】本州(東北・関東・中部)。

【県内の状況】県南部に分布するが普通ではなく、房総丘陵の西南部に限られる。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 426, 415.

(大場達之)



D シャクジョウソウ イチャクソウ科 一般保護

Monotropa hypopithys L.

【種の特性】多年生草本。菌根性。植物体はは無葉緑で淡褐色。花は 7 月に咲き、はじめ下向きに咲き、後上を向いて熟す。虫媒で、風散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、北半球北部。

【県内の状況】スギ林、照葉樹林などにはえるが、アキノギンリョウソウなどに比べて記録が少ない。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 431, 418.

(大場達之)



一般保護

D アキノギンリョウソウ イチャクソウ科 一般保護

Monotropa uniflora L.

【種の特性】菌根性の無葉緑多年草。茎は多数集まり、高さ10～20cm。花は8～10月。茎、鱗片葉、花は透明質の白色。花の後全体が茶色に乾き、果実は期果。種子は子房の中軸につく。虫媒で、風散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。東アジア、インド、北アメリカ。

【県内の状況】野田市から館山市まで全域に見られるが、南部に多い。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 431, 418.

(大場達之)



D オオバマンリョウ ヤブコウジ科 一般保護

Ardisia crenata Sims var. *taquetii* (H. Lévl.) Nakai

【種の特性】常緑小低木であるが、2mを超えるようなものもある。マンリョウに似ているが葉は細長く、先端は長く尖り、葉質は薄く、濃い緑色で鋸歯は数が少ない。虫媒で、鳥散布。[N]

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、東南アジア、インド。

【県内の状況】房総半島南部に見られ、里近くではマンリョウと混生するところもある。清澄山などではシカが食べないために個体数が異常に多いところがある。

【保護対策】自然に近い照葉樹林を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 434, 438.

(大場達之)



D マルミギンリョウソウ イチャクソウ科 一般保護

Monotropastrum humile (D. Don) H. Hara

【種の特性】多年生の菌根性草本。葉は無葉緑で白色透明質。果実は液果で、種子は子房の内壁につく。虫媒で、虫散布?。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。千島、サハリン、朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】東金市以南に分布し、照葉樹林とスギ林にみられるが、千葉市では街路樹の根元に発生したことがある。結実後植物体が崩壊してしまうので、アキノギンリョウソウよりも発見される頻度が低い。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 431, 418.

(大場達之)



D ツルコウジ ヤブコウジ科 一般保護

Ardisia pusilla DC.

【種の特性】常緑小低木。地中に匍匐枝を伸ばして群生する。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[Ch] カクレミノ - スダジイ群団。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、フィリピン。

【県内の状況】房総半島南部の照葉樹林に見られる。

【保護対策】照葉樹林の保全。

【文献】千植誌 2003 : 435, 438.

(大場達之)



一般保護

D クロバイ ハイノキ科 一般保護

Symplocos prunifolia Siebold et Zucc.

【種の特性】常緑中高木。やや乾いた照葉樹林に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[MM]カクレミノ-スタジイ群目。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】房総丘陵に分布するが、安房丘陵には確認されていない。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 446, 441.

(大場達之)



D ホウライカズラ マチン科 一般保護

Gardneria nutans Siebold et Zucc.

【種の特性】常緑藤本。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[M]カクレミノ-スタジイ群団。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。

【県内の状況】照葉樹林に生えるが、開花結実するような個体は少ない。房総丘陵の照葉樹林に生える。

【保護対策】自生環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 450, 443.

(大場達之)



D キヨズミイボタ モクセイ科 一般保護

Ligustrum tschonoskii Decne. var. *kiyozumianum* (Nakai) Ohwi

【種の特性】半常緑低木。オオバイボタに似ているが葉はやや小形で細長く、枝や葉の下面に毛が多い。花序は細長い。虫媒で鳥散布。ミヤマイボタが房総半島南部に隔離分布したものと考えられている。[N]

【分布】本州(関東南部)。

【県内の状況】房総丘陵に集中して分布するが、オオバイボタなどとの誤認が少なからずあり、正確な分布は再調査が必要である。

【保護対策】分布と生態の詳細な調査が必要である。

【文献】千植誌 2003 : 450, 442.

(大場達之)



D コケリンドウ リンドウ科 一般保護

Gentiana squarrosa Ledeb.

【種の特性】二年生草本。明るい林床、林縁、芝地などに見られる、路傍のやや湿った土手などに多い。根屈曲して深く地中に入る。葉は単葉で対生し地表にロゼット状に広がる。花は3~4月。青紫色。虫媒で、風散布。[Th]

【分布】本州。朝鮮、中国、シベリア、インド。

【県内の状況】全域に分布する。

【保護対策】土手の管理を生物多様性の観点から見直す。

【文献】千植誌 2003 : 452, 444.

(大場達之)



一般保護

D センブリ リンドウ科

一般保護

Swertia japonica (Schultes) Makino

【種の特性】一年生草本。虫媒で風散布。茎は直立し、中～上部で多く枝を分かち。花は8～10月。花冠は白色で紫色の脈がある。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。乾いた明るい林、乾き気味の草地などに生える。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】全域に分布するが、少なくなっている。

【保護対策】生育環境を保持する。

【文献】千植誌 2003 : 452, 453.

(大場達之)



D イヨカズラ ガガイモ科

一般保護

Vincetoxicum japonicum C.Morren et Decne.

【種の特性】多年生つる草本海岸の波しぶきを受ける崖にイソギクなどと共に生える。葉は単葉で光沢があり対生。花は5～7月に咲き、淡黄色。虫媒で、風散布。[G] ボタンボウフウ群団。別名ズメノオゴケ。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】太平洋側では犬吠埼から館山まで、東京湾側では富浦町が北限。

【保護対策】海崖の自然植生を破壊しない。

【文献】千植誌 2003 : 464, 455.

(大場達之)



D キジョラン ガガイモ科

一般保護

Marsdenia tomentosa Morr. et Decne.

【種の特性】常緑藤本。自然度の高い照葉樹林、モミ林に見られるが開花するような株は少ない。葉は単葉で対生し革質で濃緑色。花は8～9月に咲く。花序は葉腋から出て葉柄とほぼ同長の柄の先に散形状に白い花を多数つける。虫媒で、風散布。[M] カクレミノ - スダジイ群目。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】一宮町以南の房総丘陵に分布する。

【保護対策】生育環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 464, 456.

(大場達之)



D オオアリドオシ アカネ科

一般保護

Damnacanthus indicus Gaertn. f. ssp. *major* (Sieb. et Zucc.) Makino

【種の特性】常緑小低木。葉は単葉で対生。基本種に比べて葉は大きく、短い柄がある。

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】県中南部の丘陵域に点在する。アリドオシと混生する場所も多い。

【保護対策】生育環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 466,457 / 谷城・森(2007) : 内浦山自然環境保全地域の植物相・千葉県自然環境調査報告書・千葉県環境部自然保護課 23-40. (大場達之 / 谷城勝弘 追補)



一般保護

D ヤマルリソウ ムラサキ科 一般保護

Omphalodes japonica (Thunb.) Maxim.

【種の特性】高さ 10 ~ 20cm の夏緑の多年生草本。やや湿った明るい林床に生える。葉は地表にロゼット状に広がる。茎は斜上し、円筒形で、剛毛が生える。葉は互生、長楕円形で、両面に荒い毛が生える。葉柄は短い。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花序は分枝しない。花冠は水色、花筒は短い、径約 7 mm で、喉部に黄色い鱗片がつく。果実は白くて光沢のある小堅果で、ほぼ楕円形球、背面の凹みの周囲に刺がない。虫媒で、重力散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】南総の丘陵地に分布する。

【保護対策】生育環境を良好に保つ。

【文献】千植誌 2003 : 482, 473.

(大場達之 / 天野 誠 追補)



D ジュウニヒトエ シソ科 一般保護

Ajuga nipponensis Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。葉は単葉で対生。ブナ群綱。[H]

【分布】本州・四国。

【県内の状況】県の北東部に多いが、管理された雑木林の減少と共に少なくなっている。

【保護対策】雑木林を計画的に下刈りし、林床植物の保全を図る。観賞用の採取をやめる。

【文献】千植誌 2003 : 489, 493.

(大場達之)



D イワダレソウ クマツツラ科 一般保護

Phyla nodiflora (L.) Greene

【種の特性】常緑の多年生草本。やや湿った海岸の砂地、岩場に生える。茎は地表を這い枝を多く分かって一面に広がる。花は 7 ~ 10 月。葉腋から直立する 2 ~ 4cm の花茎を出し紅紫色の花を蜜に穂状につける。虫媒で、鳥散布。[G]

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。世界の熱帯。

【県内の状況】館山、白浜など南部海岸に多いが、船橋などの埋め立て地にも漂着種子に由来すると思われるものが見られる。最近館山では水田の畦、水田内に広がっているところが見られる。帰化した系統の疑いがある。

【保護対策】海岸の過剰な管理をやめ、汀線からクロマツ林までの植生配分を保持する。

【文献】千植誌 2003 : 487, 476.

(大場達之)



D ミゾコウジュ シソ科 一般保護

Salvia plebeia R.Br.

準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】二年生草本。河川の氾濫原や水田に生える。葉は単葉で対生。虫媒で重力散布。茎は直立し枝を分かち。[Th] タウコギ群綱。

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】利根川沿岸などにはやや普通であるが、水田環境では耕地整理で著しく減少している。

【保護対策】河川氾濫原を過度に管理しない。水田では除草剤の過度の使用をつつしむ。

【文献】千植誌 2003 : 492, 496.

(大場達之)



一般保護

D ヒメナミキ シソ科

一般保護

Scutellaria dependens Maxim.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、風散布。[HH] ヨシ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】県の中から北部の湿地、水田のあぜ道などに見られるが普通ではない。

【保護対策】湿地を保全する。またあぜ道などを牧草などで緑化することを再考する。

【文献】千植誌 2003 : 490, 494.

(大場達之)



D シソクサ ゴマノハグサ科

一般保護

Limnophila chinensis (Osbeck) Merr. subsp. *aromatica* (Lam.) T.Yamaz.

【種の特性】二年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で、重力散布。アゼナ群団。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】千葉県では中～北部に見られるが普通ではない。

【保護対策】耕作中の水田に生えるので保護対策は難しい。

【文献】小松崎一雄 1971 千葉県下のシソクサの産地。植物採集ニュース 57 : 86-87 / 浅野貞夫

1972 千葉県下のシソクサの産地に再追加。植物採集ニュース 62 : 38 / 千植誌 2003 : 537, 528.

(大場達之)



D コバノタツナミ シソ科

一般保護

Scutellaria indica L. var. *parvifolia* (Makino) Makino

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で対生。ツツナミソウの類としては最も明るい乾いた環境に生え、全体に毛が多い。虫媒で、風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】乾いた草地や路傍などに生えることもあるが、普通ではない。

【保護対策】生育環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 491, 495.

(大場達之)



D ヒキヨモギ ゴマノハグサ科

一般保護

Siphonostegia chinensis Benth.

【種の特性】半寄生性の中形1年草。茎は堅く基部はやや木化する。

茎は斜上し上部で枝分かれする。花は8月で黄色。虫媒で、風散布。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。中国、朝鮮、台湾、プリモリア。

【県内の状況】ほぼ全域に分布するが、放牧草地の衰退で少なくなっている。

【保護対策】半自然草地を計画的に維持する。

【文献】千植誌 2003 : 537, 527.

(大場達之)



一般保護

D ミヤマウグイスカグラ スイカズラ科 一般保護

Lonicera gracilipes Miq. var. *glandulosa* Maxim.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で対生。ウグイスカグラに似てくるが、葉、茎などに開出した粗い毛が多い。低地遺存ブナ帯要素。虫媒で、鳥散布。[N]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】関東地方のブナ帯には多く見られるが、千葉県ではわずかな観察例があるだけである。

【保護対策】生育地の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 558, 553.
(大場達之)



D タニギキョウ キキョウ科 一般保護

Peracarpa carnosa Hook.f. et Thomson var. *circaeoides* Makino

【種の特性】多年生草本。湿った肥沃な林床、林縁に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国、カムチャッカ。

【県内の状況】県内全域に点在する。北斜面の半日陰に生える。生育地ではしばしば広範囲に群生する。

【保護対策】林縁を大型草本の繁茂による藪にならないよう管理することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 563, 556.
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



D オミナエシ オミナエシ科 一般保護

Patrinia scabiosaefolia Fisch.

【種の特性】多年生草本。葉は羽状複葉で対生。虫媒で風散布。[Ch] トダシバ - ススキ群団。

【分布】本州・四国・九州。本州・四国・九州。朝鮮、中国、東シベリア。

【県内の状況】全域に見られるが、どこでも著しく少なくなっている。

【保護対策】半自然草地、特に耕地周辺の土手などの草刈りを定期的に行う。またかつての牧の状態を保つような種類数に富む草地を保護地として管理するシステムが必要である。

【文献】千植誌 2003 : 559, 554.

(大場達之)



D テイショウソウ キク科 一般保護

Ainsliaea cordifolia Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。乾いたスダジイ林、モミ林などの林床に生える。葉は長卵形で、茎の下部に集まりつく。茎は高さ 20 ~ 60 cm。花は 9 ~ 11月に咲き、頭花は茎の先に総状につき、頭花の柄には多数の小苞がある。筒状花は白色。虫媒で、風散布。[G]

【分布】本州（関東以西～近畿）・四国。

【県内の状況】千葉市・市原市以南に分布するが鴨川低地以南には記録がない。

【保護対策】鑑賞目的などでの採集を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 590, 572.

(大場達之)



一般保護

D イソギク キク科

一般保護

Chrysanthemum pacificum Nakai

【種の特性】亜低木状の多年生草本。海岸の潮しびきを浴びる岩場に生える、葉は単葉で互生。花は茎の先きに密に集まって咲き、舌状花がない。虫媒で、重力散布。[H] ボタンボウフウ群団。

【分布】本州（伊豆諸島・房総半島・三浦半島・伊豆半島）

【県内の状況】海岸の崖に多く生えるが、最近は栽培のキクとの間に、舌状花を持った雑種ハナイソギクなどができ、イソギクの自生環境に広がっている。鋸山などの岩山では海拔 200 m 以上のところにも見ら

れる。葉の形態に地域変異が見られる。

【保護対策】キクとの雑種は極力除去する。海岸などで移植増殖する場合は、地域個体群の遺伝子組成を本来の状態に保つために、その地域の株を用い、千葉県内であっても他の地域の異なった遺伝子組成の個体群からの移植を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 616, 611.

(大場達之)



D ワダン キク科

一般保護

Crepidiastrum platyphyllum (Franch. et Sav.) Kitamura

【種の特性】多年生草本あるいは1回稔性の多年草。葉は単葉で全縁、ロゼット状で、白緑色を帯びキャベツに似た感じがある。花は秋遅くに咲き、花茎の先に密に黄色い花を集めて咲く。虫媒で、風散布。[Ch] イソギク - ハチジョウススキ群集。

【分布】本州（伊豆諸島・房総半島・三浦半島）

【県内の状況】全域の海崖に見られるが、個体数は少ない。

【保護対策】自然な海崖の開発を控える。

【文献】千植誌 2003 :

646, 637.

(大場達之)



D タカアザミ キク科

一般保護

Cirsium pendulum Fisch. ex DC.

【種の特性】大形の夏緑多年草で高さ 1 ~ 2.5 m。河川敷に見られるが、宅地造成地などに偶生することがある。茎は直立し上部で枝を分かち。根生葉は花時には枯れている。頭花は多数で下向きに咲く。筒状花は紅紫色。。虫媒で風分布。[H]

【分布】北海道・本州。朝鮮、中国東北部、プリモリア。

【県内の状況】分布は県の北部に集まっているが、鴨川市からの報告もある。

【保護対策】

【文献】千植誌 2003 : 578, 570.

(大場達之)



D ノニガナ キク科

一般保護

Ixeris polycephala Cass.

【種の特性】二年生草本。河川の氾濫原、田の畦など湿った粘土質の土壌に生える。葉は単葉で互生、根生葉は線状披針形、茎の葉は長いやじり形で全縁。茎は高さ 15 ~ 40cm。花は5月で、舌状花は黄色。虫媒で風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、朝鮮、中国、インド、コーカサス。

【県内の状況】県北部の利根川水系に属する各地から報告され、八街市などの水田周辺からも記録されている。また千葉市青葉の森公園の移植した芝生に生えたこともある。

【保護対策】河川氾濫原の環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 648, 639.

(大場達之)



一般保護

D ハマニガナ キク科

一般保護

Ixeris repens (L.) A.Gray

【種の特性】多年生草本。地下茎は白く砂中を横に這い、葉と花を砂上に出す。葉は5角状で、掌状に裂ける。葉は単葉で互生。花は5~7月。花茎は先端に2~5個の頭花をつける。虫媒で風散布。[G]ハマボウフウ群目。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。サハリン、朝鮮、台湾、中国、カムチャッカ。

【県内の状況】千葉県海岸砂浜に広く分布するが、攪乱された砂浜には見られず、少なくなっている。

【保護対策】自然の砂浜を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 648, 639.

(大場達之)



D クマノギク キク科

一般保護

Wedelia chinensis (Osbeck) Merr.

【種の特性】常緑多年生草本。海岸近くの湿った草地に生える。茎は地表あるいは浅い地中を横に走り、マット状に広がる。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。[G]

【分布】本州(関東以西)・四国・九州・琉球。台湾、中国、マレーシア。

【県内の状況】旧和田町、鴨川市、旧白浜町、館山市から記録されている。水田の畔にも見られる。千葉県産のものは帰化の可能性もあるが、1935年ころから記録がある。本種に限らずコスモポリタンの雑草は、

自生か否かの判断が難しい。

【保護対策】

【文献】千植誌 2003 : 630, 623.

(大場達之)



D サワオグルマ キク科

一般保護

Senecio pierotii Miq.

【種の特性】多年生草本。茎は高さ50~80cmで直立し下部にロゼット状に葉が集まりつく。花は4~5月。舌状花は黄色。湿地に生え群生することがある。虫媒で風散布。[H]ヨシ群綱。

【分布】本州・四国・九州・琉球。

【県内の状況】九十九里低地、利根川沿岸など県の北部に多いが鴨川市でも記録されている。千葉市の都川流域では放棄水田に群生するところがあるが、ほかでは個体数が減少している。

【保護対策】湿地を保全するとともに、観賞用などでの採取を防止する。

【文献】千植誌 2003 : 602, 605.

(大場達之)



D コアマモ アマモ科

一般保護

Zostera japonica Ascherson and Graebner

【種の特性】多年生草本。根茎は節から2本の根を出す。葉は単葉で互生。雌雄同株。葉を含めたシュートの長さは10~40cm、幅1~4mm、平行脈は3本、先端縁辺部に鋸歯がない。肉穂花序は葯隔付属突起を持つ。5~8月に花序をつけて種子ができる。干潟、河口域、静かな入り江の潮間帯下部の砂地に生育する。水媒で水散布。[HH]コアマモ群集。

【分布】北海道、本州(太平洋沿岸)、北太平洋の日本列島沿岸域と北アメリカ西海岸のみに分布。琉球からヴェトナムかけての地域にも分布するとされたが、最近これは別の亜種に区分された。

【県内の状況】小櫃川河口の盤洲干潟、富津干潟、館山湾~勝浦の静かな入り江に生育する。

【保護対策】

【文献】Ascherson & Graebner 1907 / Kuo, J. & McComb, A. J. 1989 Seagrass taxonomy and structure and development. In : Larkum, A. W. D., McComb, A. W. D. & Shepherd, S. A. (eds.) Biology of seagrass : 6-56. Elsevier / 千植誌 2003 : 657, 662. / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 9,34,35.

(宮田昌彦)



一般保護

D アマモ アマモ科

一般保護

Zostera marina L.

【種の特性】多年生草本。節から多数の根を出す。葉は単葉で互生。雌雄同株。葉を含めたシュートの長さは50～120cm、幅は3～8mmで5～7本の平行脈をもち先端縁部に鋸歯がない。開花期は4-7月で主茎の先端に頂生する花序をつけ種子をつくる。肉穂花序は葯隔突起を持たない。種皮には稜があり表面は平滑。波の穂やかな入り江、干潟の漸深帯上部の砂地に生育する。水媒で、水散布。[HH] アマモ群集。

【分布】北海道・本州（太平洋沿岸、北半球のみに分布。

【県内の状況】小櫃川河口の盤洲干潟、富津干潟、館山湾～勝浦の静かな入り江に生育する。

【保護対策】

【文献】Miki, S. 1933 Bot. Mag. Tokyo 47 : 842-862 / 千植誌 2003 : 657, 662. / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 8,26-27.

(宮田昌彦)



D ヤマラッキョウ ユリ科

一般保護

Allium thunbergii G. Don

【種の特性】小型の多年生草本。葉は単葉で円筒状のものと平坦な個体とがあり、互生。花は秋に先き紅紫色で、花茎の咲きに球状に集まって咲く。虫媒で、重力散布。[G] ススキ群綱。

【分布】本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】かつては谷津田の土手などに普通であったが、草刈り管理などが簡略化されて、草丈の高い草が生い茂り、少なくなっている。

【保護対策】鑑賞目的の採集をしない。

【文献】千植誌 2003 : 686, 680.

(大場達之)



D ササバモ ヒルムシロ科

一般保護

Potamogeton malaianus Miq.

【種の特性】大型で沈水性の多年生草本。湖沼、河川、水路等に生育する。葉は単葉で互生。水中茎は3mを越えることもある。陸生形ではヒルムシロに酷似するが葉の先端は鋭頭で芒状に突出するので識別できる。水媒で、水散布。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。東アジア、インド、ニューギニア。

【県内の状況】県北部の河川、池沼を中心に多くの生育地が知られていたが、河川改修や水路のコンクリート護岸の普及によって生育適地が少なくなり、産地は急減している。

【保護対策】河川や池沼の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 478 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑 : 37 / 千植誌 2003 : 669, 663 / 林・谷城・浅間 2008 手賀沼流域における水生植物の繁茂状況. 千生誌 58(1): 1-6.

(谷城勝弘)



D ウバユリ ユリ科

一般保護

Cardiocrinum cordatum (Thunb. ex Murray) Makino

【種の特性】大型の多年生草本。やや湿った竹林、スギ植林地などに生える。葉は単葉で互生し、心円形で茎の中部に集まってつく。花は夏に花茎の先に集まって咲き、淡緑色を帯びた白色で、上下から押しつぶした筒状で、横向きに咲く。虫媒で、風散布。ブナ群綱。本来はケヤキ林の構成種であったと考えられる。[G]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】ほぼ県内全域に分布するが、利根川低地、九十九里低地などには極めて少ない。安定した環境では多くの個体が集まり、開花

株も多いが、そのような産地は少なくなっている。

【保護対策】

【文献】千植誌 2003 : 687, 681.

(大場達之)



一般保護

D オオバギボウシ ユリ科 一般保護

Hosta montana F.Maek.

【種の特性】大型の多年生草本。葉は単葉で互生。苞葉が平坦で、開出して星状になる花は淡紫色。虫媒で風散布。[H] ススキ群綱

【分布】北海道・本州（太平洋側）・四国・九州。

【県内の状況】県北部に稀。

【保護対策】鑑賞目的あるいは食用目的などの採取を控える。

【文献】千植誌 2003 : 686, 679.

(大場達之)



D ヒメアブラススキ イネ科 一般保護

Capillipedium parviflora (R.Br.) Stapf

【種の特性】多年草。丘陵地の草原に生育。稈高 50 ~ 100 cm で、節に開出軟毛が多い。有柄小穂は長さ 3 mm で雄性、ときに無性で芒はなく、柄には長毛が 1 列につく。無柄小穂は両性で、上方小花に 2 cm ほどの芒があり外に飛び出す。花期は 8 ~ 10 月。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮南部、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】上総丘陵より南にあり、北総にはみられない。

【保護対策】草地の復活、保全。

【文献】千植誌 2003 : 784, 789.

(木村陽子)



D ホソバシュロソウ ユリ科 一般保護

Veratrum maackii Regel var. *maackioides* (Loen) H.Hara

【種の特性】中型からやや大型の夏緑多年草。根生葉は線状楕円形で縦皺が目立つ。株の基部に繊維質が集まってつく。花は秋の初めに咲きやや褐色を帯びた紫色で、散房状の花序に群がりつく。虫媒で、風散布。明るいコナラ林や林縁に生えるが群がって生えることはない。

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国北部、ブリーモリア。

【県内の状況】房総半島南部に多い。北限は袖ヶ浦市と考えられる。

【保護対策】

【文献】千植誌 2003 : 685, 678.

(大場達之)



D オオギョウギシバ イネ科 一般保護

Cynodon dactylon (L.) Pers. var. *nipponicus* Ohwi

【種の特性】地上匍匐枝を長く出し、節から発根する多年草。ギョウギシバの変種で、ギョウギシバに比べ全体が大きい。花期は 9 月 ~ 11 月。[H ~ Ch]

【分布】本州。西日本の特産とされ、三重県や伊豆に分布が知られていたが、千葉県にも分布があり、日本における分布の東・北限となることが明らかになった。さらに北にある茨城県でも野口達也氏が 1980 年頃採集したとの情報がある。

【県内の状況】富津岬（1961.10.25, 大場達之, KPM-NA0037595）の標本があったが、館山市平砂浦の海岸（2001.10.09, 勝山輝男・中山博子・佐々木あや子によって再確認された。

【保護対策】自然海岸の保全。

【文献】勝山輝男 2003 オオギョウギシバ 千資料 19 : 144 / 千植誌 2003 : 760, 751.

(木村陽子)



一般保護

D カリマタガヤ イネ科

一般保護

Dimeria ornithopoda Trin.

【種の特性】小形の1年草。陽地の水湿地に生育。葉身、葉鞘にまばらな毛がある。花序は2~3本の総からなり、中軸は扁平で、長さ3~8cm。小穂は長さ2.7~3.8mmで、両性の上方小花の護穎には3~10mmの芒が外に突き出す。花期は8~10月。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、東南アジア、オーストラリア。

【県内の状況】県内各地。芒がなく帯紫褐色のヒメカリマタガヤ(form. *microchaeta* Hack.) と混生することがある。

【保護対策】開発で失われやすい湿地の保全。

【文献】千植誌 2003 : 781, 778.

(木村陽子)



D チョウセンガリヤス イネ科

一般保護

Kengia hackelii (Honda) Packer

【種の特性】根茎の短い多年草。葉鞘部を開出毛があり、葉舌は毛状。葉鞘部からでない閉鎖花の花序のほか、長さ4~8cmの抜け出す花序がある。小穂は2~4小花からなり、ときに赤紫色を帯び、護穎は長さ4~5mmで、芒を出す。花期は8~10月。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内の全域の雑木林などの林内にみられる。

【保護対策】雑木林の保全。

【文献】千植誌 2003 : 744, 736.

(木村陽子)



D ヒメウキガヤ イネ科

一般保護

Glyceria depauperata Ohwi

【種の特性】多年草。水辺に生育。稈は水面に浮いていることが多い。円錐花序の幅は狭い。葉鞘は完筒形。内穎は護穎と同長。内穎の竜骨上のひれは幅広い。県内産のウキガヤとされていたものは、護穎の長さ3.5mm以下のものが多くヒメウキガヤである。花期は5~7月。[HH]

【分布】北海道・本州。千島、中国北部。

【県内の状況】以前は北部に散見されたが、近年は南部からも報告されている。

【保護対策】自然な川、池の保全。

【文献】千植誌 2003 : 762, 722.

(木村陽子)



D チャボチヂミザサ イネ科

一般保護

Oplismenus undulatifolius (Ard.) Roem. et Schlut. var. *microphyllus* (Honda) Ohwi

【種の特性】多年草。やや湿った所に生育。花序には毛が少ないが、葉面には微毛のほか長毛が散生しているのはコチヂミザサとのよい区別点である。生育がよいと、最上葉の葉の長さは4~4.5cmにもなり、コチヂミザサと似るが、葉の幅が狭いので、細長く見える。花期8~10月。[H]

【分布】本州(関東以西、栃木県、千葉県、神奈川県)・四国・九州・琉球。台湾、フィリピン、ボルネオ。

【県内の状況】県内の清澄山は等価基準標本の産地の1つである。千葉県では、長く忘れられた種であったが、認識されるようになってから、県南の丘陵地以外の佐倉市や山武郡でも採集されている。

【保護対策】山林の保全。

【文献】Honda M. 1930. Journ. Fac. Sci. Tokyo Univ. Bot. vol.3 : 274 / Scholz, U. 1981. Monographie der Gattung *Oplismenus*. J.Cramer Vaduz / 木村陽子・大場達之 1998 千葉県のチャボチヂミザサ. 千資料 13 : 91 / 木村陽子 1999 チャボチヂミザサ - その2. 千資料 14 : 102 / 小崎昭則 1999 チャボチヂミザサなど. 千資料 14 : 102-104 / 千植誌 2003 : 766, 756. (木村陽子)



一般保護

D アイアシ イネ科

一般保護

Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi

【種の特性】大形の多年草。根茎が長い。葉身はやや白緑色。花序は5～10本の総が掌状に並び、総は長さ10～25cm、幅5mmで、各節に有柄小穂と無柄小穂がつき、共に雄性と両性の2小花からなる。第1苞穎は革質で硬い。花期は6～10月。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国北部、アムール。

【県内の状況】県内では小櫃川や江戸川放水路河口をはじめ、東京湾ぞいから南房総市(旧白浜町)の湿地や河口に生育するが、太平洋側には現在の所見られない。

【保護対策】埋め立てにより少なくなった海辺の湿地、河口域の保全。

【文献】千植誌 2003 : 786, 791.

(木村陽子)



D オオアブラススキ イネ科

一般保護

Spodiopogon sibiricus Trin.

【種の特性】多年草。稈高1mと大形で、根茎は長く鱗片におおわれる。花序の枝は斜上する。小穂は長さ5mm、苞穎の背には長毛がやや密生。下方小花は雄性、まれに無性、上方小花は両性で護穎の先に長さ7～12mmの芒を出す。花期は8～10月。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国北部、シベリア。

【県内の状況】船橋市から鋸南町にかけての記録が多いが、御宿町や銚子市にも産する。

【保護対策】草地の保全。

【文献】千植誌 2003 : 781, 778.

(木村陽子)



D イヌアワ イネ科

一般保護

Setaria chondrachne (Steud.) Honda

【種の特性】多年草。根茎は伸びる。円錐花序は、中軸に短い枝が交互につき、長さ30cmにもなる。花期は8～10月。[H]

【分布】本州(東西南部以西)・四国・九州。朝鮮、中国南部。

【県内の状況】市川市から鴨川市にかけての記録はあるが、九十九里方面からの記録は少ない。

【保護対策】生育地である林、藪、湿生原野の保全。

【文献】千植誌 2003 : 769, 775.

(木村陽子)



D ハネガヤ イネ科

一般保護

Stipa pekinensis Hance

【種の特性】背の高い多年草。草地に生える。稈は直立して枝を分けない。円錐花序は枝を3～6個出し、苞穎は小穂と同長で3脈、ときに紫色を帯び光沢がある。護穎の外面には軟毛があり、2cm以上の芒がある。花期は8～9月。[H]

【分布】北海道・本州。サハリン、千島、中国北部、極東シベリア。

【県内の状況】北部に多い。市川市(2005年)でも確認されたが、その個体数はわずかである。

【保護対策】かつてのカヤ刈り場、ススキ草地の復活、保全。

【文献】千植誌 2003 : 715, 717.

(木村陽子)



一般保護

D ハタガヤ カヤツリグサ科 一般保護

Bulbostylis barbata (Rottb.) Kunth

【種の特性】一年生草本。沿海地の日当たりの良い砂地に生える。葉は単葉で互生。風媒で、風散布。花序は頭状で多数の無柄の小穂からなる。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、インド、インドネシア、オーストラリア。

【県内の状況】海岸松林の明るい林床や林縁などの砂地に生育する。内陸の造成地などにも稀に出現することがある。

【保護対策】海岸松林の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 408 / 新千植誌 1975 : 454 / 折目 1993 富里の植物 : 126 / 千植誌 2003 : 866.

(谷城勝弘)



D オニスゲ カヤツリグサ科 一般保護

Carex dickinsii Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。湧水源付近の水湿地に生える。根茎は横走し、しばしば群生する。小穂は大型。風媒で水散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】南部丘陵地や北部台地の谷間、斜面下方の湿所、谷津奥の湿地などに群生する。清涼な水湿地を好み、低平地の水田域や平野部には生育がない。

【保護対策】湧水源付近の湿所の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 854,848.

(谷城勝弘)



D ジョウロウスゲ カヤツリグサ科 一般保護

Carex capricornis Meinsh. 絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。小穂は幅 1.5 ~ 3.0mm、長さ 15 ~ 18mm、喙が長く先が著しく2裂する果胞をつける。[HH]

【分布】北海道・本州（関東地方）、東アジア。

【県内の状況】手賀沼、印旛沼などの利根川流域を中心に生育するが、近年、千葉市、佐倉市の他、九十九里浜平野域にも群生地が確認されるようになった。水鳥による種子散布が分布拡大の原因と考えられる。本種は遷移の初期群落に見出されることが多く、遷移の進行にとも

なってヨシ、ヒメガマなどの大型草本が侵入すると消滅する。

【保護対策】水辺と湿地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 (1958) : 409 / 新千植誌 (1975) : 455 / 千植誌 2003 : 854,848.

(谷城勝弘)



D ツクバスケ カヤツリグサ科 一般保護

Carex hirtifructus Kük.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で、重力散布。横走する根茎をもつ。千葉県のツクバスケは果実の結実率が極めて低く、栄養繁殖を中心とした特異な個体群である。[H]

【分布】本州・四国・九州。太平洋側の低山地。

【県内の状況】清澄山系と高宕山系の尾根沿いに生育する。向陽地の斜面に群生する箇所もある。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 841,845.

(谷城勝弘)



一般保護

D オキナワジュズスゲ カヤツリグサ科 一般保護

Carex ischnostachya Steud. var. *fastigiata* T. Koyama

【種の特性】多年生草本。森林性または草地性。葉は単葉で互生。ジュズスゲに似るが、葉幅は狭く、基鞘は赤みが強く、果胞は長さ3mm程度で小さい。風媒で重力散布。[H]

【分布】本州(関東)・四国・九州・琉球。

【県内の状況】確認の記録は県北東部に多いが、古くは清澄山で採られた標本もある(浅野貞夫 1935, CBM-BS-166842)。ジュズスゲ var. *ischnostachya* と誤認されやすいため本県での詳しい分布は今後の精査

にまつれる。匝瑳市飯高のスギ林には広範に及び群落が形成されている。

【保護対策】生育の適地となる疎林ではアズマネザサの侵入が顕著な箇所が増えている。定期的に刈り取りをしてササ類の繁茂を抑えることが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録: 164 / 谷城勝弘 1994 調査会目録: 121 / 谷城勝弘 1995 調査会目録: 114 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物: 37-50 / 千植誌 2003: 853,847.

(谷城勝弘)



D オオアオスゲ カヤツリグサ科 一般保護

Carex lonchophora Ohwi

【種の特性】多年生草本。森林性または草地性。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。アオスゲ *C. leucochlora* より大型になり、苞鞘は2~3cmと長く、基部は糸状に分解する。[H]

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】千葉県植物誌(1958)の植物目録に千葉市(伊藤至)が記録されている近年、県北部一帯に点在することが確認されている。

【保護対策】生育地では定期的な刈り取り管理を実施し、大型多年草の侵入を抑えることが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 411 / 谷城勝弘 1991 調査会目録: 161 / 谷城勝弘 1992 調査会目録: 162 / 折目 1993 富里の植物: 110 / 谷城勝弘 1995 調査会目録: 114 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物: 37-50 / 千植誌 2003: 836,826.

(谷城勝弘)



D センダイスゲ カヤツリグサ科 一般保護

Carex lenta D. Don var. *sendaica* (Franch.) T. Koyama

【種の特性】多年生草本。森林性または海岸性。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。ナキリスゲ (var. *lenta*) に似るが、長い地下走出枝をもつ。[H]

【分布】本州・四国・九州。濟州島、中国。

【県内の状況】初め銚子市君ヶ浜で確認され(谷城勝弘 1990.10.21, CBM-BS-146954)、その後、南房総沿岸域のほか富里市、市原市など内陸域でも発見された。海岸線域(かつての海退以前の海岸線域を含む)には生育地が連続すると推測される。

【保護対策】海岸の松林、草地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録: 163 / 折目 1993 調査会目録: 139 / 折目 1993 富里の植物: 130 / 谷城勝弘 1995 調査会目録: 116 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物: 37-50 / 千植誌 2003: 834,824.

(谷城勝弘)



D チュウゼンジスゲ カヤツリグサ科 一般保護

Carex longerostrata C.A. Mey. var. *pallida* (Kitagawa) Ohwi

【種の特性】多年生草本。明るい夏緑林~草原に生える。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。[H]

【分布】本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県北部のコナラ、クヌギなどを中心とする落葉樹林のやや明るい疎林の林床や林縁に疎らに生育する。

【保護対策】落葉樹林の放置による群落の遷移を防ぐために刈り取り等の管理を継続することが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 411 / 新千植誌 1975: 457 / 千植誌 2003: 840,828.

(谷城勝弘)



一般保護

D イソアオスゲ カヤツリグサ科 一般保護

Carex meridiana Akiyama

【種の特性】多年生草本。海岸性（潮しぶきのかかる崖地等）。葉は単葉で互生。メアオスゲ（*C. candolleana*）に似るが、根茎はやや発達し褐色を帯びる。下部の小穂は根元から出る。風媒で、アリ散布。[H]

【分布】本州・伊豆七島。秋山茂雄（1955）は伊豆大島を唯一の生育地として記載したが、近年は本州の海岸域に複数の生育地が判明している。

【県内の状況】県内では銚子市君ヶ浜（1990.4.30, 谷城勝弘, CBM-BS-148044）で発見されたが、後に太平洋岸から東京湾岸の磯の岩崖地に複数の生育地が判明した。主に渚付近の崖に生育するが、ときに海辺から離れた内陸（かつての海岸線域に遺存）に生育することもある（いすみ市中等）。

【保護対策】海岸域の環境を良好に維持する。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録：162 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：248 / 谷城 1995 調査会目録：114 / 谷城 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物：37-50 / 谷城 1996 調査会目録：118 / 千植誌 2003：836,825. / 岩瀬・鶴岡・谷城・久保田 2006 犬吠崎の植物・千生誌 56(1): 1-12.（谷城勝弘）



D コミヤマカンスゲ カヤツリグサ科 一般保護

Carex multifolia Ohwi var. *toriana* T.Koyama

【種の特性】多年生草本。森林性。葉は単葉で互生。ミヤマカンスゲ var. *multifolia* に似るが、全体に小型で細長い匍匐枝をもつ。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州（関東から近畿地方の太平洋側の丘陵～低山地）。

【県内の状況】県南部の丘陵地に生育する。匍匐枝による栄養繁殖が旺盛で広範な群落をなすところが多い。海岸近くまで生育する。館山以南の安房丘陵には分布しない。近年、銚子丘陵にも分布することが判明した。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録：161 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：247 / 谷城勝弘 1994 調査会目録：120 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：114 / 谷城勝弘 1996 調査会目録：118 / 谷城勝弘 1999 千葉県新記録のスゲ属植物・千生誌 49(1): 12-17 / 千植誌 2003：838.

（谷城勝弘）



D ヒメシラスゲ カヤツリグサ科 一般保護

Carex mollicula Boott

【種の特性】小型の多年生草本。森林性または草党性。葉は単葉で互生。根茎あり。葉裏は表面と同じ緑色。小穂は無梗で接近してつく。風媒で重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州・伊豆諸島。サハリン、朝鮮、中国。

【県内の状況】主として県中南部の丘陵地の沢沿いや山間の湿潤な草地に疎らに生える。本県ではまとまりのある群落形成はなく、個体数は少ない。北総では成田市横山で3個体が確認されている。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：411 / 新千植誌 1975：457 / 千植誌 2003：833,824.

（谷城勝弘）



D ヒゲスゲ カヤツリグサ科 一般保護

Carex oahuensis C. A. Mey. var. *robusta* Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。海岸性。葉は単葉で互生。葉は硬く、幅約1cm。基部は糸状に分解する。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球・伊豆諸島。朝鮮、中国。

【県内の状況】銚子市犬吠崎周辺、県南部の海岸の岩崖地に生育する。潮風の当たる向陽地にしばしば群生する。

【保護対策】生育適地となる海岸草地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：409 / 新千植誌 1975：457 / 千植誌 2003：840,828. / 岩瀬・鶴岡・谷城・久保田 2006 犬吠崎の植物・千生誌 56(1): 1-12.

（谷城勝弘）



一般保護

D ヒメゴウソ カヤツリグサ科 一般保護

Carex phacota Spreng.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果胞に細乳頭がある。雌小穂は細く5～7mm。基部は淡色または黄褐色。風媒で、水散布。

[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド、マレシア。

【県内の状況】九十九里平野域に雌鱗片の芒が長く果胞表面には乳頭状突起を密布するホナガヒメゴウソ var. *phacota* が分布し、県中～北部

台地の斜面下には芒が短く乳頭状突起が疎らなヒメゴウソ var. *gracilispica* が分布する。両変種とも個体数は少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 412 / 新千植誌 1975 : 457 / 谷城・細川・小野沢・山田・野口・久保田 1996 乾草沼. 千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 11-101 / 千植誌 2003 : 831,822.

(谷城勝弘)



47メッシュ
最新記録 2003年

D シオクグ カヤツリグサ科 一般保護

Carex scabrifolia Steud.

【種の特性】多年生草本。湿地性または抽水性(海岸の砂泥地)。葉は単葉で互生。風媒で水散布。長い走枝あり。葉は細く、幅1.5～3.0mm。小穂は1～2cm。[G]シオクグ群集。

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

【県内の状況】河口や海岸の湿地に生える。外房に多く内房には稀である。一宮川河口部一帯の湿地には県内最大の広範な群落が現存する。

【保護対策】本種の生育適地としての河口部の湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 412 / 新千植誌 1975 : 458. / 千植誌 2003 : 854,847 / 谷城勝弘 2005 利根川河川敷の植物. 千生誌 55(1): 9-16.

(谷城勝弘)



44メッシュ
最新記録 2002年

D タカネマスクサ カヤツリグサ科 一般保護

Carex planata Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。森林または林縁の湿地に生育する。風媒で、重力散布。葉は単葉で互生。果胞は著しく扁平、上部まで狭い翼あり。葉幅1.5～2.5mm。県内では6月以降完熟となり、ほかのスゲ属より遅い。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】県中南部の丘陵域の谷間や疎林の湿所に生育する。県北台地、安房丘陵域には分布が知られていない。

【保護対策】湿地や落葉樹を主体とする疎林の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 412 / 新千植誌 1975 : 458 / 千植誌 2003 : 829,804.

(谷城勝弘)



25メッシュ
最新記録 2008年

D タガネソウ カヤツリグサ科 一般保護

Carex siderosticta Hance

【種の特性】多年生草本。北部台地では北側の斜面に生育する傾向がある。葉幅広く、単葉で互生。風媒で重力散布。根茎は横走する。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内全域に点在する。葉が無毛のケナシタガネソウ form. *glabra* Ohwi et T. Koyama が松戸に記録される。

【保護対策】アズマネザサ等の大型植物の侵入による衰退箇所が増えている。刈り取り管理を継続し大型種の生育を抑えることが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 843.

(谷城勝弘)



42メッシュ
最新記録 2008年

一般保護

D オニナルコスゲ カヤツリグサ科 一般保護

Carex vesicaria L.

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で、水散布。低地遺存ブナ帯要素。[HH]

【分布】北海道・本州。朝鮮、サハリン、シベリア、北米。

【県内の状況】利根川流域とその水系及び栗山川流域の湿地、河川敷に生育する。多古光湿原に大きな群落がある。近年は放置によってヨシが繁茂して衰退の著しい箇所が急増している。

【保護対策】刈り取り、野焼きなどの管理を継続し、ヨシの繁茂を抑えることが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 : 458 / 谷城勝弘 1987 栗山川中流部の湿原. 千葉県自然環境保全地域等適地調査報告書 : 265-291 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原. 千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 7-56 / 千植誌 2003 : 854,848.

(谷城勝弘)



D イヌクグ カヤツリグサ科 一般保護

Cyperus cyperoides (L.) O.Kuntze

【種の特性】多年生草本。草地に生える。葉は単葉。小穂は多数で花軸に開出してつく。茎の基部は肥厚する。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州(関東南部、近畿南部、中国地方)・四国・九州・琉球。朝鮮南部、中国、インドネシア、インド、アフリカ。

【県内の状況】県南部の沿岸域の草地に点在する。個体数は少ない。

【保護対策】沿岸域の草地を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 894,886.



D ヒトモトススキ カヤツリグサ科 一般保護

Cladium chinense Nees

【種の特性】大型の常緑多年生草本。海岸性(湿地性または抽水性)。葉は単葉で互生。風媒で付着散布。葉は剛強で、歯牙あり。小穂は著しく多数。ヒトモトススキ群集。[HH]

【分布】本州(関東南部以西)・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレシア、オーストラリア。

【県内の状況】太平洋側の沿岸と富津以南の東京湾沿岸に記録がある。現在生育が認められる所は少ない。海水の出入りする河口部の湿地や

潟湖の岸辺に生育するが、そのような場所での自然環境の改変が近年は特に著しい。特異的な生育地としては海上町前野の崖地や横芝光町の乾草沼などのかつて海岸線域となっていた時代の遺存と判断されるものがある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 413 / 新千植誌 1975 : 458 / 千植誌 2003 : 857,849.

(谷城勝弘)



D カンエンガヤツリ カヤツリグサ科 一般保護

Cyperus exaltatus Retz. var. *iwasakii* (Makino) T.Koyama

絶滅危惧II類 (VU)

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂は著しく扁平。鱗片の先端は凸形反曲し、長さ 1.7 ~ 2.2mm。果実は広楕円形。風媒で水散布。[Th]

【分布】本州。

【県内の状況】利根川河畔および印旛沼、手賀沼周辺の低湿地に分布する。利根川沿いの造成湿地には大群落をなすことがある。両総用水の流路沿いにも小群落が認められることがある。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。群生地については、定期的に表土の攪乱や刈り取りなどの管理を行って群落の遷移を抑えることが望ましい。

【文献】伊藤至 1964 佐原大橋(茨城県側)付近にカンエンガヤツリ採集。植物採集ニュース 12 : 5-6 / 伊藤至 1964 千葉県のカンエンガヤツリ. 千生誌 14(2) : 50-52 / 新千植誌 1975 : 459 / 千植誌 2003 : 897,891.

(谷城勝弘)



D シロガヤツリ カヤツリグサ科 一般保護

Cyperus pacificus (Ohwi) Ohwi

【種の特性】一年生草本。単葉で互生。小穂はやや披れる。果実は長楕円形で稜は狭い翼があり鋭形。風媒で、水散布。[Th]

【分布】北海道・本州。朝鮮。

【県内の状況】低平地の河川の岸边、田の畦、表土攪乱後の湿った場所などに生える。干上がったため池の池底に一斉発芽することもある。

【保護対策】遷移の初期群落の構成種であり、定期的に表土を攪乱するなどの人為的管理を行うことが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 896,889.

(谷城勝弘)



D スジヌマハリイ カヤツリグサ科 一般保護

Eleocharis valleculosa Ohwi 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。地下走出枝あり。茎は縦に走る条が明らかで、全体に灰緑色を帯びる。果実の2-3倍の長さの刺針をもつヒゲスジヌマハリイ form. *setosa* (Ohwi) Kitagawa は九十九里平野に多い。[HH]

【分布】本州・九州。確認の記録は少ない。朝鮮、中国。

【県内の状況】県内では初め成田市竜台の利根川河川敷で確認された(1989.4.22, 谷城勝弘 CBM-BS-136149)。その後、両総用水の導水路沿いの各地の休耕地や水田で見出された。剛強な根茎を伸ばして繁殖するので、水田の強害草となる危険性がある。

【保護対策】水田に侵入しないように管理する。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録 : 121 / 谷城勝弘 1991 調査会目録 : 176 / 谷城勝弘 1992 調査会目録 : 168 / 谷城勝弘 1993 調査会目録 : 252 / 谷城勝弘 1994 調査会目録 : 122 / 谷城勝弘 1995 調査会目録 : 118 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物・袖ヶ浦の植物 : 22-44 / 千植誌 2003 : 867,872.

(谷城勝弘)



D ヒメハリイ カヤツリグサ科 一般保護

Eleocharis kamtschatica Komarov

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。地下走出枝あり。茎は径1~1.5mm。小穂は暗赤紫色。果実は黄褐色で、刺針は下向き粗造。風媒で、水散布。[Th]

【分布】北海道・本州・九州。サハリン、カナダ、アラスカ、北米。

【県内の状況】利根川流域と九十九里平野の低湿地に点在する。九十九里平野域には刺針が退化したクロハリイ form. *reducta* Ohwi が多い。

【保護対策】大型草本の刈り取りを継続するとともに定期的に表土を攪乱させるなどの遷移を抑える管理を行うことが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 415 / 新千植誌 1975 : 460 / 千植誌 2003 : 867,871.

(谷城勝弘)



D ノテンツキ カヤツリグサ科 一般保護

Fimbristylis complanata Link. form. *exaltata* T.Koyama

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。無毛。鱗片は長さ3mm。柱頭3。ヒメテンツキ *F. autumnalis* に似るが、全体に大型で硬い。風媒で、風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、台湾。

【県内の状況】県中北部の低湿地に多数の生育地が知られていたが、本種の生育に適した湿地が急減し、既知産地の多くは消滅した。成東東金食虫植物群落に多産する。長生村藪塚周辺の湿地、銚子市白石町の湿地、海上町蛇園の崖湿地、光町宮川の乾草沼に少数個体が現存する。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 415 / 新千植誌 1975 : 461 / 千植誌 2003 : 864,852.

(谷城勝弘)



一般保護

D イソヤマテンツキ カヤツリグサ科 一般保護

Fimbristylis sieboldii Miq. ex Franch. et Sav.

【種の特性】多年生草本。潮しぶきのかかる磯、浜の湿った場所に生育する。葉は単葉で全縁。全体に硬く、花序は枝分かれせず、~ 25個の小穂をつける。鱗片は細毛がある。風媒で水散布。[H] イソヤマテンツキ群集

【分布】本州（千葉県、石川県以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】沿岸部に点在する。基盤の安定した磯に生育することが多いが、海岸造成に伴って攪乱された砂地に群生することもある。

【保護対策】海岸域の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 865,870.

(谷城勝弘)



D ヒンジガヤツリ カヤツリグサ科 一般保護

Lipocarpa microcephala (R. Br.) Kunth

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。全体に小型。集合した小穂が品の字に似る。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。台湾、朝鮮、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】県中北部に分布し九十九里平野に多産する。田の畦、休耕田など定期的な人為的攪乱の及ぶ箇所に多く生育する。遷移の初期群落の構成種である。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 860,851.

(谷城勝弘)



D アオテンツキ カヤツリグサ科 一般保護

Fimbristylis verrucosa Makino

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂は丸い。果実は長楕円形で表面に複数の突起をもつ。風媒で水散布。[Th] アオテンツキ群集

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】河畔や池沼の岸边、田の畦などに生える。干上がったため池の池底や表土攪乱後の湿地に大発生することもある。生育地では消長が顕著である。

【保護対策】池沼、河川などの生育可能な環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 417

／新千植誌 1975 : 462 / 谷城勝弘 1995 印旛沼を中心とする地域のテンツキ属植物。印旛沼 - 自然と文化 - : 19-24 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物。袖ヶ浦市の植物 : 22-44 / 千植誌 2003 : 861.

(谷城勝弘)



D オオフトイ カヤツリグサ科 一般保護

Schoenoplectus lacustris (L.) Palla

【種の特性】多年生草本。湿地性または抽水性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。フトイに似るが、根茎はより太く、赤みが強い。柱頭は3。[HH]

【分布】本州。

【県内の状況】九十九里平野の海跡湖周辺（横芝光町乾草沼及び坂田池、茂原～長生の湿地帯）袖ヶ浦市等に確認さる。過去のフトイ *S. tabernaemontani* Gmel の記録にはオオフトイが混同されている可能性がある。分布状況の詳細は今後の精査にまたれる。

【保護対策】生育地の環境（湿地）を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1992 調査会目録 : 172 / 谷城・小野沢 1994 坂田城跡の自然。千葉県自然環境保全学術調査報告書 / 谷城勝弘 1995 調査会目録 : 118 / 谷城勝弘 1996 調査会目録 : 118 / 谷城勝弘 1997 袖ヶ浦市の水辺と湿地の植物。袖ヶ浦市の植物 : 22-44 / 千植誌 2003 : 879,874.

(谷城勝弘)



一般保護

D タタラカンガレイ カヤツリグサ科 一般保護
Schoenoplectus mucronatus (L.) Palla
 var. *tataranus* (Honda) Kohno, Iokawa et Daigobo

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。茎は狭い三翼があり、果実に横しわがある。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州。

【県内の状況】県内では初め我孫子市布佐新田で確認された(谷城 1988.10.2, CBM-BS-133825)。その後県北部の休耕田などを中心に複数地点で生育が確認されてきたが、消滅箇所が相次ぎ現存する所は少ない。



【保護対策】生育環境を維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録：130 / 谷城勝弘 1991 調査会目録：186 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：172 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：254 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原・千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56 / 千植誌 2003：882,875。

(谷城勝弘)

D エビネ ラン科 一般保護
Calanthe discolor Lindl. 準絶滅危惧 (NT)

【種の特性】中型の常緑多年生草本。根茎に偽鱗茎が連なって、枝分かかれし、複数の株が集まっていることが多い。葉は単葉で互生。花は4～5月に咲く。花被片は赤褐色で、唇弁のみ白色～淡紅色であるが、色調には変異が多い。虫媒で、風散布。[G] ブナ群綱。

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】ほぼ全域に分布するが、沖積低地にはほとんど見られない。かつては竹林、スギ林の下などに多かったが、園芸用の選択採取で著しく減少した。

【保護対策】自生株の採取・栽培・販売などをやめるべきである。園芸的に栽培されているものは、園芸的見地からの選択が働いており、また他のエビネ属との交雑が進んでおり、このような株を野外に植え戻すことは、本来の地域的な遺伝子組成を破壊することにつながるため、栽培品の野外への植え戻しは極めて慎重に行うべきである。

【文献】千植誌 2003：920, 909。

(大場達之)



D ノグサ カヤツリグサ科 一般保護
Schoenus apogon Roem. et Schult.

【種の特性】多年生草本。沿海地性(内陸では斜面湿地性)。葉は単葉で互生。果実は球形で白色。基部と根は著しい赤紫色。風媒で、風散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。マレ・シア、オーストラリア。

【県内の状況】主に県北の太平洋側の向陽地を中心に分布する。局所的に少数個体が生育することが多い。海上町前野の崖湿地には多産する。

【保護対策】刈り取りによる管理を継続し、草地的な環境を維持することが望ましい。



【文献】新千植誌 1975：462 / 千植誌 2003：860,851。

(谷城勝弘)

D キンラン ラン科 一般保護
Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume 絶滅危惧 II 類 (VU)

【種の特性】中型の多年生草本。葉は単葉で互生。花は5月初めに咲き黄色で、花被片は平開する。キンラン、ササバキンランなどの同属の他の種類に比べて、全体が大きく、葉の幅が広く、緑の色が濃い。虫媒で、風散布。ブナ群綱。[G]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】生育地における個体数の消長は、かなり激しく、過去には非常に密度の高い群落が観察されている(袖ヶ浦市)。コナラの二次林などの夏緑林に生えるが、最近都市の植栽されたスタジイ、マテバシイ、クロマツなどの林に生えることが観察されている。

【保護対策】鑑賞目的の採取は慎みたい。生育には共存する菌類が必要で、庭に植えても育たない。

【文献】千植誌 2003：914, 904。

(大場達之)



一般保護

D ミヤマウスラ ラン科

一般保護

Goodyera schlechtendaliana Reichb. f.

【種の特性】常緑多年草。尾根筋の林などに見られる。茎は地表を這い、先端が立ち上がって葉叢をつくる。葉は網状の白斑がある。葉の集まりの中央から、開出毛の多い花茎を出し、秋にやや紅色を帯びた白色の花をつける。他のシュスラン類より乾いた照葉樹林、モミ林などの下に生える。[Ch]

【分布】北海道・本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】沖積低地を除いて全県的に分布し 300 件近い記録がある。常緑で特徴的な白い網目斑のある葉が目につきやすいため記録数が多いこともあると考えられる。

【保護対策】観賞用などの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 919, 907.

(大場達之)



D ヨウラクラン ラン科

一般保護

Oberonia japonica (Maxim.) Makino

【種の特性】常緑の小形多年草で樹幹あるいは岩面に着生。カヤ、イヌマキ、ウメなどに着生することが多い。葉は多肉で密に集まって2列につく。花は橙黄色で小さく、長さ5 cm ほどの垂れ下がった花茎に密につく。虫媒で、風散布。[E]

【分布】本州(宮城県以南)・四国・九州・琉球。

【県内の状況】千葉県の着生ランとしては最も北まで分布する。かつてはイヌマキの生け垣などに普通に見られたが、環境の乾燥化、大気汚染などで少なくなっている。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】千植誌 2003 : 919, 908.

(大場達之)



D コクラン ラン科

一般保護

Liparis nervosa (Thunb. ex Murray) Lindl.

【種の特性】常緑の多年草。葉は2~3枚で、5本の凹入する並行脈がある。花は7~8月に咲き花被片は淡緑色で、先の方が紫褐色を帯びる。虫媒で風散布。[H]カクレミノースダジイ群目

【分布】本州(茨城県以南)・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】全域に分布するが、南部に多い。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。量的には多いが、地域の物産店などで山採品を売っていることが多く、衰退する可能性がある。

【文献】千植誌 2003 : 920, 908.

(大場達之)



一般保護

種子植物

RH 保護参考雑種

参考資料

自然保護における雑種の問題 — 種子植物の場合 —

自然界において種間あるいは属間の交雑種はしばしば観察されているが、それが自然保護上重要な種類としてレッドデータブックに登載されることは稀である。

自然保護の観点からは雑種は、本来の自然のフロラ構成を乱す有害な存在とされていることが多い。特に外来生物が、近縁の土着の種との間に広範に雑種を形成しているような場合、たとえばタンポポ属における在来種と外来種との広範かつ急速な雑種形成は、地域固有のフロラ構成を破壊するものと認識されている。人為的環境攪乱によって、本来出会うことの稀な、地理的あるいは生態的な隔離によって隔てられていた近縁な種類が、人為的攪乱によって接触し、雑種が形成される例は多い。特に土木工事の後処理としての緑化のために、近隣諸国から種子などを多量に移入した結果、遺伝子汚染が起きている例などがよく知られている。

一方、エンレイソウ属、イカリソウ属、スミレ属、シダ類などのように、研究者にとって雑種の記録が重要視されている植物群もある。このなかには、本来地理的に隔離されていた種類が分布圏の境界付近で自然に雑種を形成している場合もある。伊豆諸島を中心とした地域に固有な種類が、房総半島・三浦半島・伊豆半島などで、その祖先種あるいは近縁種との間に広範囲に雑種を形成している例は、キブシとハチジョウキブシ間のエノシマキブシであるとか、ハチジョウススキとススキ間のエノシマススキなど、極めて多い。無論、人為的環境変改が、そのような雑種形成を加速していることもあるが、自然条件下でも見られる事象である。

これらの場合、雑種が研究者の重要なテーマとなっていることもあり、研究上重要な存在であることは間違いはない。

しかし、それぞれの地域の自然の固有性（多様性）を守るべき自然保護上はどうであるかという、次の三つの場合があるであろう。

1. 生物多様性維持のために有害で、排除すべき場合。
2. 特に排除すべき理由も、とくに保護上重要ともいえない場合。
3. 自然保護上重要で保護すべき場合（たとえば両親が失われて雑種のみが生存して両親の遺伝子を残しているような場合など。）

環境省および日本の都道府県や市などのレッドデータブックにおいて雑種を取り上げた例は極めて少ない。手元の資料を見る限りでは、断片的にリストに登載されている例（たとえば北海道のレッドリストにおけるエンレイソウ類の2例）を除くと、長野県のレッドリストに参考資料として希少雑種の欄が設けられ85種がリストアップされている例のみである。

千葉県の植物レッドリストでは、雑種を他の種類と区別することなくリストアップしてきたが、将来、自然保護の条例などを整備する場合に、雑種を保護すべき根拠、保護の方策などについて検討すべき必要があると考えたが、今回の改訂では十分に論議を深める時間が得られなかったので、3のケースに該当すると考えられる植物を保護参考雑種として記録し、今後、保護上の地位について検討を進めることとした。

（大場達之）

RH ボウシュウネズ ヒノキ科

保護参考雑種

Juniperus rigida x *taxifolia* var. *lutchuensis*

【種の特性】ネズとオオシマハイネズの雑種と推定される。この組み合わせの雑種は国内に他に報告がない。

【分布】鋸南町の海岸近くのネズとオオシマハイネズの混生する岩場にまれに見られる。

【県内の状況】現在まで上記の1地点のみに知られる。

【保護対策】分布が限られており、開発等により生育地が失われると絶滅する可能性がある。生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 79-80, 83.

【写真】1998.4.10 鋸南町 大場達之.

(齋木健一)



RH サクラオグルマ キク科

保護参考雑種

Inula x *yosezatoana* Makino, nom. nud.

【種の特性】中形の夏緑多年草。オグルマとホソバオグルマの雑種と推定され中間的な形態を持っている。牧野富太郎が、佐倉市で與世里盛春の採集した標本を元に命名したが、正式な発表がないまま、図鑑などに図説している。タイプの採集地は高崎川と鹿島川の合流点付近と推定される。

【分布】オグルマとホソバオグルマの分布している地域に広く見られるものと考えられる。ホソバオグルマと混同されている場合が多い。

【県内の状況】佐倉市では広い範囲で採集されている。最初の採集地と考えられる佐倉市の高崎川、鹿島川の合流点付近は道路建設と開発でほとんど絶滅している。

【保護対策】

【文献】牧野富太郎・前川文夫・原寛・津山尚 1955 牧野日本植物図鑑増補 : 1096 / 前川文夫・原寛・津山尚編 1961 牧野新日本植物図鑑。635 / 大場達之 2000 佐倉市の維管束植物相。佐倉市自然環境調査報告書。11-21 / 千植誌 2003 : 613, 608.

【写真】1999.8.4 佐倉市 大場達之.

(大場達之)



RH ヒメスガモ アマモ科

保護参考雑種

Phyllospadix iwatensis x japonica

【種の特性】岩礁海岸の潮干帯最下部に生える多年生草本。分岐した強い根茎で岩面に固着する。スガモとエビアマモの雑種と推定され、生育地周辺には両親と目されるスガモとエビアマモが生育するが、生育環境は両親種が潮下帯最上部に生育し、干潮時にも干出ししないのにもかかわらずヒメスガモはより高い場所を占めている。葉はスガモやエビアマモより短く20～40cmで幅0.1～0.3cmで3～5脈があり、葉縁には鋭い鋸歯とリボン状透明の縁が混在し、母種の中間の形質を持っている。海水水媒で、海水水散布。[HH]



【分布】本州（千葉県（銚子市）と茨城県）。

【県内の状況】銚子の海鹿島と外川に見られる。

【保護対策】生育環境を保存する。

【文献】宮田昌彦・大場達之 2007 日本海草図譜 10,42-43.

【写真】2004.5 銚子市 大場達之

（宮田昌彦・大場達之）



RH オオササエビモ ヒルムシロ科

保護参考雑種

Potamogeton x anguillanus Koidz.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。葉身基部は茎を半周ほど巻き、葉縁は波打つ。湖沼に生える。結実は極めて稀。[HH]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】1990年に手賀沼畔の造成池に発生したが、植生の遷移と水質の変化により数年後には消滅した。かつての水質が良好に維持されていた時代の手賀沼に生育があったものと思われる。本種は雑種起源の可能性が高い。

【保護対策】生育地の水質を良好に維持することが望ましい。

【文献】角野康郎 1994 日本水草図鑑：40 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：122./ 千植誌 2003：669.

【写真】1990.7.12 沼南町 谷城勝弘。

（谷城勝弘）



保護参考雑種

RH インバモ ヒルムシロ科

保護参考雑種

Potamogeton x inbaensis Kadono

【種の特性】多年生草本。湖沼性。葉は単葉で互生～対生。風媒で水散布。ササバモとガシャモクの雑種で両者の中間的形質をもつ。葉柄の長さ1～3.5cm、葉身は長さ5～15cm。結実しない。[HH]

【分布】本州(千葉県印旛沼、手賀沼)・九州。

【県内の状況】1980年に印旛沼で採集された標本に基づいて記載された(角野1983)。同時に発表された印旛沼産のヒロハノササバモ(*Potamogeton inbaensis nm. pseudomalainanus* Kadono)は両親がインバモと共通の自然雑種である。印旛沼、手賀沼で記録されるが、現在は沼本体に生育がない。沼岸での工事や実験堀の創出により埋土種子による発生がしばしば確認される。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】角野康郎 1984 ヒルムシロ属同定の実際。水草研会報 16:6-11 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑:37 / 谷城勝弘 1995 調査会目録:



121 / 千葉植誌

2003:669,663.

【写真】2007.6.30

印旛村吉高

谷城勝弘

(谷城勝弘)



RH スナシバ イネ科

保護参考雑種

Zoysia x hondana Ohwi

【種の特性】多年生草本。海岸に生育。シバ(小穂3～4mm)に似るが、小穂は4～5mmとシバより大きく、5～7mmあるナガミノオニシバよりは小さい。花序が葉鞘から抜き出るのでオニシバとも異なる。大井次郎によればシバとオニシバの雑種とされる。海岸の砂浜に生育する。

【分布】本州(神奈川県平塚市(基準産地)・福島県四ツ倉・千葉県)

【県内の状況】鴨川市(旧安房郡東條村)で浅野貞夫が採集した標本の記録のみであったが、2001年に匝瑳市でも採集された。

【保護対策】開発により残り少なくなった自然海岸を保全することが望ましい。



【文献】奥山春季 1937 植物研究雑誌 13:35-36 / 木村陽子 2000 スナシバ再発見と千葉県のシバ属. 千資料 18:137-138 / 千植誌 2003:761,752.

【写真】2001,6.10 匝瑳市 大場達之

(木村陽子)



RH ムジナクグ カヤツリグサ科

保護参考雑種

Carex x takoensis Endo et Yashiro

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。ムジナスグとオオクグの雑種で両者の中間的性質をもつ。果胞には少毛がある。
[HH]

【分布】本州（千葉県）、多古町中村新田で発見され命名された（Endo & Yashiro 1995）。

【県内の状況】多古町中村新田及び横芝光町篠本にまたがる多古光湿原には本雑種の両親種のムジナスグ、オオクグが生育しており、それらの中間的形質をもつムジナクグが広い範囲で確認される。元は1株であったものが、根茎による栄養繁殖を続けて生育範囲を拡大したものである。個体の一部は横芝光町坂田湿性植物園に移植されている。

【保護対策】多古光湿原には保護上重要な種類が複数生育している。古くからヨシの刈り取り続けられてきたが、近年は刈り取りに従事する人がいなくなった。そのため枯れ草が堆積して乾燥化が進むと共にセイタカアワダチソウが繁茂し、種組成が貧弱になりつつある。定期的な刈り取りを継続して複数の希少な種が消滅しないように維持することが重要である。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録：167 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原・千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：249 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：117 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物・新版千葉県の生物：37-50 / Endo & Yashiro (1995) J. Jap. Bot. 70 : 273-279 / 千植誌 2003 : 855,848. / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物・千葉県自然環境保全学術調査報告書・千葉県環境生活部自然保護課 7-29.

【写真】1989. 多古町 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



RH ヒメシカクイ カヤツリグサ科

保護参考雑種

Eleocharis x yezoensis H.Hara

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。風媒で水散布。シカクイとハリイの雑種で、両者の混生地に稀に生える。小穂は細長く伸び、果実はほとんど結実しない。[HH]

【分布】北海道・本州。

【県内の状況】県北部の谷津のシカクイ、ハリイの混生地で確認されている。成田市、横芝光町の標本がある。シカクイの痩せた個体と誤認されやすいため、精査すれば他にも複数の生育地が判明するものと思われる。

【保護対策】現生育地の環境を良好に維持、管理することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1991 調査会目録：177 / 千植誌 2003 : 868.

【写真】2003.7.27 横芝光町鳥喰新田

(谷城勝弘所蔵標本)

(谷城勝弘)



RH ナガボトネテンツキ カヤツリグサ科

保護参考雑種

Fimbristylis x itaru-itoana T.Koyama

【種の特性】小型の一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。トネテンツキとヒメテンツキの雑種。小穂は長卵形～やり型。ヨシ群網。風媒で、水散布。[Th]

【分布】本州（千葉県）

【県内の状況】伊藤至が東浪見で発見したテンツキ属としては初めての雑種で、小山鉄夫により命名された（小山鉄夫 1955）。基準産地の東浪見には個体数も相当数あり、果実の結実も良いと記されている。上総八種での採集例もある（1936.10.11, S.Okuyama, CBM 該当標本なし）。しかし、その後は生育が確認されていない。トネテンツキ、ヒメテンツキの両者が混生して生える場所は複数見られるので、今後注意して調査すれば再発見される可能性はある。

【保護対策】旧生育地には再度発生する可能性もあるので、良好な自然環境を維持することが望ましい。遷移の初期群落中に発生する種で、群落の遷移とともに消滅する特性があるため、今後生育が確認された場所は適切に管理していくことが望ましい。

【文献】小山鉄夫 1955 日本産カヤツリグサ科の新植物。植物研究雑誌 30(5) : 1-9 / 小山鉄夫 1958 カヤツリグサ科について。千植誌 1958 : 172-194 / 新千植誌 1975 : 461. / 千植誌 2003 : 861.

【写真】東浪見 国立科学博物館所蔵標本。



(谷城勝弘)



RH サンカクホタルイ カヤツリグサ科

保護参考雑種

Schoenoplectus x triangulatus (Roxb.) Sojákx *hotarui* (Ohwi) Holub

【種の特性】一年生または多年生草本。単葉。茎の横断面は三角形。カンガレイとホタルイの雑種。よく結実する。風媒で、水散布。[HH]

【分布】本州・九州。

【県内の状況】佐倉市寺崎（1990.10.6, 谷城勝弘, CBM-BS-92062）と長生村宮成新田（1992.8.13, 谷城勝弘, CBM-BS-51907） 藪塚（1993.9.4, 谷城勝弘, CBM-BS-139677）の標本がある。カンガレイとホタルイの多産箇所に混在して少数個体が確認されることがある。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 879,875.

【写真】2003.7.27 横芝光町 谷城勝弘.



(谷城勝弘)



保護参考雑種

Schoenoplectus x igaensis (T. Koyama) Hayasaka & H. Ohashi

【種の特徴】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。ヒメホタルイとホタルイの雑種。ヒメホタルイに比べて根茎は短く、茎は接近してつく。ホタルイに比べて小穂は狭く細長い。風媒で水散布。[HH]

【分布】本州。

【県内の状況】長生村宮成新田、印旛村蕪和田で確認され、標本が得られている。長生村宮成新田ではヒメホタルイとホタルイの混生する休耕地に混生する。印旛村蕪和田では、造成湿地にヒメホタルイとホタルイが多数生

育し、翌年にイガホタルイが2個体発生した。なお、県内にはヒメホタルイとホタルイが同所的に生育するところは極めて稀である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1994 調査会目録：122 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：118 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千生誌 48(1)：6-22 / 千植誌 2003：882,875.

【写真】2003.8.17 長生村 谷城勝弘.

(谷城勝弘)



